特234
987

0038953000

0038953-000

特２３４－９８７

非常時局下に闘ふ愛国陣営

帝国新報社・著

帝国新報社

昭和１１

AGH

特234
987

特234
987

非常時
局下に
國陣營
鬪ふ愛

帝國圖書館藏

此の小編著を愛國戰線に殪れたる先覺戰士の忠魂に謹みて捧ぐ

帝國新報社同人

序

二・二六事件後、次第に世間では愛國運動は此の事件を契機に下火となり遂に地を拂ふに至るのではないかと視る人々が多かつたようだ。實際中には二三解消せる團體もあつて此世間の觀察の誤りでない事を立證した如き傾向さへないではなかつた。然し種々なる社會條件から消長盛衰はあつても愛國運動が根を絶ち愛國團體が姿を消す事は絶對に有り得ない。我が皇國日本は『無窮生命』であり而して如何なる場合にも此祖國に殉せんとする臣民の熱情が何處にか存するからである。

七月廿一日、卽ち二・二六事件戒嚴令解止の直後、帝國新報紙上に我が社各部の諸君が協力『非常時局下に闘ふ愛國陣營』を掲載し始めた時、世論に對する論より證據の抗辯として潛かに快心の微笑を禁んじ能はなかつた。爾來紙上紹介團體八十八更に本編に於いては之が內容を訂正すると共に二團體を追加九十團體を擧げて居るが『非常時局下に闘ふ愛國陣營』の語感に制限すればまづ之を網羅し得たものと云へよう。各團體及び其主要人物の思想的傾向並びに過去の主なる戰歷を叙述せるは其團體が非常時局下に今後如何に闘ふかの動向を多分に示唆するものであり、此種編著中稀に見るもの、大方の參考となり得た事を確信する。非常時局に直面愛國團

體に關心を有たるゝの士に呈する所以である。

尙ほ本編著に就いては、我が社政治部三宅正夫、社會部西谷實、熊谷忠男、思想部原義一の諸君が努力せるを特記してをく。

皇紀二千五百九十六年十一月

帝國新報社々長　池田　弘

凡例

一、本書の配列順は『いろは順』に依り、更に各部門に於ける順序は當該團體の創立年月日に基準することゝしました。

二、收錄團體數は九十、これが內譯は單一團體八十六、各派聯合團體四でありますが、單一團體中その外廓團體或ひは指導機關又はその實行機關を特に附書きしたるもの十五に達してをります。是等を前記の單一團體九十の上に加算する時は收錄團體總數實に百〇五となります。

三、今參考までに收錄團體數をそれ〴〵の所在地區別に表示しますと左表の通りであります。

（割弧內は附書きの團體を省略したる數字）

區名	團體數	區名	團體數	區名	團體數	區名	團體數
麴町	二五(二〇)	赤坂	九(八)	本所	一	淀橋	三
神田	三	四谷	三	深川	一	中野	三
日本橋	二	牛込	六	品川	一	杉並	四(二)
京橋	二(一)	小石川	一	目黑	二(一)	豐島	一
芝	一六(一三)	下谷	二(一)	世田谷	二(一)	滝野川	一
麻布	二	淺草	一	澁谷	九	荒川	二
						足立	一
						城東	一
						近郊	一
						合計	一〇五(九〇)

四、本書收錄外にも尙ほ有力團體のあることは之れを否むわけにはまゐりませんが、それ等の活動は可及的に各派聯合四團體の項において綜合記述することを忘らなかつたことを玆に明らかになし諒承を求めたいと存じます。

五、目下結成準備中の各派聯合團體もありますが未だ創立前でもあり、又その順調な發展を祝福する意味からも、之れを揭げることを遠慮致しました。御諒察を乞ふ次第であります。

——編者識——

本文目次

（頭書の假名文字は「部門」表示）

（い）維新會……一
維新寮……二
維新倶樂部……四
（は）白王社……五
（に）日本農民組合……七
日本勞働組合總聯合
（附・愛國勞働組合全國懇話會）……八
日滿經濟調査局……一〇
日本國民軍……一一
日本産業勞働倶樂部
（附・石川島自彊組合）……一三
日本精神協會……一五
日本産業軍……一七
日本精神宣揚會……一八
（と）東電愛國同盟……一九
（ち）地湧日本社……二一
（ち）直心道場……二三
（り）立憲革新青年黨……二六
（か）汗山莊……二八
恢弘會……三〇
回天時報社（附・滿洲問題解決同盟）……三一
鶴鳴莊……三六
（よ）洋々會……三八
（た）大化會……四〇
（だ）大日本倶樂部……四二
大日本青年聯盟……四四
大日本錦旗會……四六
大日本經國聯盟……四八
大日本護國青年黨……四九
大日本愛國義團……五〇

對外同志會
（附・滿洲問題舉國一致各派聯合會）……五二
大日本生產黨……五三
大日本皇國會（附・純正經濟研究所）……五六
大日本青年同志會……五七
對外問題解決青年同盟……五九
大日本青年黨……六一
（そ）祖國會（附・學苑社）……六四
綜合國策研究所（附・帝國憲法學會）……六五
（な）內外更始倶樂部……六八
南町塾……七〇
（む）無名士倶樂部……七二
（け）健國講演會……七四
（げ）原理日本社（附・シキシマノミチ會）……七六
建國會……七八
建武義會……八〇
（こ）黑龍會……八二
國風會……八五

國粹大衆黨（附・國粹義勇飛行隊）……八七
皇國血戰團……八九
皇明會……九一
皇道會……九三
國民協會……九四
小塚原烈士常行會……九六
皇道經濟研究所……九七
（て）天地會……九九
（て）天晴地明民衆經濟學會……一〇〇
傳劍莊……一〇一
（あ）愛國社……一〇四
愛國學生聯盟……一〇六
愛國青年聯盟……一〇八
愛國法曹聯盟……一一〇
愛國勞働聯盟……一一三
愛國革新聯盟……一一三
愛國勞働農民同志會……一一五
愛國政治同盟
（附・日本中小商工聯盟、皇國農民自治聯盟）……一一六
（さ）三六倶樂部（附・三六社）……一一八
（き）勤王聯盟……一二〇
勤勞日本黨……一二三
勤皇護國同志會……一二三
（め）明德會……一二五
明倫會……一二七
（し）辛未同志會……一二〇
新日本國民同盟……一二二
昭和義塾……一二四
新日本建設同盟（附・皇化聯盟）……一二五
尺貫法存續聯盟……一二六
新日本同志會……一二八
神道有志聯合會……一二〇
新興亞細亞青年同盟……一二一
新日本海員組合（附・國體擁護海上同志會）……一二二
眞日本建設社（附・眞日本建設同盟）……一二四
神政社……一二六
（せ）政教社……一二七
聖日本學會……一二〇
旋風社……一二二
洗心莊……一二四
青年運動社……一二五
○各派聯合團體
對外硬各派同志會……一二七
機關說撲滅同盟……一二九
國體明徵達成聯盟……一二四
國體擁護聯合會……一二〇
○追加（た之部）
對支同志聯合會……一二八

非常時局下に闘ふ愛國陣營

——（いろは順）——

い之部

維新會

創立　昭和九年八月
所在地　足立區千住元町一四
主要人物　代表竹本信一、田中近藏、市原壽、曳地三郎、新妻刀丸、鈴木正、關根喜美雄
機關紙　維新（月刊）

代表者竹本氏以下熱情と闘爭心に燃ゆる青年達である。津久井、赤松氏等の青年日本同盟を脱退し新に本會を創立したのも、之等幹部と議合はなかつたに基因すると云はれてゐる。日本主義運動に沒入するものは先づ我が一身の清淨を堅持なさねばならぬとの建前を持してゐるため、團體行動は所謂華々しさはないが質實潔癖且つ剛健で小粒ではあるがピリッとした處を見せてゐる。されば機關紙「維新」の筆陣はその信ずる所を卒直大膽に論じ、時に曾ての同志の批判の如きも甚だ露骨を極めてゐる。

その綱領は

綱領

我等は日本精神の宣揚を通じて第二維新の實現を期す

といふ直截なものである。目下は表面的な運動をしてゐないが、昨年國體明徴運動が捲き起つた際、日本塾、皇政會等と結んで政教維新聯盟を造り講演に出版物に活潑な運動ぶりを見せた如く何時でも運動隊形を整へる準備はある。最近機關紙の筆禍問題を惹起し田中氏等不慮の災厄を受けた事は人の知る所であるが、本會としてはまことに些細な事件であるとしてゐるので其の運動勢力には影響がないものと見てよい。前記の如く會員は純情の青年のみであり、其處に熱情と潑剌が期待される。

維新寮

創　立　昭和十一年二月十一日

所在地　淀橋區戸塚町一ノ五〇八

主要人物　影山正治、毛呂清輝、中村武彦、飯島與志雄、牧野晴男

神兵隊の精鋭影山、毛呂、中村三氏及び志を同じふする同窓國大出身の飯島、牧野兩氏都合此の五氏の共同寮舍共同事務所且又共同の修養道場である。影山、毛呂、中村の三氏は昨冬孰れも責付或は執行停止によつて假出所、爾來互に輕擧妄動を愼み戒心自肅を信條第一とし人と語つては言語を謹み出でゝは擧措を正し、ひたすらに鑑て開かるべき公判に備ふる處あつたが、此の公判開始前に於ける寸陰を惜み、往再日を送るは君國に奉ずる大丈夫の所以に非ずとして飯島、牧野兩氏と共に去る二月十一日紀元の佳節をトして本寮を起したのであつた。今その寮誓並に寮規を見やう。

寮誓

一、我等は皇道による皇國維新を期す
一、我等は皇道による亞細亞維新を期す
一、我等は皇道による世界維新を期す

寮規

一、本寮の同志は皇士たるの大自覺に基き皇國の眼目を以て任じ一死以て皇運扶翼の聖業に邁進すべし
一、本寮の同志は理論と實踐との大乘的合併を期し口舌を弄せず私心私用を去り血盟以て維新の大義に殉ずべし

一、本會の同志は一切を神意に依つて斷じ私生活の絶對的皇道化に努め剛毅朴訥以て大道に生死すべし

以上の如く只管皇道への無我沒入を志し「尊王絶對・生命奉還」を大丈夫の生命としてゐる。然る處去る九月二十二日、神兵隊事件關係者を中心とせる大日本生産黨、亞細亞學生聯盟、國大辯論部、帝大七生社、明德會の六十有餘氏と〻もに維新寮同人も亦全部行政法第一條に依る豫防檢束の暴壓を甘受せねばならなかつた。其後關係者全部は疑惑も一掃せられ釋放されたが、本事件に就いての消息は當時新聞紙上に報道せられたところである。此の生々しき記憶憤怒の情も今は大乘的修養心によつて只々抑制、影山氏を中心として溫順和平相琢磨相切瑳天日を仰ぐの日を期してゐる。現在毎月五の日の「五の日會」には精神修養に關する研究、座談、輪讀輪講、討論會を開き一向精進魂の錬磨に勵み勵んでゐる。又同志の皇魂琢磨の資料として影山氏編の『彫魂錄』（我が古典を始め先賢の遺文及び四書

五經の拔萃)を毎朝講じてゐる。

維新倶樂部

創　立　昭和十一年二月十一日
所在地　麴町區內幸町一ノ六商興ビル二號館內
主要人物　三島助治、田中近藏、前田芳藏、下村進

本倶樂部の有力メムバーたる三島、前田、田中諸氏は、何れも現に愛國陣營內に於ける青年層の中でも潑溂氣鋭の人達で、各自の陣營においに堂々たる中堅的勢力を以て活躍してゐる事は今更贅言を要せぬ。是等の諸氏が相互に意氣投合、肝膽相照らして同憂の契り固く友交を續けるうち、本倶樂部を結成するに至つた。血氣の健兒の屯所たる觀を呈する本倶樂部の活躍は、誕生と共に俄然注視と期待とを受けたのであるが結成後幾許もなく二・二六事件の勃發するあり、戒嚴令下の世相に鑑み深く自重自戒し一時活動も屏息狀態の已むなきに至つた。しかし時到らば起たん哉の意氣燃ん本據を麴町區に移し潛かに機會を覗ひつゝある。

綱　領

昭和維新の大偉業を翼賛し來る原動力たるべき百般の事業をなす

元來青年各自の意見交換、研究發表、親睦の機關たるを目的としてゐるのだが、此の社交機關は單に現在の範圍を守るに止まるものではなく將來愛國陣營の大同團結を意圖するものではあるまいか。

本倶樂部同人は純正日本主義の把握を志してをり去る七月同志に呼び掛けて主催せる時局懇談會においても此點を明かにしてゐる。

は之部

白王社

創　立　昭和四年十月
所在地　中野區榮町一ノ九
主要人物　高畑正、依岡浩馬、皆川三陸、中根博正、川原信一郎、顧問五百木良三、相談役入江種矩、實川時治郎、松林亮

本會の前身は知る人ぞ知る「東亞聯盟義會」である。其の沿革を顧みるに大正の末期、政黨の爛熟期たる若槻內閣當時、政界革新の旗幟高らかに果敢なる運動を續けた氣骨隆々たる青年の一黨があつた。即ち故豫備役陸軍中尉荒川精一氏以下實川時治郎、松林亮氏等であつて、その運動は主として愛國陣營の大先輩たる五百木良三氏を中心として展開されたが其の念願とする處は情勢深憂を極めた東亞問題の適正なる解決に在つた。而かも時勢日に非、有志の緊褌一番飛躍が期待されたが、此處に於いて同氣相寄る入江種矩、工藤鐵三郎(現滿洲國侍衛官長陸軍大將工藤忠氏)、齋藤源內、小山田劍

南、須藤理助氏等と共に昭和三年二月東亞聯盟義會を結んだ。かくて東亞問題就中滿蒙、シベリヤ問題の解決に龍吟虎嘯風雲を嚙むの慨を見せて大活躍をなし警世の鐘を打ち續けた。其の後昭和四年濱口內閣に依るロンドン國辱條約の締結せられんとする情勢を醸した際、これにいたく憤激荒川精一氏は中川良長男、高畑正氏等と相謀つて新たに組織したのが白王社であり、濱口內閣打倒の猛運動を起し國辱條約締結反對に奮鬪したが妖雲長くも　闕下を覆ひ加藤軍令部長の帷幄上奏阻止問題の起るに及び愼重熟慮の結果邦家を危急の境地より救はんとする至念凝つて奮然上奏文を　闕下に奉り、牧野內府鈴木侍從長等を彈劾する熱烈なる運動を捲き起した。之に次いで六年五月、井上藏相邸の爆破事件勃發するや、荒川氏は其の被疑者として拘引され同月二十一日一旦歸宅を許されたが翌廿二日自宅の一室に於いて悲壯なる割腹自殺を遂げた。同時に荒川氏の衣鉢をつぐ高畑正氏は同事件の爲め懲役五年の刑に處せられ小菅刑務所服役中漸く去る十月末白日を仰ぐに至つた。受難に次ぐに受難、可惜同團體も或は失はれんとするの悲境に立至つてゐたが、最近又東亞聯盟義會組織前より荒川氏と相提携活動してゐた皆川三陸、川原信一郎氏等が志を同じうする新鋭の青年を糾合し着々同會の復活を計りつゝある。加ふるに、前記の如く快男子高畑氏の出所あり、過去の歷史に顧みて同會の復活は各方面から注視期待されつゝあり、同會復活の曉は大陸問題に必ずや風雲を捲き起すであらう。因みに同會の綱領は左の如し。

綱　領

日本主義を主潮とする大陸政策の確立

に之部

日本農民組合

創　立　大正十四年四月

所在地　芝區琴平町二虎之門會館

主要人物　會長平野力三、主事北山亥四三、常任理事恒次東洋雄、川田弘、須藤淳次

機關紙　日本農民新聞（旬刊）

會長平野力三氏は農民運動家として餘りにも著名である。過般の總選擧には山梨縣から選出され衆議院議員となつてゐる。本組合は大正十四年四月十七日京都に於ける全國農民大會に際し當時農村運動者間に浸潤してゐた社會民主々義思想と共產黨のテーゼが合體せんとする狀勢を察し我日本農村の淳風美俗を害するものとして斷然之が反對の旗幟を押立てゝ孤軍奮鬪遂に四面楚歌の重圍に陷つたが亂れ飛ぶ內外のデマを克服して陣容を固め、滿洲事變以來の時流に乘つて今日に及んでゐる。始め其の主勢力は、山梨九州各地岐阜の農民であつたが今や漸次全國的に勢力を扶植し組合員五萬を呼號するに至つた。其綱領は

綱　領

一、皇道政治の徹底を期す

日本農民組合

一、資本主義經濟機構の改革を期す
一、農村文化の建設を期す

以上の如くであるが、其の日本主義的な點に於いて獨特な農村運動は退役軍人の一部人士の認むる處となり、昭和八年陸軍中將等々力森藏氏を主腦とする政治結社「皇道會」が結成せられると共に其中心勢力となつた。目下福岡、岐阜、山梨、群馬、栃木、新潟、山形、岡山、北海道、靜岡、香川に各支部を有し日本農村の思想的鎭臺たらむことを期してゐる。

日本勞働組合總聯合（附、愛國勞働組合全國懇話會）

創　立　大正十五年一月十七日
所在地　芝區三田四國町一五
主要人物　組合長高山久藏、幹部森榮一、皆川利吉、今井武吉、米中勘三郎、齋藤卯三太郎、石川光長、佐野好男
機關紙　日本勞働（月刊）

總聯合の名は古い歷史を持つ。我が國勞働運動史上に見る「機械勞働聯合會」の昔から特色ある運動を續けて來た。左翼排擊、共產黨絕滅の鬪爭を勞働者の生活向上運動と結び併せて强調、メーデーに對しても痛烈に反對した。反メーデー運動は本團體を以て一番槍と爲さねばなるまい。曾て全國勞働組合會議においてメーデー解消を提議したが、勿論小兒病的社會主義患者の頑冥不戾なる反對と正面衝突し、之に憤激烈々たる絕緣狀を叩き付けたが、此の爆彈動議は勞働運動界に大衝動を捲起し此時より總聯合は純乎たる立場を世に明示した。好漢高山組合長は「我國の勞働團體の眞個使命は勞働團體の消失時代招徠に在り」と叫んでゐる。實に總聯合は此の意氣を持ち此の理想的な指導精神を持つた日本精神に滿ち溢れた愛國團體である。本團體の成育を望んで已まないのは吾人のみではない。其の綱領は

綱　領

一、我等は建國の本義に基き和衷協同皇道日本の完成を促し、以て國家產業の發展を期す
二、我等は公正なる勞資關係を確立し勞働者の向上を圖り進んで經濟制度の革新を期す
三、我等は業に勵み智を磨き德を樹て自省以て人類文化に貢獻せんことを期す

と如何にも產業人らしい素朴な而して健氣な決心を表してゐる。此の團體の日常は實に多忙である。組合員の中には日本主義に對する理解も相當あるにはあるが、惡資本家にブツかつた場合稍もすれば感情の激發する所無產黨張りの階級鬪爭戰術をそのまゝに適用せんとするものもあり、此處に事態は錯綜するが、一切の工場主對使用人の葛藤を引受け日本主義的解決に寧日無い。組合員に對しては或は日本の歷史を談じ、國民精神を解說し、困苦缺乏に堪えて御奉公を說き共に泣くといふ此の組合幹部の活動は眞の愛國運動の本道を進むものである。此の故に本組合幹部が乘出した勞働爭議の多くは工場主雇傭人兩者の懺悔々悟に依つて人間的に解決、從來の營業不振の根源を矯正し得て勞資一體の美果を隨所に實らせてゐる狀況にある。最近起つた南品川中島電機製作所の爭議解決の如きも其の一例である。今や會員三萬を擁して押しも押されぬ勞働團體の白眉たる地位を獲得すると共に友誼團體

たる以下

日本產業勞働クラブ（東京）新日本海員組合（神戸）日本海上同志會（大阪）大日本勞働組合協議會（同）東電愛國同盟（東京）三河愛國從業員組合聯盟（豐橋）帝國木材產業正義研究會（東京）愛國木材工同志會（同）東京市花輪生產者組合（同）日本主義勞働組合中部地方協議會（名古屋）日本勞働同盟（東京）愛國勞働農民同志會（同）中部港灣勞働組合（名古屋）

等の間に合從連衡成り愛國勞働組合全國懇話會を結成し我が國勞働史に一大エポックを劃したことは偉とせねばならぬ。同懇話會の決議事項は次の如し。

一、國體明徵の徹底を期する事

一、反國體的思想の一掃並に反國體的團體の即時解散を命ずる事

一、亡國メーデーを絶對に禁止する事

右三項の實行を政府に要請し同時に懇話會當面の運動として產業報國の實を擧げ以て皇國日本の興隆翼贊を期してゐる。

日滿經濟調査局

創　立　昭和七年九月一日

所在地　澁谷區代々木初臺町七一九

主要人物　理事長三宮維信、書記長大岡次郎

機關紙　日滿經濟論壇（月刊）

理事長三宮氏は大日本生產黨離脫直後、昭和七年愛國運動の明日を展望し、まづ指導理論統制の必要を痛感し、此の大目的の爲めに日滿經濟調査局と實行運動方面を擔當する大日本愛國青年同盟を併設し、日滿經濟ブロックを土臺とする經濟理論の樹立と之が普及徹底を期した。然し時勢の宿弊は改まる處尠く殊に新しき經濟に對する各方面の議論は區々にて、將に混迷の狀態に陷る傾向深刻化す形勢に鑑み今年一月三十一日大日本愛國青年同盟を解消し、日滿經濟調査局に精力を集中して經濟分野に於ける大日本主義的指導理論の研究と之が發表に終始する事となつた。間もなく二・二六事件の惹起ありその運動は中斷されたが、戒嚴の內容稍緩和された五月頃から獨特の經濟理論を掲げて其の主旨徹底に努めつゝある。その標榜する目的は

目　的

本會は大日本主義的國家經綸の斷行に須要なる政治、經濟を始め、社會各般の實情を政策的見地に基き調査研究し以て我が社會制度機構の改修建設並に國策の樹立及び對外國策、特に對滿國策の確立等に關する純正なる國民運動に對し指導的立場を持するを以て目的とす

と云ふにある。同會の本格的活動は未だ將來に期待されてゐるが其國內改革案大綱の如きは相當注目に價しよう。目下政局の動向に複雜なる關係を有する電力國營問題に就いても透徹した意見の發表をしてをり各方面論客の好資料たるを失はない。

日本國民軍

日本國民軍

創　立　昭和七年九月十八日
所在地　中野區大和町二七四
主要人物　中央總務委員長四宮六郎、中央常任總務委員兼本部長宿田倍達、竹內通水、河田友平、中央總務委員總代表若梅積俊、東京支部協議會長國府田淺之助、顧問大川周明評議員澤田謙、諸富一郎、藤原繁太郎、內藤順太郎、伊藤博文、薩摩雄次
機關紙　國民情報（不定期）

一、本團體は始め百貨店の進出膨脹に抵抗せんとする小賣商人の團結にして、國民十字軍と稱したが後に群馬埼玉等の農民會と合同成り、漸次其運動は本來の目的遂行の必要と時局の齎らす刺戟の下に一般社會政治思想問題に驥足を伸す事となり、部內に一大改革を斷行し共團名も現在の如く改稱した。全團員は一行一動本部の指令に絶對服從「合法的國家改造」を主張してゐる。その目的綱領は左の如し。

目　的

國民軍は、國家改造法案を提示して之が實現に邁進する結社なり

綱　領

一、肇國の大精神に基き皇道政治を實現して國體の明徵を徹底す
一、搾取なき經濟機構を確立して國民生活の安定を期す
一、國敎を男確にして國民思想の本義を定む

本團員は軍員と稱呼し一樣に團服を着用、凡ゆる組織を軍のそれに擬し强固なる團結力を誇つてゐる。五・一五事件血盟團事件連座者への減刑運動に於いては五萬七千餘人の署名を得、新潟支部所屬農民の如きは九名が小指を切り時の陸相荒木大將に血書歎願を送附、その熱情は當時社會の耳目を衝動した。現在支部は、東京十一地方十六を有し會員數二萬數千を唱へてゐる。中央總務委員長たる四宮六郎氏は所謂轉向派であるだけ大衆の統制には多分の經驗を有して居る。最近其の思想的傾向は漸次國家社會主義を清算しつゝあるは注目に價する。

日本產業勞働倶樂部（附・石川島自疆組合）

創　立　昭和八年六月十五日
所在地　麹町區有樂町一ノ四
主要人物　理事長石井熊藏、副理事長東條喜七、總務兼敎育部長西山仁三郎、組織部長大久保秀治、出版部長森富示、政治部長城戸房男

本團體の主體は有名な石川島自疆組合である。同組合は大正十五年九月創立石川島造船所從業員を以て組織さる。同造船所は勞資協力日本式經營の典型的存在であるが、日本主義勞働運動の先覺者故神野信一氏によつて哺育された自疆組合の思想的威力が今日此の美果を生んだといふも過言でなく、從つて此の美果を單に一石川島の名物たるに止めず廣く日本全國の產業界隨所に結ばせる目的で本倶樂部は生れたものと言へよう。倶樂部の綱領は其理想を語るに充分である。

綱　領

日本產業勞働倶樂部

一、我等は自己の本分を盡して公正なる勞資關係を確立し以て産業報國の實を擧げんことを期す
一、我等は建國の本義に基き皇道日本の完成を期す
一、我等は日本精神に則り和衷協力以て識見の啓發德操の正養に努め世界文化に貢獻せんことを期す

日本主義勞働運動の父にして又本團體の生みの親たる神野信一氏は本倶樂部結成の大役を果して其年九月宿痾のため長逝したが、故人が心血を注いだ偉業日本民族獨自の勞働運動戰線統一の壯擧は今や後進者に依つて繼承され、全倶樂部は自由主義者共の夢想だに許されざる向上と發展の一路を愛國の旗風颯爽と驀進しつゝある。そして全日本の勞働者と資本家に向ひ輝く歴史と尊い傳統の祖國眞日本の姿に歸れ！　と身を以て號令してゐる。然しながら國家内外の情勢は必ずしも樂觀を許さず別けても對内情勢に於ける赤色無産黨の進出は大いに警戒を要するものあり此の事態に深く鑑み、全倶樂部員擧げて政治的訓練を實施することゝなり政治部を設け去る七月一日「政治研究會」結成を正式に屆出でた。時局に對する關心の動向と積極的鬪志の旺盛を如實に示したものと云へよう。然し此の政治結社も所謂議會進出を目ざす組合會議派の亞流を學ばんとするものではない。日本勞働者として時局に對し如何なる政治的見解を持つべきかと云ふ研究換言すれば日本人としての責務認識を目的としたものなのだ。併し「産勞」は生々化育の活物である。必要の時には臨機應變何時でも其の本然の社會的活動要素を顯現赤色無産黨撃滅に蹶起すべきことも豫見し得る。機關紙として毎月「日本産業勞働」を發行し現有勢力一萬八千六百名の全倶樂部員指導機關として有効なる働きをなしてゐる。本倶樂部結成組合の内譯は

自彊組合五、四三〇▲工愛會二、八五〇▲健生會一、六八〇▲山ヤ濟明會一、四二〇▲中正會一、二〇〇▲興進勞働組合七八〇▲相信勞働組合六〇〇▲日本建鐵勇信組合五六〇▲シチズン時工會五〇〇▲港愛組合四四〇▲明德組合四〇〇▲日本靴工組合三七〇▲日本映畫人同盟三七〇▲自揚組合三五〇▲城東同榮組合二七〇▲日石勞資組合一六〇▲山中從業員組合一二〇▲日本遞信同盟一〇〇

以上の如し。此の大陣容を擁し更に別途に日本勞働組合總聯合を始め同憂愛國勞働組合と提携、今春四月十九日「愛國勞働組合全國懇話會」を起し、其の中心勢力となつてゐる。從來の外部的實行運動中の壓卷は左翼メーデーに對峙して四月三日神武天皇祭の佳き日を卜し愛國勞働祭執行の目的を貫徹した事である。本年はその第三年に相當したが、恰も帝都は戒嚴令下にあり行進集會共に嚴禁された爲め、倶樂部所屬團體常任理事十五名は折柄の豪雨中を明治神宮に參拜し　皇運の隆昌、産業日本の發展、愛國勞働者の堅き團結を祈願し奉つた。而して前記「懇談會」結成により愛國行進は四月廿九日の天長節佳辰奉祝を兼ね華々しく擧行される事に改められた。此結果明年からは榮ある愛國勞働祭は一には　聖壽萬歳奉祝の爲又二には産業日本の發展を祝福して擧行一段の光彩を添える事となり毅然と進む産業報國の旗幟愈よ勇しく力强き將來を確保するに至つた。

日本精神協會

創　立　昭和八年十一月三日
所在地　赤坂區溜池町一、三會堂内
主要人物　會長菊池武夫、常務理事森清人、顧問荒木貞夫、潮惠之輔、加藤寛治、末次信正、

機關紙　日本精神（月刊）

徳富猪一郎、林銑十郎、平沼騏一郎、本多熊太郎、松岡洋右、皆川廣

內外多事多難の日本を、新希望、新光明の世界へ展開せんがためには久しきに亘る歐米追隨の態度を一擲し進んで皇道精神を宣揚全國民がまづ純粹な日本精神に立ち還つてそこから新しく出發しなければならぬ。日本精神は中正、公明、調和、統整の美を備へてゐる。かうした精神を土臺として歐米的な不純思想を取除き獨自の精神文化を高めることが日本を正しく明るく生かす所以である。古來日本は道義建國の大精神に起ち、西洋の如く物質本位に傾かず、又支那印度の如く精神本位に囚はれず、よく宇宙の大生命力に卽して世界に誇るべき文化を建設した——との認識に立脚して、如上最も誇るに足るべき日本文化の土臺をなす日本精神の宣揚こそは目下の急務なりとし、これが實踐躬行によつて現下の時難を乘り切らうとしてゐる。本會は創立以來日尙ほ淺しと雖も會長菊池男自から陣頭に立ちて奮鬪、其の識見と滿々たる鬪志加ふるに傳統的の熱誠は凡ゆるものを動かし今や會勢は異常の緊張を呈してゐる。機關紙の外に日本精神パンフレットを發行之等を通じて目的達成に資する外、屢次「日本精神大學講座」を開講し斯界の權威者を講師として皇道日本精神の發揚に貢獻してゐる。されば邪說ミノベ「機關說」根絶國體明徵運動には會長菊池男は貴族院議員として院內は勿論院外に於いても特に目覺ましき活躍を續けた。又列聖の御詔勅顯彰のためには六編七卷より成る「大日本詔勅謹解」並に之れを集成したる「虔修大日本詔勅通解」を編纂刊行して江湖に頒布した。今や支部を各地に開設會員一千有餘を擁して益々發展途上にあるが、恰も今次の超非常時局に際會し靜かに內省すると共に事態の推移を戰戒中の處、活動再開の時機至れりと爲すものか近く休刊中の機關紙を再刊すると共に歷代御詔勅顯彰奉祝の眞摯熱烈な運動を起すことゝなつた。そのためには既刊の「大日本詔勅謹解」並に「虔修大日本詔勅通解」に大增補して御詔勅約六千詔を全部謹解刊行を大願してゐる。目下森常務理事が寢食を忘れてその大成に奉仕して居り、御國體の本義を明徵にし奉り文敎の確立と日本精神の顯現を期し國民大衆の所嚮を示さんとしてゐる。同會の活躍は今後に期待される。

日本產業軍

創立　昭和九年二月二十五日
所在地　麹町區內幸町一商興ビル內
主要人物　會長兼主事今村等、中央理事松下彥一、清水光太郎、山本龍助、光吉悅心、森登守、末吉寶吉、法律顧問五十嵐治孝
機關紙　日本產業新聞（月刊）

本團體は愛國政治同盟の別働團體として昭和八年大阪に於いて計畫され翌九年二月結成、今春來愛國勞働團體の全國的結合の氣運に遭遇して純然たる產業團體の本態を確立することの必要に迫られ、去る七月十九日擧行の第二回全國代表者會議を契機として本部事務局を現在の箇所に移し獨自の活躍を開始する事となつた。其の大眼目は「產業報國」と「亡國思想殲滅」とに在り、北九州炭田一帶を始め關西に於いては兵庫縣、大阪府、關東においては神奈川縣に力强い地盤を有してゐる。現幹部は曾て

全國大衆黨或ひは社會民衆黨所屬時代の尊い體驗によつて階級闘爭的爭議は一切之を廻避し、其の大眼目に從つて國體に卽する勞働産業運動を志してゐる。其の綱領は次の如し。

綱　領

一君萬民の建國精神に基き産業大權を信奉して國家産業の發展興隆に努め、皇道日本の確立を期す

本團體の前途は猶ほ未知數に屬するもの勘しとせぬが、此の綱領の下に左の如き主張の貫徹に向つて今村會長一流の突擊戰法が敢行されるものと觀られる。

主　張

一、我等は皇國の柱石たる自己の本分を盡し階級的利己主義の思想行動の排擊を期す

二、我等は一元の皇國産業精神による公正なる勞資關係の確立によつて産業報國の徹底を期す

三、我等は君民一致共同生活體の本義に反す都市農村の對立を排し國民經濟の更新を期す

會員は四千と號してゐる。

日本精神宣揚會

創　立　昭和十年二月十一日

所在地　澁谷區代々木上原一一二二

主要人物　主幹寄田則隆、相談役江平重雄、井上一熊、芳賀八千穗、國井道之、宇田峰春、川崎清司

創立後日尙ほ淺いが足まめな寄田氏の孤軍奮闘によつて其の存在を知られてゐる。活動方針を示す綱領は左の如し。

綱　領

一、一切の反國體凶逆思想の元凶芟滅を期す

二、日本精神の宣揚を計り宇内國民思想の統一を期し、皇道を八紘に宣布す

從來の活躍は何んと言つても早大教授帆足理四郎の不逞思想爆擊の運動を擧げねばならぬ。同思想戰は本會創立の首途を飾るもので約半歲に亘る苦闘報ひられて帆足經營の個人雜誌『人生』は遂に沒落して街頭よりその影を消滅した。爾來反軍思想の絶滅に向つて對象の大小を超越して奮戰大いに努めてゐる。一方對蘇問題に關しては大いに强硬論を持し、建國會、鶴鳴莊と共に建闘を重ねて居り、講演會、座談會等を通じて各方面の啓蒙堅決に努め之が延長として自立積極外交の確立を目指し不斷の活動を續けて居る。又對蘇硬の對内的現はれと見られるものに『メーデー』粉碎運動があり同憂團體と協力奮闘してゐる。その熱心と粘り强さは各方面より次第に認められつゝある處である。

と之部

東電愛國同盟

創　立　昭和十年五月廿三日

所在地　淺草區小島町二ノ二三

東電愛國同盟

主要人物　會長佐藤守義、副會長田中巳代治、書記長矢ケ崎靜馬、常任中央委員高梨萬五郎、大谷津峰一郎、須藤長吉、顧問太田黒直記、桑原登

機關紙　勤勞國民新聞(月刊)を準用す

從來東京電燈株式會社從業員は組合會議派の指導下に東電從業員組合を組織してゐたが、東電幹部と組合會議派頭目との野合は、昭和八年の大幅賃銀引下げ社員四百三十七名の馘首問題を惹起し、而かも此の問題に對し組合幹部は從業員に明確な解說さへも爲し得なかつた。此の當時から「勞働運動者」に對する從業員の思想的疑惑は漸く起つて來た。そして此の一部從業員の懷疑は次第にその轉向を促し遂に階級闘爭を主眼とし羊頭を揭げて狗肉を賣る組合會議派の歐米模倣主義から脫却し、多數の同志を獲得して爾然たる日本主義思想の勃興にまで及んだ。之が遂て東電愛國同盟の創立せらるゝ動機となつたのだ。會社當局と組合會議派の凡ゆる妨害を排して遂に同盟が正式に呱々の聲をあげたのは昭和十年五月十七日、續いて二十三日結社屆を濟ましして愛國陣營の一角に雄々しくも躍り出でた。佐藤、田中、矢ケ崎氏等の活動は恰も熱と誠で組み立てられた裝甲車の如く、一方は會社の横暴に抗すると共に、他方多年同職場に蟠居して毒氣を放散してゐた東電從業員組合の約半數を奪ふに至つた。而して其の內部に於ては、財政、組織、敎育、政治、調査、交涉の各專門部門を置き團結と發展とに資し結成一年に足らずして早くも荏原足立の兩支部を確立した。續いて本年七月十二日芝協調會館に於て第一回年度大會を開催前記の役員を正式決定して陣容は一層の强化を見ることに成功した。其の綱領主張は次の如し。

綱領

吾等は日本精神を宣揚し皇國日本の發展を期す

主張

一、吾等は日本國民としての責務を自覺し日本精神を體得すると共に人格の向上を期す

一、吾等は電氣產業の國家的重要性を認識し之が健全なる發達を通し國家に貢獻す

一、吾等は秩序ある團體的行動により雇傭條件の維持改善を計り以て生活の安定を期す

會勢熾烈と雖も會社首腦部の國民的自覺は甚だ低調而も之と組合會議派とは從來の腐れ緣あり本同盟の將來は幾多の艱難が豫想されてゐる。このまゝ正義派が押し切るか。それとも俗論黨が其頽勢を盛返すか、本同盟の盛衰は各方面の注目を惹く處である。目下本同盟では電力國營問題に就いて矢ケ崎書記長(第一種技術者)が專門的見地から堂々國家經營正當論を主張し一黨を提げて政府鞭撻に邁進しつゝある。尙ほ本同盟も亦產勞總聯合と同樣愛國勞働團體全國懇話會の有力メンバーの一である。組合員現勢は約一千五百名。

ち(ち)之部

地湧日本社

創立　昭和八年八月

地湧日本社

所在地　（本社）澁谷區幡ケ谷本町二ノ三五三
（事務所）麹町區内幸町一ノ五

主要人物　代表内田剛藏、相談役植山天水、石川龍惺、石田照華

機關紙　地湧日本（旬刊）

大正十二年大震災の慘禍起るや皇都の復興と共に日本精神復興の要を痛感しその使命遂行を志す一團の青年によつて「興國時報社」が起されたが、内田氏はその實權を執つて旬刊「興國時報」に據り奮鬪中昭和五年倫敦軍縮會議に當面對米七割を守つて同憂の士と共に之が主張貫徹に奔走する處ありしも軟弱外交に禍ひされて遂に屈辱條約の締結を見るに至つた。此の悲狀に憤激した内田氏は下關に全權（當時海相）財部氏の歸朝を擁して自決を迫らんとして捕えらる。實に草刈少佐事件は其の後に起つたのであつた。爾來海軍々縮問題に對しては常に第一線に起つて鬪ひ昭和八年夏に及んで一段の飛躍を期し法華經に所謂「大地震裂し地湧の菩薩出現す」に因つて社名を「地湧日本社」と改名同時に機關紙も現在の「地湧日本」と改めた。其の綱領は左の如し。

綱領

一、本社は皇國國體の眞髓を論に求め、現實に攫みて國體の眞髓を顯現し擁護すべく一切の運動に精進すべし
一、本社は國國の爲に尊き犧牲となれる先覺の魂魄を現實に生かすべく世論政治を超越して行動に移すべし
一、本社は日本化し世界化したる亞細亞思想を以て國民を啓發し又人類の神性的躍進を期すべし

かくして宮中側近者の粛清運動に、赤化思想撲滅運動に、對米、對蘇、對支問題に、尾崎赤化判事問題に、「高氏」問題に健鬪、また更に「機關説」撲滅運動に當つては同志と共に訪問隊を編成して大いに善戰した。昨年八月地湧日本社を勤皇日蓮主義による敎化啓蒙團體となし機關紙を始め其の内容を充實せしめた。一方内田氏はその頃創刊された大日本新聞に營業局長となつたが間もなく辭職して地湧日本の發展に專念し今日に及んでゐる。その間機關紙部の相談役として元九州日々編輯長、大日本新聞顧問植山天水氏及び前大日本新聞編輯局長石川龍惺氏等を依囑し、旁はら勤皇護國黨を組織した。（勤皇護國黨に關しては別項參照）地湧日本社は更に驥足を伸ばす爲め去る八月から事務所を頭書の中心地域に設けた。現在内田氏は同志と共に對支問題に奮鬪を續けてゐる。

直心道場

創立　昭和九年二月十一日

所在地　小石川區水道端町二ノ六四

主要人物　總令頭山立助、道場主西郷隆秀、道場長大森一聲、塾生長中村光三、顧問頭山滿、内田良平、梅津勘兵衛、野尻祐通、相談役吉田益三、永井了吉、狩野敏、入江種矩、千家尊建、田尻隼人

昭和八年初秋の頃愛國青年間に昭和維新國民會議創設が提唱された。之は勤王維新同盟大森一聲氏等の主張を中心とした運動であつた。之が何分にも熱誠燃ゆる人々ではあつたが閲歷經驗に老けぬ爲之が素志實現に少なからぬ困難を感じた。併し青年の純情は世間の冷眼視を恨むに先達ちてまづ自からの修養が如何に必要であるかを素直に認め其の力量を養ふ事を自覺し、玆に錬磨修養の道場を興し

七「直心」と名付けた。時は昭和九年紀元の佳節二月十一日である。そして頭山立助、西郷、大森、中村の諸氏がそれ〴〵責任を擔當し顧問に立助氏の嚴父頭山翁及び内田良平氏を推戴し今や長足の進歩を遂げつゝある。然し直心道場の使命は唯單に一個の人間を作り上げる事を以て能事終れりとするものではない。即ち修養によつて愛國運動の核心者換言すれば此の方面の一國一城の主を作り出す事が其目的である。されば新進ながら最近に起つた愛國運動の大部分には孰れも不離不即の關係を有つてゐるのを見ても本道場の實力を知るべきであらう。其の綱領とも云ふべき「趣旨」は

趣　旨

吾等虔みて皇祖天神の肇造に參し經國の大本を講明し治世の要道を體究し以て朝日豐榮の　皇運を扶け奉らむ
大乘の恢弘は日本の國是なり鴻化の翼賛は民人の使命なり是に於て同志相胥り先づ以て神州の正氣を長養し士
道の眞風を擧揚すべく直心道場を興設す、希くは肝膽を吐いて俊傑を會し、丹誠を抽て雄才を育し祖々相承の
心源を直指して神州不滅の性靈を見證せん維は是れ奉公の鐵誓にして區々の私事に非ざるなり。右趣旨とす。

と云つてゐる。この鐵誓を定めて連日、西郷、頭山、大森、中村の諸氏を先達に熱烈なる修養を重ねてゐる。行事要目を擧げれば左の如し。

一、明治神宮參拜　朝望拜禮
一、酒掃體操遙拜　毎朝食前
一、輪讀輪講　月水金午前五時
一、研究會　木曜日午後
一、豪吟會　土曜日午後
一、書道　日曜日午前
一、武道　毎日午後四時＝六時
一、定期接心　毎月十五日より五日間

總令頭山氏は五・一五從犯事件に連座し目下囹圄の人となつてゐるが、全國各地から此の道場に集まつて來る愛國青年は漸次其の志を大成され醇化されつゝある。尙ほ之等鐵火の修業を積むに當り左の心得を恪守せしめてゐる。

修業心得

擊劍すべからず正念工夫すべし
柔術すべからず正念工夫すべし
酒掃すべからず正念工夫すべし
須らく大誓の下に精猛の志氣を憤發し動靜進順、七顚八倒、吉凶榮辱、得失是非束ねて一則の話題となして醉
輪以下氣海丹田腰脚足心の間に磐石の如く突据え、從ひ亂軍の巷に入り、歌舞遊女の場に臨むと雖も、無人の
曠野に獨步する底の一念不動を修し來つて、祖庭の玄徽に徹證し、祖宗の深恩に報謝せんと要すべし
一切時、一切處に正念工夫不斷相續して慎んで打失すること莫れ

かくて、練り、鍛え、養ひ得たる塾生にして全國各地に夫々の運動團體を提げ活躍しつゝあるものは既に十指を屈するに足る。最近迄道場同人が核心社なる雜誌社を興し雜誌「核心」を發行機關紙の如き觀を呈してゐたが去る二・二六事件以來廢刊の止む無きに至つて居る。「核心」廢刊後同道場の不便勘からず最近之に代るべきもの〻創刊が畫策されつゝある模樣である。尙ほ前記の如く頭山氏は大頭

山翁の實子であるが西郷氏亦南洲先生の血を享けてゐる。直心道場たるもの丶責任は重い。

り之部

立憲革新青年黨

創　立　昭和二年十一月廿日
所在地　日本橋區濱町二ノ八九
主要人物　首領佐藤正吾、總務兼幹事長堀之內高潔、總務　細具泉吉、樋渡彦九郎、宮下學、瀨川一益、山口甚三郎、幹事國守一誠、生田高明、芹田久儀
機關紙　黨報(不定期)

本黨は思想的にも行動的にも首領佐藤氏を規範としてガッチリと團結してゐる。若年にして具に世の辛酸を嘗めつくした佐藤氏は、その圓熟した人格に於いて後進青年の指導者としては打つて付けの人である。若冠にして現社會の矛盾を感じ此の疑惑を解決するには政治の是正を爲すにしかずとなし偶々故床次竹二郎氏が既成政黨の革正を叫んで政友本黨を結成するやその麾下に馳せ參じて大いに帷幕に參ずる處あつたが、次第に「政治家」の本態を知悉し又我が國家の尊嚴なる理由を知るに及んで政黨員として終始すること能はず遂に知己を百年の後に求めんとして玆に眞個青年の養成を志し純眞無垢の人々を政治界に送らんとする家塾を起し之を立憲革新青年黨と名づけたのである。爾來有能果敢の青年を多數世に送つてゐる。本部內に宏莊なる劍道々場があり六段伊藤丹治氏が師範として黨內青年の身神と技能との練磨に當り佐藤首領は日常に起る活社會の事件を取材して純乎たる日本精神の誘導に當つてゐる。其の主張綱領は左の如し。

主　張

一、吾人は吾が國體の精華たる一君萬民の皇室中心政治を以てその主義とす
一、吾人は亞細亞の盟主となり世界の人種平等共存共榮を主張し眞の平和主義を以てその主張とす

綱　領

一、皇室を尊崇し累を　皇室に及ぼさんとする徒輩を撲滅す
二、國家的正義を主張し綱紀の肅正を期す
三、國防を充實し自主的外交の確立を期す
四、社會政策を改良し民心の安定を期す
五、人口配分の調査を促し移民政治の確立を期す
六、行政財政を整理し國民負擔の輕減を期す
七、產業立國の基礎を確立し國產奬勵を期す
八、國民の自覺を促し完全なる立憲法治國たらしむるを期す

本黨の特色はその經濟的獨立が確乎不拔たる事である。本部に修養中の青年等の生活費道場費黨員の活動費は全く黨自體の努力によつて得た收入と佐藤氏個人の支出とによつて居る。これは同黨に事

業部が存在するからである。本黨員の多くは夫々家庭に在つて生業にいそしんでゐるが修養の都合上常に數名の青年は本部に寄宿して首領の聲咳の許に數ケ月乃至數年を過してゐる。其の運動は頗る地味なので支部は必ずしも多數とは云へぬが、市内に於いては淺草・王子、瀧野川に又新潟縣柏崎町には佐藤氏の出身地たる關係上設立されてゐる。

かの部

汗山莊

創立　大正五年三月
所在地　四谷區永住町二
主要人物　莊主入江種矩、顧問川島浪速、五百木良三、青柳勝敏

主張

一、日本海文明の確立
一、滿蒙王國建設
一、大亞細亞民族の自覺、奮起

以上が汗山莊の主張であり、過去に於ける活動史は一貫して此の主張貫徹のため力戰苦鬪の連續であつた。其の窮極の大目的は實に「皇道世界宣布」にあることは言ふまでもなく、此の大願望達成の爲め以上の三主張を順次擴大進展せしめて大經綸遂行を期してゐる。創立の沿革を顧みるに、大正四年九月、入江種矩氏は恩師川島浪速氏及び五百木良三氏と共に、故肅親王並に蒙古の故巴布札布將軍と相謀り大亞細亞民族大結成の共同目的達成のため强固なる運動機關を創ることゝなり苦心準備の結果翌春東京に於てその結成を了した。かくてこの創立の第一歩に於て大陸政策遂行に關し軍當局に建白書を提出、之が促進を進言すると同時に前記の有志は北支或は滿蒙へと急行し滿蒙王國建設實行運動に着手した。巴布札布將軍の率ゆる滿蒙扶國軍の擧兵が卽ちそれである。當時兵員の集結さるゝもの大連に二千八百、安東縣に一千、虱子窩に一千、其の他蒙古騎兵三千及び野砲四門を算した。入江氏はその參謀として內外蒙古、南北滿洲地域に行動し、匪賊の掃蕩其の他治安確保の爲め大小戰鬪十有六回に及び遂にソ聯國境北滿呼倫貝爾を占領海拉爾市街に本據を置き清朝復興を標榜して獨立を宣言秩序ある軍政を布いたが、折惡しく日本政府の滿蒙政策一變し軟弱外交の禍ひする所となり、目的成就を眼前にしながら一頓挫の外なきに至つた。恰も當時は歐洲大戰直後であつたが若し之等同憂志士の壯擧が政府當路の容認する所であつたならば此の時已に滿洲獨立は實現したであらう。しかし汗山莊の熱誠と不撓の意氣は神明に通じ十數年後の今日天運めぐり來つて滿洲獨立は實現した。之に依つて一黨同人の東亞經綸運動第一階梯は將に完了の域に達したが、第二階梯の北支問題解決、亞細亞民族の反省自覺は前途尙距離あり、汗山莊今後の活動に期待さるゝものが多い。然し飽く迄「皇道世界宣布」の大眼目に向つて邁進不斷にその準備を進めてゐる。入江氏は昭和七年十二月在京同憂八十餘團體を糾合して國體擁護聯合會を結成、推されてその牛耳を執り又邪說ミノベ「機關說」殲滅戰に際し

ては別に國體明徴達成聯盟を結び奮闘大に努むる所あつたが孰れも是畢生の大眼目「皇道世界宣布」聖戰の闘ひである。

恢弘會

創　立　大正十二年九月
所在地　麹町區九段偕行社内
主要人物　會長大井成元、副會長高山公道、同佐藤鐵太郎、同松井庫之助
機關紙　恢弘(月刊)

上下民心の頽廢殆んど其極に達し内外共に不祥事相次いで起るも更に當路及世人の自覺反省甚だ尠なく國家の前途寒心に堪えざる實情に奮然蹶起

綱領

一、明治天皇ノ御遺德ヲ顯揚シ
今上陛下ノ聖旨ヲ奉體シテ國民精神ヲ作興シ時弊ヲ矯正シ以テ國體ノ精華ヲ發揮センコトヲ期ス
一、教育國防等ニ關スル事項ヲ討究シ以テ國運ノ發展ニ資センコトヲ期ス

以上を掲げ大正十二年初秋一戸兵衛大將を會長に陸海軍在郷軍人一般有志を以て組織されたのが本會である。爾來八代大將、柴大將を經て現大井大將會長時代に至つた。會員全體の國政又は時局問題に關する認識は一般の水準以上にあり且大井會長以下會員中には貴族院に入つて有力なる地歩を占むる人々あり此點本會は獨特の貫祿を示してゐる。されば「恢弘會蹶起」の報は各方面の重大視する處であり屈指の有力團體である。岡田内閣當時は憲法學說問題即ち「天皇機關說」排擊運動に陰然陽然重きをなし當路の爲め一大敵國の觀を呈したるは人の知る處である。活動方針の基幹を爲すものはその綱領に示すが如く　聖旨を奉戴教育國防問題の解決にあるが將に時弊の禍殃は此處に在り同會の活動には多大の期待が掛けられる。時々刻々生起し來たる内外の各種重大事態の研究とその研究の結論を掲げての當局鞭韃乃至警告又は一般國民への啓蒙運動等々、幹部は不斷文字通りの東奔西驅である。廣田内閣の金看板に教學問題と國防問題とがあるが兩問題とも恢弘會の大眼目とする處であり、昨冬來教學刷新委員會を隨時開催、大井會長を始め兩角、佐藤皐、奥平、佐藤清、石光、中村濱各中將、今村獸醫監、羽入、原田各少將、西理事、田邊評議員等は熱心研究を續け既に平生文相に對しては率直明快な交渉を行ふてゐる。一面國防問題に關しては夫々一家を爲すの專門家揃ひの事とて屢々歴代の軍當局へ權威ある建言が行はれてゐる。内外の時局愈ゝ深刻化し來つた折柄同會今後の活躍は各方面の深く期待する處である。目下小樽、仙臺、若松、金澤、靜岡、豐橋、名古屋、大阪に支部を設け會員約千名を擁し本部各支部共夫々常に各地に講演を開き思想國防に奮闘しつゝあるは多とせねばならぬ。機關誌「恢弘」は此種雜誌中權威を以て鳴る。

回天時報社（附・滿洲問題解決同盟）

創　立　大正十五年七月
回天時報社

所在地　京橋區銀座四ノ五（帝國新報社内）
主要人物　社長池田弘、香渡信、片岡駿、鈴木壽雅、上領一郎、小崎一誠
機關紙　回天時報（月刊）

内外時弊に對する悲憤痛歎の志を同じうする當時黑龍會青年部の重鎭池田弘、大化會系より出でゝ天下を睥睨する寺田稻次郎其他香渡信氏等の梁山泊、然し其の名は優にやさしき「心の巢」一派の思想運動の前驅又後衛機關として大正十五年七月創建されたるもの、機關紙回天時報（月刊）はその十月より刊行された。狂暴米國より排日移民法案の巨彈を見舞はるゝも遂に一矢を酬ひ能はざる卑屈至極の所謂政治家も内に對しては頗る猛威を振ひ三千年我が社會制度の根本を成す家族制度を破壞する現行普選法を實現せしめて噴火山上に踊り、不良財閥の頽使のまゝに曲學阿世の徒自由主義心醉者俗臭紛々たる言論機關と相提携相呼應滔々相率いて祖國を奈落の底に突き落さんとした、空拳の青年「回天」の名を冠して結社す、其意圖思ふべしである。されど天下の大勢日に非「統帥權干犯」の大不祥事を派生せしめて白人國家大包圍陣の倫敦軍縮條約問題に鬪ひ敗れ而かも全支那及日清日露の二大戰役を戰へる滿洲の排日激化に直面するや、潛かに期する處あり、池田、香渡、片岡の諸氏は屢々相前後して南北滿洲北支及長江一帶を實地踏破來るべき回天の事業に堅く備ふる處あつた。「民政」黨を花形とする既成政黨の俗流共が「政府は我黨の延長なり」と潛上慢の至重暴言を吐き長夜の宴に醉ひしれつゝある時、東亞の天地を震撼せしめたる大變局は東三省の一角より動き出さんとしつゝあつたのだ。祖國日本の無窮生命を確信し日に夜を繼いで深刻化する現狀の打開を志す回天時報社同人は時將に至れりとして遂に蹶起した。卽ち昭和五年九月の「滿洲問題解決同盟」の結成準備がそれである。本同盟は始め「支那問題研究所」の長野朗氏と回天時報社同人の提盟によつて畫策せられ、其歲十月結成さるゝや、幹事に時報社側から、貴族院議員男爵井上清純、同法學博士土方寧、法博蜷川新、陰れたる支那問題の研究家醫學博士諸岡存、慶大教授（當時）蓑田胸喜諸氏、研究所側から經濟學博士永雄策郎氏を擧げ、幹事として池田、長野、香渡、片岡諸氏が實務を執掌した。爾來本同盟は國際聯盟の離脫滿洲帝國の創建に至る迄回天時報社と不離一體形影相伴ふて活躍した。當時同盟が天下に宣言した設立の趣旨は眠れる朝野に民族的感激を與へた名文として謳はれた。卽ち次の如し。

趣　旨

祖國内外の秘迫情勢は將に自爆の危機を豫徵しつゝある。日露戰爭後の敵國外患に對する關心の減退は國民を驅つて黨同伐異只管内爭に惑溺せしめ、海陸空の國際世界交通時代に宛然鎖國的内攻現象を呈せしむるに至つた。現日本に於ける外交政治社會思想上の所謂國際主義は「日本」が世界現勢並に人類文化史の開展に對して負へる有力地位と重大使命とを自覺せざる社會歷史科學上の思想的迷信であり、現實的には特に米露二國の帝國主義的世界聯制意志に對する内應實國動機の表示に外ならぬ。農工商の全般に亘る國民實生活の陰慘痛苦に配するに底ひなき人心道念の廢頽腐爛を以てし教育言論機關の中樞全局面的瘴癘腐敗と政權爭奪に沒頭せる政黨政治の正視に堪へざる醜惡暴狀とは、社會共產主義の凶惡革命運動を拍車激成しつゝある。宜なる哉あゝ無血戰爭倫敦會議に於ける屈辱的條約の締結！「國難」の危局は思想政治經濟より國防外交にまで及び祖國日本は今生死興亡の轉機に臨んでゐる。見よ、米露の迫力魔手は刻々に加重伸張し來り、これと陰陽に寀聯せる支那は詭辯暴慢の限りを盡して滿洲の權益は勿論朝鮮臺灣琉球の「武力奪還」を揚言し策謀しつゝあるを！　極東の情勢は今や再び日清日露戰爭直前の狀態に還元せしめられつゝある。

現世界屈指の大領土國家たる米露支三國の領土の大部分は何れも既往に於ける武力侵略の結果にして、日清日露戰爭が清露兩國の積極的侵略動機を因としたるものなりしは歷史の明證する處である。殊に日本にして若し暴露を討たざりしならんには、實に滿洲のみならず支那本部の運命果して如何なりしぞ！ いま中華民國が「打倒帝國主義」を標榜しつゝ我が滿洲の權益は勿論朝鮮臺灣琉球の「武力奪還」を云爲するは、自己自身支那歷朝の「帝國主義」的野心を暴露したるものである。

此時「支那から手を引け」といふ如き妄言を吐き、八十萬の增加率を以て總て一億に垂んとする日本國民を永久にこの資源貧弱なる猫額的島嶼に閉塞蟄居せしめ、國を擧げて內爭內攻としての階級鬪爭に驅らんとする社會共產主義者は、日本國民を永劫の修羅餓鬼道に陷れんとする祖國と人道との極惡仇敵である。

滿洲に於ける我が權益の喪失は朝鮮の動搖を招徠し、必然に日本國民の生存權を危殆に瀕せしめ日本國家を沒落に導く。日本國家の沒落は、支那印度を始め全世界の有色人種をして永久に白色人種の侵略搾取の對象たらしむと共に、また東洋文化の生ける傳統と理想との滅亡、人類人道の破滅である。

故に我等日本國民は我等自身、我等の祖先、我等子孫の爲に、又人類と人道との爲に、祖國日本の國家的獨立と國民的生存權とを防護すべく、一心正念決定心を以て險難の隘路を驀進せねばならぬ。これ實に內攻自爆の窮迫情勢を打開する昭和維新の彈機である。

いま東に西に南にもまた進路を閉されてある時、我等日本國民が朝日を示す國旗の下に磁力の方向北指す如く亞細亞大陸に向ひて進み行かむは、理智の計量利害の打算を超えたる祖國永久生命の敎命である。

あゝ、同胞よ、我等こゝに血をもて祖國日本を固め成し守り傳へし悲しき嚴しき祖先の神靈を魂喚ひに喚ひて我等の忠誠を宣誓しいま憂ひ悶え憤ろしき思に靜止に堪えざる生の衝動に鼓ひ立ちなむ！ 諸共に！

斯くて本同盟卽ち回天時報社は日支關係の急迫を告げて朝野に對する一大啓蒙運動を捲き起したが、如何せん事態の惡化は加速度的に深刻化し口と筆との運動を以てしては到底及び得ざるに至つた。

此處に於いて此種の運動には恐らく始めての試みたる獨創的の直接國民の眼に訴ふる運動が開始された。卽ち時報社同人が曩きに踏査せる當時蒐集せる南北支那滿洲各地の、排日書籍、敎科資料、宣傳文献、之に前記各地の同志友人より加へられたる近狀の實況寫眞數百點を總括せる「支那排日事情展覽會」がそれである。此の運動の眞只中に銘記さるべき昭和六年九月十八日は廻り來つたのであつた。

本展覽會は九・一八を挾んで前後凡そ八十回、東京は勿論西は九州より北は北海道に及んで開催され、又其の一部は例のリットン卿の來朝に際し國際聯盟東京支所の手を經て貴重なる唯一的の生ける文献として參考資料に供された。尙本展覽會に就いては今も同人の間噴飯事たる一挿話がある。始め「排日事情展」の「排日」の二字が當局によつて嚴禁されてゐたが、九・一八の翌日から許可？が下りた事である。當時の幣原外相は二月の議會で「滿洲に排日は絕對なし」と斷言したのであつた。一方事變前三月片岡駿、同志奥戸足百の兩氏は同盟及時報社を代表して渡滿九月十八日以來の大聖火の裡に挺身活躍した。其の前後回天時報を通じて同盟の同志は全國的に擴大一時其數は三千に及んだ。六年十一月より時報は旬刊に躍進した。大陸政策の遂行及び國內現狀の打開は、時報社創立の以前から黑龍會の指導下に同人の大悲願とする處であつたが、マルクス主義の擊壤帝國大學々風の改革も亦夙に力調大いに健鬪する處であつた。卽ち社長池田氏は、黑龍會青年部員たりし大正四年皇國青年會を興し同志の結束を固め反國體思潮たる、無政府、社會、自由諸主義擊破の爲め熱烈なる活動を續けた。當時大阪朝日新聞社に立籠つた大山郁夫、鳥居素川、長谷川如是閑等一連の不逞漢は、同紙社說に恐れ多くも御國體を呪詛して暴力革命を煽動せる『白虹日を貫く』の論文を掲げ豫ての陰謀を堂々と表面化し

た。而かも當局は朝日の社會的勢力に威壓せられて一指を染むる能はず皇國の御尊嚴の爲心あるものをして切齒痛嘆黑龍會、浪人會等の『國體擁護』運動を捲き起さしめた。池田氏等同志此悲狀に直面座視するに忍びず遂に決意する所あり下阪、大正七年九月廿八日、同地中之島公園に朝日新聞社長村山龍平を擁し、痛烈なる天誅を加へ直ちに自首した。池田氏等は法の命ずる處によつて下獄したが、一方本問題に依て天下の義憤を激化し大山、鳥居、長谷川等は朝日新聞社を退社、同社の大改革が行はれた。因みに池田氏の同志は、內山福二郎(現帝國新報社演藝部長)、杉山竹三、坂上喜久藏、土屋幸藏、淺野徹氏等であり、近時に於ける國體擁護運動は、此の池田氏等の擧を一番槍とすべく之が傳統的精神に基いて回天時報社の共產主義社會主義排擊運動は甚だ果敢に闘はれた。滿洲事變後俗流日刊新聞も稍々その天狗鼻を挫じかれ愛國主義派では日刊「日本」が孤軍奮闘してゐたが、內外時局の變化につれ回天時報社は各方面の熱烈なる支援下に、八年三月同誌を月刊に返へすと共に日刊帝國新報社を經營する事となつた。卽ち回天時報は十年にして月刊より日刊化したのであつた。以來華府條約廢棄、倫敦條約一蹴、高氏問題ミノベ機關說擊滅運動に奮戰、殊にミノベ問題の半にして「日本」新聞落伍するや單身殊戰之れ努め昭和維新を志して現在に至つてゐる。

因みに片岡駿、奧戶足百兩氏は神兵隊の首腦部である。又精銳主義を執つて社員は嚴撰、從つて其數は極めて少數である。

鶴鳴莊

創立　昭和六年三月

所在地　芝區今入町五
主要人物　摺建一甫、小笠原計三、村尾利久、村上芳英、摺建克夫、高木普
機關紙　かくめいパンフレット(不定期)

滿洲事變突發直前における深憂すべき對內的情勢に當面して愛國の至情迸る所已むに已まれず一團の青年奮然蹶起したのが鶴鳴莊だ。其の綱領は次の如し。

綱領

一、吾人は　皇祖肇國の神勅を奉戴し皇道大義を闡明して國魂の精髓を恢弘す
一、吾人は　皇室中心國家本位の政治の遂行を期す
一、吾人は　自主と正義の外交を斷行し以て國威の發揚を計り大日本主義に依る全亞細亞皇化の實現に努力す
一、吾人は　右に背馳する主義主張行動の排擊に躊躇を避けず一死以て之が貫徹を期す

御國體の顯現と皇道大義の闡明、自立と正義の外交、而して國威の發揚を以て眼目となす以上當然我が尊嚴なる御國體と三千年の光輝ある歷史に背馳する主義主張行動の排擊に果斷なる力闘が續けられねばならぬ。創立以來終始一貫日蘇修交斷絕要望更に進んで赤露膺懲に活動の主力を傾注し來つた所以もこゝにあり、此の點建國會の步み方と軌を一にしてゐる。而して今や十號を越える機關紙「かくめいパンフレット」も對ソ問題にのみ集中し輿論の指導喚起に盡瘁し或ひは又同憂愛國陣營の青年幹部と共に數次に亘つて同問題に關する研究座談會も開催してゐる。又凶逆「機關說」排擊の聖戰においても尖銳部隊として活潑なる奮闘をしたことも全く同一趣旨に基くものと觀てよからう。一方滿洲問題に對しても重大關心を拂ひ盟主摺建氏以下屢々實地を視察赤露膺懲の輿論喚起と併行して研究を

續けてゐる。先頃奉天市に支部を設置したことも對滿運動促進の一階梯である。二・二六事件後「庶政一新」に對する本團體の活動方針二大要綱は次の如く發表せられた。

一、國民生活の安定と言ひ、國防の充實と言ふも究極に於て國體の眞姿顯現即ち皇道世界宣布にあるのであり將來の國策は對外、對内一聯的方策であらねばならない、然し政治、經濟、國防の各部門より見ても帝國國策の容易に行はれない事は現國際情勢を認識すれば判明する、吾等は國内相剋の危險性を强調して國策遂行を期するものである。

一、帝國生存權の主張たる資源再分配乃至植民地再分割の實行を要望する。然り右の主張たゞ大義に立脚せる道義的自然要求である。吾等は今後の目標をこゝに置き一路邁進す

機關紙の外に「鶴鳴報」を刊行する事となつたがその創刊號の「社是」に曰く「尊皇の大義を闡明し、國魂の精髓を恢弘す」と。血氣青年の集團だけに今後の潑溂たる活躍が期待される。

よ之部

洋々會

創立　大正十二年六月廿七日

所在地　麻布區霞町二二

主要人物　幹事長百武三郎、常務幹事宇佐川知義、幹事竹内重利、永村清、河野董吉、川路俊德、遠藤格、楊町五十吉、向田金一、横地補一、中島權吉、山内豐中、角佐七

海軍豫備役將官の結束團體である。ロンドン條約問題當時各種團體に魁けて「皇國海防々衛」の旗印を掲げ加ふるに專門的見地に立ち痛烈なる反對運動を開始し驍名を馳せてより以來海軍々縮、國防强化問題に第一流の權威として鳴り爾來此の方面輿論の教導に任じ、又邪說「機關說」絶滅國體明徵運動においては建軍の精神に則り活潑なる動きを見せた。抑々本會は、大正十二年の春海軍の豫後備將官及び士官の親睦機關たる「有終會」より獨立して、有馬良橘大將以下、百武三郎、竹下勇、宇佐川知義匝瑳胤次、南郷次郎氏等の諸將を始め有志五十有餘氏が時勢に鑑み之を組織、當時は築地にあつた水交社に盛大な發會式を擧げた。創立趣旨は左の如し。

〔趣意大要〕　現役を離るゝや自ら日新の海軍に遠ざかるを免れず是を以て吾曹同志相謀り隨時會合を催し且現役者との關係を密にし以て本會の目的を達成せむとす

規約は全四項附則二項の短いものであるが左記拔萃二項によりその要旨並に本會の特色を諒解し得やう。

一、本會は主として東京豫備役海軍將官中の有志を以て組織す

一、本會の目的は相互の親交を保つと共に海軍に關する諸問題を研究して以て聊か報國の微衷を致さむとするにあり

創立の初め親睦團體たる意味より特別に會長とか役員等を設けず、會の代表者に有馬大將の名を掲げたのみで總て合議制であつたが、一昨年會則の一部を變更して幹事制を採用して今日に及んだ。今や全會員も二百四十八名を算するに至りその存在はいよ〳〵牢固たるものとなつた。尚ほ今後は廣義

國防の見地に立脚して國體明徴を初め國防の充實國民生活の安定等の諸問題に善處の方針を樹てゝゐる。

た(だ)之部

大化會

創立　大正九年四月
所在地　牛込區加賀町二ノ五
主要人物　代表岩田富美夫、幹事長小山清藏

「大化會」の名稱は皇國史上燦然と輝く「大化の改新」の御精神を負ふて名附けられたもの、我が皇國の國史は、皇祖肇國、神武紀元、大化改新、建武中興、明治維新と一貫して天壤と共に窮り無き尊嚴なる國體の精華を顯揚して來た。上に萬世一系の　天皇を奉戴して一君萬民、君臣一如、大御稜威のまに〳〵發展に發展を遂げ、蒼生は欣然として忠孝一體の臣道を恪守して　皇運を扶翼し奉れる萬邦無比の史實の連鎖である。この國史に輝かしい一頁を錄する「大化改新」の御精神を奉戴して對內、對外兩方面の革新を期する志の表現が本會の名稱卽ち「大化會」である。さればその綱領たる主張も左の如く天下何者をも怖れざる慨を示してゐる。

主張

一、大化會は日本の對世界的使命を全國民に理解せしめ、以て日本の合理的改造を斷行する根源的勢力を目的とす
一、大化會は奴隸的日本の舊思想を排斥す、同時に模倣反響を事とする歐米の舊思想的革命を排斥す
一、大化會は全國民を根基としてその間の指導的青年の人格的結合を計り以て全國に號令す
一、大化會は日常の小事非常時の大事に際しては原始的武人の典型たるべし
一、剛健・素朴・簡易・雄大・正義を全生活に實現すべし
一、大化會員は天下何者をも怖れざるべし、只正義の審判最も嚴厳なる事を誓明す

代表岩田氏は北一輝氏の股肱として辛亥革命の前後上海で活躍し歸朝後北氏と大川周明氏とを中心とする老壯會、猶存社及び故高畠素之氏の大衆社並に高畠氏と上杉愼吉氏の經綸學盟等に尖鋭的盟友として關係する所深かつたが大正九年春現在の地に大化會を創立した。創立以來の活躍としては下田歌子事件、前橋水平社事件、野田爭議調停、純正普選、不戰條約問題等多々數へられる。就中關東大震災を背景とする大杉榮の遺骨事件は當時全國の新聞が連日この事に關する報道に紙面を費し多大の興味を天下に投じたるものであるが、好漢下島繁藏氏の隼の如き行動はやがて岩田氏が白布に包んだ遺骨を抱へて警視廳に出現した映畫以上の場面によつて終幕を告げた。此の事件は單なる獵奇趣味の巷談ではなく、實に「社會主義者」の頭上に投下した國家主義者の大爆彈であつた點に大なる意義があることを特に銘記しなければならぬ。星霜此處に十有三年非常時祖國の現狀は迷夢深き歐米模倣の社會主義盲動を未だ完全に拂拭し得ず、此現實を見るにつけ岩田、下島氏等の快擧を續る大化會往年の活動が恰も今日の問題の如く想起されるのである。同會に就いて今一つ特筆すべき事柄はその「道場」である。開場當時こゝには豪勇寺田稻次郎氏がゐた。同氏の愛國陣營における目覺ましき活躍は項を

別にして記述するがこゝでは寺田氏が獨立後秋水會を創立し今日傳劍莊に立籠つて天下を睥睨してゐる事實のみを錄して後日に資する。大化會道場には寺田氏を始め小山清藏、山中利一氏等以下早大生の强豪連が深い關係を結び道場の華と謳はれた。山中氏は其の後日米拳闘クラブを主宰して斯界に重きをなしてゐるが、此の道場出身者にして各地に柔道々場を開設して地方青年の薫陶に當つてゐる者十指を屈するも餘りあり、又本部道場には現在なほ早大生及び附近小學生等青少年の來り練武にいそしむ者多く斯界に貢献する所昔も今も變りないのは慶ばしい。

大日本倶樂部

創　立　大正十四年六月
所在地　牛込區市ヶ谷河田町一九
主要人物　代表者增田一悅

大正の末期國内にみなぎり亘る自由主義、國際主義、デモクラシー等々の惡思想はその惡果「日本共産黨」を發生せしめ遂に大逆賊難波大助を生ずるに至り、他面拜外追從外交は幾多の對外不祥問題を頻々として惹起せしめた。即ち内憂外患交々至り祖國に心を致すものゝ正視に耐えざる悲狀を呈したが此の時弊を匡救打開せんがためには國民思想の是正に俟つより他はなしとし、肇國の御精神を奉體以て全臣民一致皇道翼贊に盡瘁すべしと「大日本」運動を提唱したのが增田氏であつた。斯くして孤軍奮闘精神維新の急務を力說して大日本クラブを創立したのであつた。その綱領は這間の事情を有力に物語つてゐる。

綱　領

日本及び日本人本來の使命の再認識を强調し、外交に内治に日本臣民として眞になすべきをなし至上なる大日本皇國の建設に邁進す

增田氏及び其クラブの運動はあくまでも「精神維新」即ち思想運動であつたゝめ其の動きは多くは表面に現はれなかつた。然し增田氏の名は此の頃から愛國運動の一角にその存在を認められた。而して地下に燃え立つ烈火は時到らば冲天の火焰となる。時弊年と共に深刻化し、ことごとに「祖國危し」の亡國的憂患を露呈し來つた昭和七年都下愛國團體八十有餘を打つて一丸とする國體擁護聯合會に入江種矩氏と共に心身を打ち込み、共産黨撲滅、ミノベ「機關說」絶滅、亡國軍縮條約破棄等の大運動を捲き起した。今や内外の非常時相は幾重にも累堆し眞に庶政刷新を要するの秋、惜くも今夏來健康を害する所となつたが、鬱勃たる闘志の脈打つ處、來るべき飛躍に備へて只管禪三昧の境地に入り魂の鍛錬に精進してゐる。氏の所謂大日本運動とは、日本及び日本人の使命斷行即ち八紘一宇の　皇謨恢弘に翼贊し皇道の世界宣布を扶翼し奉ることを以てその信條となすものであり皇國臣民の俱に由るべき本然の大義明分に他ならぬ。之を内に向つては御國體の信念把握、外に向つては全世界全人類の皇化を現實になすことである。大日本主義による内外政の刷新、それが即ち昭和維新である。此の無血革新によつてまつろはざる者をまつろはしめ洽く人類をして皇化に浴せしめることが八紘一宇の天業恢弘に翼贊する所以であるとしてゐる。

大日本青年聯盟

創　立　昭和二年二月十一日
所在地　赤坂區青山南町二ノ一一
主要人物　理事長久保寺山之輔、常務理事鶴田倉藏、石岡柳光、水間清光、安八龍
機關紙　日本の姿(月刊)

凶逆ミノベ「機關說」撲滅運動においては同憂の愛國諸團體と共に眞摯なる活動を續けたが、本聯盟

創立の趣意

憲法の條章を恪守し　天皇の大權を尊重して各其の天職を盡す
に見るも尊皇愛國の大義顯昭こそはその大使命であり國民思想を善導して昭和維新の實現に貢献する
ことを目的としてゐる事が覗ひ識れる。而して近時不純なる邪惡思想の跋扈と蕩々たる淫風惡風の流
行を見るは之れ教學機關に根本的大缺陷のあるに起因すとの見解より各地に巡回講演を行ひ活動に努
めてゐる。その綱領は

綱　領

一、明治大帝の遺訓を遵奉し以て維新の宏謨を發揚せんことを期す
二、日本特有の文化を根幹として東西文化を融合し以て健全なる思想の發達を期す
三、天職を重んじ新興日本の青年たる使命を全ふせむことを期す

以上三項を貫く要諦は教育勅語の遵奉にある。然るに此の萬世不易の　聖旨奉戴を怠る所に教育の缺陷が胚胎し今日の深憂すべき時局を招致するに至つた。列聖殊に　明治天皇の御聖訓をまめやかに奉戴する外に時局を匡救する道はないと爲してゐる。一方久保寺理事長は內鮮融和の徹底を圖るために昭和四年以來數度に亙つて全鮮を視察した結果現在朝鮮における教育方針にも重大なる過誤があることに氣附き、かくの如きは畏くも　明治天皇の下し賜へる日韓併合の御詔勅の　聖旨に反し奉るものとして日本古典と朝鮮古代史に關する研究を遂げ、內鮮同民族なると共に同祖神を奉戴する（朝鮮民族の仰慕し奉る祖神は素盞嗚尊に在します）本來からの兄弟なることを、內鮮人共に自覺しその融和の絕對性を充分體得せしめんとして右の淵源に溯及相互間の人種的誤解を氷解せしめ正しき教育方針樹立の念願の下に、近く菊版四百頁に亙る著述を刊行無料頒布を志ざしてゐる。

大日本錦旗會

創　立　昭和三年五月十五日
所在地　澁谷區氷川町三六
主要人物　會長本多葵堂、總務山田庄藏、庄司彥男、堤倉次、傍崎東助、小林嶺川、遠藤辰五郎、櫻井北洲、松本守正、小安省吾、八坂鐵郎
機關紙　錦旗公論(月刊)

外は歐米自由主義と赤露の共產主義に包圍され、內は我が建國の精神に背反する利己的思想蕩々と

して民心を惑亂し、經濟界は不況に沈淪して國民生活を脅かすの實情に當面內憂外患共に深刻化せんとする昭和三年「皇道に據る國民啓蒙」「マルクス主義及びユダヤ思想撲滅」「皇道經濟確立」の三大旗幟を掲げて創立されたのが本會である。爾來東京をはじめ各地に於いて隨時講演會を開催或はポスター又はビラによつて其の主張を宣傳大いに活動する處あつた。一方國民精神作興に資すべく伊勢守豐短卿の謹誌にかゝる「神代八百萬御系圖」を各家庭床間掛軸に謹製したものを頒布する等の眞摯な運動も續けた。又昭和六年以來國際危機深刻化するや國防强化を同憂團體と共に叫び、殊に航空施設の急務なるに鑑みて空軍の擴張を主張し、自から同會內に航空部を起し、洲崎埋立五號地三十二萬坪を東京市より借り受けて東京飛行學校及び附屬飛行場を開設、遠藤辰五郎一等飛行士を部長兼教官となし民間飛行士養成に貢獻し、同時に馬術部(現在中野)を設け斯道の振興に努め「亡國的外來スポーツ排擊、飛行技術及び馬術の國民スポーツ化」をモットーとして奮鬪を續けてゐる。殊に目下航空部は著るしく擴充して飛行機三十一臺を擁してゐる。この間八年秋一段の飛躍を期して會の機構に大變革を加へ、情報、會務、財務、指導、宣傳、組織、交涉、出版、企劃、政治、講演、思想、相談、事業、診療、救濟、勞働、授產、代理、航空、體育、劍道、柔道、角道、自轉車、青年、少年、婦人等三十一部門に編成合理化し本來の目的貫徹と綱領の實行に勇往しつゝある。卽ち綱領は左の如し。

綱領

一、皇道日本の建國の大義に則り君民の間に介在する一切の不正を排除し一君萬民の理想政治の完成を期す
一、資本閥偏重の社會組織並に經濟機構の改革を斷行し國民の生存權の確立を期す
一、國際友誼を尊重する一面强硬自主外交により國權國威の宣揚を期す
一、東西文明の融合統一により大和民族本來の使命たる建國の理想實現を期す
一、頑迷保守と急進左傾の非日本的思想の撲滅を計ると共に心身の鍛錬により武士道的雄魂の氣風を育成作興して國民思想の統一を期す

現下論議沸騰の渦中にある「電力國營問題」に對しては絕對國營を叫び國民生活安定恒久策と併行して政府の善處を要望し「皇國の安危とユダヤ財閥の暗躍、國運の消長を決する電氣國有論」と題するパンフレット十萬を發行した。更にビラ一萬枚を東京市內に撒布するほか演說會その他によりこれが實現のため全國的に大運動を起す準備を整へてゐる。因みに大阪、京都、靜岡、靑森、新潟等に支部を有し會員總數三萬餘と稱號し民間大飛行場建設計畫を進める等、今後の活動には注目すべきものが多い。

大日本經國聯盟

創　立　昭和三年十一月三日
所在地　赤坂區福吉町二、一條家別邸內
主要人物　總裁一條實孝、理事長瓜生喜三郎、理事阿部民治、三文字正平、中里義美、大島高精、小林錡、座間止水、澤田壯吉、增田具治
機關紙　經國新聞(月二回)

昭和戊辰の秋十一月菊花馥郁たる明治卽の佳辰をトして明治神宮の大前に於て盛大なる發會式を擧

行、皇道精神を顯揚し、昭和維新の斷行に邁進する旨を宣誓し奉つた。當時の創立趣意書には「肇國宏遠、皇國を擧げて革新の時機に際し、至誠英斷時局に善處するなくんば邦家の興起期す能はず」と大書されて居る。爾來八星霜内に向つては國民思想の整調と頽廢せる政治の肅正を促すと共に萎微沈淪せる經濟の振興を圖り、外に向つては追從退嬰外交に鞭打ちて自主獨往外交の緊要なるを絶唱し、更に世界の大勢を論じて國防の急務を訴へる等天業恢弘の經國的大業に貢獻すべく健鬪してゐる。その指導精神たる綱領は次の如し。

綱　領

一、我等同志は建國の精神を體し經國的政治の實現を期す
一、我等同志は國防の充實を計り皇道精神の顯揚を期す
一、我等同志は肇國の精神に基づく教育制度を確立し、大國民的教化の達成を期す
一、我等同志は皇道精神を基調とする經國的經濟政策を斷行して國民生活の確保を期す
一、我等同志は東亞民族の結成を計り、世界平和の促進を期す

機關紙「經國新報」は創立直後の十一月十五日創刊號を發行し爾後毎月一日、十五日の二回發行、會員並に廣く江湖に呼び掛けてゐる。本聯盟の立役者瓜生理事長は屢々渡支渡滿或は奥蒙古を踏査し東洋平和のため幾多貢獻の實を擧げてゐる。更に又國體明徴の聖戰に際しては全國十五支部を總動員して眞摯な活動を續けたことも周知の通りである。毎月第一第二第三木曜日には總裁邸に於て幹部會を開催する外、月一回或は二回軍部を初め政府の首腦部又は財界の巨頭を招き時局を懇談して内外國策の研究をなしてゐる。本會の事業計畫は

△本部の確立△各地遊説△經國講習會開催△各種團體と提携△國策研究並に座談會△時事問題の研究、指導、對策

等であるが他に昭和八年經國學園を目黒區洗足一四七二の瓜生理事長邸内に創設して專ら滿洲國人の教導機關となし共日本認識を深からしむるに資しその後昭和九年大久保の善隣協會と併合して現に滿洲國人を收容勉學其他の斡旋に努めて居る。

大日本護國青年黨

創　立　・昭和四年十月
所在地　豐島區池袋町八五三
主要人物　黨首須藤理助、理事金子峯吉
機關紙　休刊中

黨首須藤理助氏の過去は孫文、黎元洪等支那改革の中心人物と相許し中華民國陸軍中將の肩書を有してゐると云ふ事によつて略窺知し得るであらう。孫文歿後辛亥革命の精神を沒却せる蔣介石一派と事毎に議合はず奮然袂別三十年の滯支奮鬪の足跡を後にして昭和二年歸朝、計畫を更改して所期する處あらんとした。實地に見聞せる我が遣外官吏の低調と振り返つて見た母國朝野の一致を缺いた大陸政策とは歸朝後同氏をして一刻の安居をも許さず、對外認識是正と國論統一に關する全國的講演行脚を敢行せしめたが如何せん朝野共に耳を傾くるもの甚だ少く、年餘にして自ら悟る處あり同志を求む

るは青年に如かずとし玆に本黨を創立することゝなつた。卽ち「我が國青年の對外認識高揚、國體的信念による團結」は其の標榜する主眼目である。須藤氏は日本國防婦人會總務理事、豐島區青年團長の激職にあり乍ら、屢々農村を巡歷し時代の底流を檢討すると共に農村青年の國民的覺悟堅決に努めつゝある。其の綱領は次の如し。

綱　領

一、日本中心の大亞細亞主義實現
一、建國精神に反する亡國思想撲滅
一、旣成政黨の積弊打破
一、正義に立脚せる自主外交の斷行
一、國防の充實を期す

以上の綱領に準じ爾來堅實なる發展を遂げつゝある。近來祖國內外の非常事態は益々急迫し來つたが須藤氏は今ぞ活動の時期至れりと爲し目下黨事業の擴充計畫、政治的根據の樹立等を考慮の上著々實行に移しつゝある。他面支那の情勢に對しては一家の見識を以てその推移を監視し政府當局の鞭韃激勵に努めてゐる。現在茨城、埼玉、栃木の各地農村中堅層に少數ではあるが健實な同志黨員を有してゐる。

大日本愛國義團

創　立　昭和五年十月十七日

所在地　城東區龜戸町五ノ一一七

主要人物　團長松岡林造、渡邊正良、渡邊健、加治木文男、上田弘晏、清水專二、橫濱支部長大關庄太郎、大關金太郎

團長松岡林造氏は若き日蓮信者である。その愛國運動が異色ある熱意を示してゐるのは同氏の宗教的熱意の然らしむる所である。昭和三年日本共產黨事件が曝露されるや、池塘春草の夢に耽つてゐた指導層の周章狼狽はその極に達した。報國の大義を日蓮に學んだ熱血漢松岡氏は此の思想的混亂を見て奮起し先づ宗教家の覺醒とその活動を以つて此の頽廢的時相に當るべく立正門下青年聯盟を組織して宗祖の心を心として猛運動を續けたが、昭和五年軍縮問題が起り國辱ロンドン條約の締結を見るやいよ〳〵祖國の危機急迫せりとなし宗教運動の世界より躍進して本團の結成を遂げるに至つた。幾許もなく昭和六年萬寶山事件、中村少佐事件等滿洲の不安が漸次濃厚を加へ來るや全國各地に遊說國難來を絕叫した。特に北海道、山陽、四國、九州等を遍歷したが、文字通り山に寢ね野に伏し宗祖の活躍を現實に移すの志を實踐した。本團體は精兵主義を採り、敢へて會員の增加につとめないが相ひ團結する者盡くが宗教的熱意を有してゐるので其の結束は稀に見る强固さがある。

綱　領

一、皇道の本義に則り敬神尊皇愛國の旨を明かにすること
一、列聖の德旨に則り皇道精神の世界光被を期す
一、立正安國の本義に則り徹底破邪顯正の實現を期す
一、知法思國の理想を宣揚し思想の統一を期す

本團創立の趣旨から政治的運動へは這入つてゐないが赤色メーデー排擊運動では建國會と共に双璧と稱されてゐる。

對外同志會（附・滿洲問題擧國一致各派聯合會）

創立　昭和六年二月十九日

所在地　世田谷區三軒茶屋町七五

主要人物　石光眞臣、五百木良三、入江種矩、堀口九萬一、大山卯次郎、大井成元、奥平俊藏、田鍋安之助、高山公通、長山乙介、永雄策郎、內藤順太郎、野中勝明、增田正雄、二子石官太郎、小林順一郎、赤池濃、佐藤淸勝、菊池武夫、貴志彌次郎、四王天延孝、須藤理助、瓜生喜三郎

機關紙　會報（隨時發行）

滿洲事變前の支那及滿洲に於ける排日實情と我が外務當局の自屈軟弱外交とは正視に忍びざるものあり愛國者及愛國諸團體の憂憤嚴起を見たが、されど自由主義の俗流に乘る當時の當路主腦部は一向反省の色なき始末に內外の形勢監視中の石光中將以下頭書の大陸經綸に一家をなす諸豪が相結んで結成されたのが對外同志會である。創立以來內外問題を中心に時局對應の適切なる政策を檢討、政府の猛省と善處とを促し且つ國論喚起のため大健闘を續けた。此の情勢裡に滿洲上海兩事變が勃發したのであつた。此處に愈々本會は大陸經綸實行の機に際會し東洋平和確立の大義に立つて昭和七年四月

一、滿洲國卽時承認
一、在留邦人の安全と排日の絕滅
一、國際聯盟脫退の堅決

以上三項目に亘る決議をなしその貫徹を目指して一段の大活動を演じた。これに先立ち若槻內閣は瓦解し代つて犬養內閣の下に外交方針も一變し、次いで齋藤內閣の內田外相謂ふ所の焦土外交によつて帝國の面目は維持され前記三項の要望もその大半を貫徹し得た。斯くて興國的氣運の趨く處亡國軍縮條約廢棄、軍縮會議脫退等本會の主張は孰れも貫徹されるの形勢を展開し來つたが、對支問題は再燃して現下の急迫せる事態を招來此處にまた同會奮闘の時が巡り來つた。同會の姉妹團體として活躍せるものに「滿洲問題擧國一致各派聯合會」がありこれに加盟するものは

滿洲問題解決同盟を始め東亞聯盟、獨立國策協會、大東同志會、相愛會、滿鮮問題國民同盟、國民外交協會、鮮滿協會、奉天時局委員會、滿洲青年聯盟、吉林居留民會、全鮮時局大會等

十數ケ團體に及びその活潑有意義の運動は幾多の功績を擧げた。

大日本生產黨

創立　昭和六年六月廿八日

所在地　麹町區永田町二ノ八六（總本部、關東本部大阪市北區西堀川町一七（關西本部）

主要人物　總裁內田良平、總務委員長吉田益三、總務八幡博堂、柴山滿、山本千一、鈴木善一

機關紙　大日本生産黨々報(月刊)　　德田宗一郎、西鄕隆秀、久野一雄、片岡駿

我國愛國陣營の大宗たる黑龍會の精神を大衆組織化したものである。內田良平氏を總裁に推戴するだけにその主義、政綱、政策の何れを見るも堂々たるものがある。卽ち左の如し。

主義

大日本主義ヲ以テ國家ノ經綸ヲ行フニアリ

政綱

一、欽定憲法ニ遵ヒ君民一致ノ善政ヲ徹底セシムルコト
一、國體ト國家ノ進運ニ適合セザル制度法律ノ改廢ヲ行ヒ政治機關ヲ簡易化セシムル事
一、自給自足立國經濟ノ基礎ヲ確立スル事

政策

一、華族ハ選下制トナシ新ニ臣民ヨリ列スルコトヲ止メ皇族降下ノ階梯トナス事
二、各省ノ廢合ヲ斷行シ冗員ヲ陶汰シ以テ官吏ノ能率增進ト經費ノ節減ヲ計ル事
三、府縣ヲ併合シ其組織ヲ改革シ地方自治ノ權能ヲ擴張スル事
四、地方ノ財政經濟ヲ徹底的ニ整理スル事
五、選擧法ヲ改正シ一家ヲ構成スル家長ハ男女ヲ問ハズ選擧權ヲ附與スル事

總本部の構成は前揭の他、組織、遊說、調査、勞働、宣傳出版、財政等の各專門部に分れ、相談役評議員十數名づゝを有す。又關東關西兩本部は、統制、組織、遊說、青年、勞働、情報、宣傳出版の各專門部と書記局に分れ書記局は、關東久野、影山、關西柴山、小部の諸氏が正副書記長として黨實務を統括してゐる。神兵隊事件後關東本部委員長たりし池田弘氏は其任を辭し爾來關東關西兩本部とも吉田益三氏が內田總裁の敎訓を體し常任委員長を兼任してゐる。而して活動の主體たる常任委員は兩本部共廿餘名に及び屋臺骨の太さを見せてゐる。殊に黨の前衞隊ともいふべき青年部は關東奧戸足百氏、關西住田德市氏が部長として統制の任に當り今や鋼鐵軍たるの內容を固めつゝある。去る六月廿八日赤坂三會堂に於て創立滿五周年記念全國代表幹部會を開催し、前揭役員の決定を見たが同席上廣田首相に宛て選擧法改正に關する建白書を決議した。卽ち現行普通選擧法は歐米思想をそのまゝに模倣する個人本位に立脚し我國社會制度の根底を爲す家族制度を破壞するものとして夙に內田總裁の喝破せる所である(註、黑龍會の項參照)。同黨關東本部の最近に於ける情勢は『尊皇絕對、生命奉還』の信條の下に此大會を契機として果敢なる思想戰へと發展しつゝある。又關西本部では之に先んじ六月廿日維新政黨結成準備會の中心勢力となつて所謂維新政黨結成の鬪ひに花々しい武者振りを見せてゐる。然し此處に最も注目さるべきは、關東關西兩本部を通じ、神兵隊の戰鬪的中心勢力を結成せる靑壯年黨員(鈴木善一、片岡駿、奧戸足百、白井爲雄、影山正治氏等以下)の動向である。神兵隊事件は近く大審院の公判を見るの運びとなり世間の注目を新にしつゝあるが、連座生産黨員の志は三年間の鐵窓生活に鍛錬され社會事象に對する思索的態度を深化せしめ期待さるゝもの甚だ多き事である。二・二六事件以來幾多の同憂團體に率先して『黨內維新』を强調しつゝあるが如きもその一片鱗である。外部への强き鬪ひにはまづ深き自己批判が必要である。一敗肝腦地にまみれた體驗は明日の正しき態度の好き糧となるであらう。全國に亘つて支部廿ケ所、分會十五ケ所、支部準備會三十ケ所、分會準

備會五ヶ所等に及び關係新聞社十二社に及ぶを見るも其實勢力が窺はれる。

大日本皇國會（附・純正經濟研究所）

創　立　昭和六年十一月
所在地　杉並區和田本町一〇五
主要人物　總務主事栗田勇二、總務淺野武雄
機關紙　皇國運動（月刊）

栗田氏を中心に昭和四年大阪曾根崎新地に創立された「皇國黨」の後身である。始め高田鐵三郎、難波四郎氏等の同志を得て滿蒙問題の研究に專念中滿洲事變勃發し此處に愈よ國際非常時の豫兆明瞭化するや運動の本體を中央に移すの必要に迫られ六年十一月東都に本會の誕生を見る事となつた。國際聯盟脱退、赤露膺懲運動等に奔走する處あつたが創立以來最も活躍した運動はミノベ『機關說』問題である。尙ほ栗山氏は現社會機構の矛盾を痛感之が改革を多年に亘つて主張しつゝあるが一方經濟問題にも夙に着眼する處あり純正經濟研究所を開設し、國家經濟原理の確立を大いに叫んでゐる。此の着眼と絶叫は本會が特殊的な會員層を有つ根本原因をなすものゝ如く從つて今後の期待も主として此點に掛けられるのではあるまいか。其の綱領は次の如し。

綱　領

皇國精神の光輝に照顯せられた相互は、あまりにも不完全へ想到す。然るが故に其の徹底的覺醒と向上の爲め勇猛精進せんことを期す

此の外に會員戒慎の信條なるものがある。卽ち

一、至誠に立つて盡忠博愛の實を結ぶべし
一、皇國の精華を示現し惡化せる思想を革正せしむべし
一、日本魂の眞價を發揮し邪惡なる外敵を膺懲すべし
一、對立抗爭を敎導し一大家族主義の實現に向つて努力すべし
一、皇國民全體を目的とする經濟組織の確立に極力を致すべし
一、皇國精神を忘却せる一時糊塗的目先政治家を飽迄排擊すべし
一、老幼不具癈疾者の幸福、失業者救濟に對し赤誠以て當るべし

以上の如し。此の各條は會員日常の規律である。目下在京會員三百名各地に散在するもの六百名は夫々商業に、官職に、農業に此の信條を恪守して國民奉公の誠を致しつゝある。本會の特色は此處に在り會員外の何人もの財的援助を要せざる點も亦特色とされてゐる。常時は機關紙「皇國運動」を相互の研究發表通信の用に當てゝゐる。創立未だ日淺くして而かも同憂團體より注目されつゝある所以は蓋し此の會員戒慎信條と會の組織方法に負ふ所多いようだ。

大日本青年同志會

創　立　昭和七年十一月廿四日
所在地　赤坂區青山南町五ノ七八

大日本青年同志會

主要人物　理事長鈴木壽雅、總務理事小崎一誠、常務理事稻垣錢夫、林正夫

機關紙　會報（月刊）

滿洲事變後國內に實在する諸々の反國體的事象の解決策が朝野各方面に論議せらるゝや之が根本的對策は青年の奮起に俟つもの多しと爲し赤心熱する處乏しきをも省みず奮起結成したのが本會である——とは創立者の一人小崎氏の語る處、同氏の熱血、稻垣、故奥一氏の着實、鈴木川副氏等の協力に依て成立された青少年道場として稀に見る純眞其者の如き團結である。本會は武道、讀書、聽講の三部門に分れ會員は此の三部門を通じて心身を鍛練する仕組となつてゐる。尙ほ會員たるものは毎朝明治神宮に參拜若しくば遙拜大御心に隨順し奉るべきを誓ふ不文律が嚴存する。本會創立の以前小崎、稻垣、川副氏等の同志青年は青山警察署長木村彌三郎氏の好意により同署練武道場を臨時に使用武道を練磨する一方回天時報社々長池田弘氏等の薫陶を受けて心魂の工夫を凝らしつゝあつたが同志續々として來り投じ玆に本會創立の氣運濃化し遂に昭和七年十一月廿四日明治神宮講會館に於いて發會式を擧行した。續いて翌年四月二十四日木村青山署長、青山會館、回天時報社後援の下に青山會館裏に三十餘坪の武道々場を完成、之よりさき八年一月より毎月發行の會報も內容外觀共に充實整備し一大躍進を遂ぐる事となつた。道場落成以來本會の內容は益々充實、劍道部は中山博道氏、柔道部は六段入來重彥氏、杖術部は清水隆次氏を師範として此の下に、劍道には北里、武藤兩四段以下、柔道には宇佐美五段有馬、三宅兩四段小崎、稻垣、小森各三段杉木二段以下、杖術部には藤、宮川兩目錄以下豪勇を雲の如く擁し、全部員は女子部、少年部を加ふれば四百名に達し堂々斯界を濶步するの觀を呈してゐる。一方中堅青年會員は毎月二回開かるゝ修養會に出席、井上淸純男四王天延孝中將を始め先輩諸名士の訓話を受け文武兩道に相切磋相琢磨してゐる。本會員は小中大學々生あり會社員あり學校教師あり商店員あり種々雜多であるが其數約千六百支部は目下準備中のものを併せて廿四を數へてゐる。各支部の中最も內容外觀共に威容を具へてゐるのは川口支部にして殊に武道部の盛大は本部にも劣らざるものあり、特に柔道部は宇佐美五段支部長を筆頭に有段者二十名を擁してゐる。毎月發行の機關紙「會報」は、本會講師相談役等の訓話以外は全部會員同士の執筆になり新鮮潑溂如何にも青年の雜誌たるを思はしめるものがある。鈴木、小崎兩氏は回天時報及帝國新報社同人として活躍してゐる。尙ほ世の新聞雜誌に屢々謹載される高貴の御方々の御尊影並に御寫眞等が心なき人々の疎漏により其取扱ひ上甚だしく恐懼に亙る場合のあるのは誠に畏れ多き極みであるとし、昭和九年以來全會員一致鄕軍及び小學校等と聯絡御蒐集に奉仕の上、明治神宮に於いて淨祓を受けた後恭々しく上炎し奉つてゐる。此一事を以てしても本會の指導精神が奈邊にあるかを推知し得やう。

對外問題解決青年同盟

創　立　昭和十一年九月二十九日

所在地　淀橋區柏木町四ノ六八九

主要人物　常任理事服部彰彥、中村政司、福島健

我が歷代外務當局の寬大に狎れた支那國民政府は增上慢の一途を辿り遂ひに這次の成都事件を惹起

し、然も該事件を發火點として久しきに亘る排日・抗日の惡質言動はいよ〳〵狂暴化して隨所に惡逆無道鬼神も面を反けるが如き侮日暴力行爲を擅にした。かくて唯「日本人」なるが故に我が第一線の在留邦人はその生命財產を鬼畜の毒牙の下に晒らすの危險に瀕した。此の國家の面目を泥土に委したる國辱に直面して最早一刻の逡巡も許さずとなす硬論は民間各方面に沸騰した。殊に血氣に逸る愛國陣營青年層の憤激は冲天の慨を示すものがあつた。元より支那の「一面親日・一面抗日」の裏面は舊套依然たる「以夷制夷」政略であり殊に輓近に於ける英露の使嗾煽動が介在することは歴然たること乍ら、要は虎の威を藉る國民政府の驕慢が今日の暴狀を招きたるものなりとして、對支硬、打倒蔣政權の旗印の下に都下愛國陣營各派青年層は九月廿九日麴町區內幸町レインボーグリルに集會、時局懇談會を開催して大いに烈々たる鬪志を示したがこの懇談會を母體として生れた青年の結盟が卽ち本同盟である。同懇談會は昭和義塾前田芳藏、鶴鳴莊摺建克夫、維新倶樂部三島助治、愛國革新聯盟伊藤信司、大亞細亞民族會高鍋日統氏等の斡旋下に開かれた關係より以上の諸氏が本同盟の產婆役として盡力する所尠くなかつたと言ふも大過はなからう。斯くして對支硬を中心に雄々しい產聲を上げた本同盟は、對支問題解決を繞り派生すべき或ひは拔本塞源的意味よりすれば寧ろその禍根ともいふべき對蘇對英問題を含め對外情勢の變化に應ずるの覺悟と用意との下にその名稱も「對外問題解決」と冠したものである。その結盟の翌日卽ち九月卅日廣田首相、寺內陸相、永野海相及び有田外相等に對して速かに斷乎たる勇斷を振はれんことを要望し、特に首相に對しては外相當時の言明「就任中戰爭なし」と言ふが如き消極的退嬰論を捨てゝ問題の解決に勇往邁進され度き旨を卒直に披瀝し、又外相に對しては外交方針の積極的轉換を直情以て進言同時に意氣の逆る處支那大使館に痛烈なる抗議書を提出し、又軟弱極まる東京朝日新聞に對しても警告を發する處あつた。發會早々素面素小手の猛鬪振りに早くもその存在を認められた青年鬪士達はその後の日支交涉趨勢益々非なるの觀を呈するや一段と馬力をかけ十月廿五日淀橋公會堂における「暴支膺懲演說會」を皮切りに同廿九日芝において烈火の如き熱辯を揮ひ會開催のダイヤを編成、輿論の喚起に努力してゐる。

大日本青年黨

創　立　昭和十一年十月十七日

所在地　澁谷區穩田一ノ一二五

主要人物　統領橋本欣五郎、松延繁廣、藪本正義、陶山篤太郎、大川兼一

去る十月十七日神嘗祭の佳辰を卜して明治神宮の大前に宣誓結盟したる橋本大佐を統領とする政治結社である。今夏の肅軍異動により豫備役に編入された同大佐は二十有六年の陸軍生活を去ると共に數年來把持する思想經綸を提げて忠誠眞摯なる祖國運動の戰線に伍することを決意し直ちにその準備に着手した。卽ち九月一日附を以て廣く友人舊知に書を致し其の抱懷する思想と時局觀とを併記し之が對應の所信を左の如く披瀝した。

吾人は雄飛一番舊來一般の迷念より脫出し眞に國家の强力を完全に　天皇に歸一し奉り國力の最大限を遺憾なく發揮すべく國家體制を新定石に移すにあらざれば此難局を切拔け光輝燦然たる大和民族の歴史的使命を遂行すること絕對に不可能と確信仕候、而して之が具現の爲には吾人は忠誠一本和衷協力國家の難局に向つて赤誠

奉公するの決意最も必要と存候、神々も照覽あれ

今回の豫備役編入及之を契機として全面的活動に乘り出した事は是將に天意を享けたるものと確信してゐる。かくて舊知の間柄たる舊神武會幹部にして曾て東京市電自治會或は大日本鐵道從業員組合等に干與した松延繁廣氏及び同じく神武會幹部或ひは社會民衆黨に關係せし藪本正義氏並に舊社會民衆黨より日本國家社會黨を經て愛國政治同盟へと轉向した陶山篤太郎氏等、大衆運動に經驗を有する人士を併せ著々と結黨準備を進めた。その準備工作中眞僞兩面の雨と降る噂の中を驀ぐらに切り拔けて大日本青年黨の組織獲得にまで漕ぎつけた。而して結黨後僅かに旬日餘の同月末には各地の憂國青年にして入黨志願の書を寄せ來る者すでに約五百を算した。本黨は未だ生れたばかりの天眞爛漫たる嬰兒であるが其呱々の聲は「白日の下、赤誠を以て仕へ奉る」といふ意志を象徴せる旗印に反映して將來昭和維新の聖戰場裡に三軍を叱咤せんとする意氣と熱情に燃えて居り、統領たる橋本大佐も之が大成に八年計畫(總選擧二回經由)を樹立してゐる。この八年計畫の樹立は同黨の前途に横たはる難關の重疊と之を切り開く自信とを併せて物語るものであらう。その革新意識を盛つた宣言決議は左の通りで、之を要約すれば「皇業恢弘により道義世界を建設するを以て目的とする」といふにあるが、未だ多くを語らず、行はざるの今日においては、唯その全文を掲げて活動の實體が表現さるべき將來への參考に資することゝする。

宣　言

世界は今や唯物的自由主義の行詰りにより玆に一大更新を必要とする歴史的轉換機に直面せり然るに世界各國は何れも舊國家生活委應より未だ完全に更生し得ず其實力相伯仲し嶸新他に光被するに足る體制を有する國家無し。此時代に於て一歩を先んじ優秀なる國家體制を確立するものは正に世界に光被するを得べし。惟ふに八紘一宇の顯現を國是とする我國は即時本然の發揮に依り國民の全能力を擧げ　天皇に歸一し奉り、物心一如の飛躍的國家體制を確立し光輝ある世界の道義的指導者たるを要す。右宣言す。

主　張

一、精神的飛躍　我國體の尊嚴は無上絶對、普遍眞理の顯現なることを國民に感得徳底せしむると共に此主張を以てすれば當然世界の道義的統一をなし得べき確信を信仰的ならしめ且つ現唯物的自由主義機構の下に萎微しつゝある我民族の純正明朗にして不偏中庸叡智的武勇的仁義的なる高級對質を進歩的形態に於て再生堅持せしむるは勿論益々之が助長發達を策し精神文化の中枢とすべし

二、經濟的飛躍　經濟は之を營利主義の桎梏より開放し資源勞力及び技術を價値の根源とし國家之を統制管理すべし。生産に於ては勞力、資源の有する限り調整したる國家企業を最大限に擴張し國民生活を極度に向上せしむるを第一義とし飛躍的增産を敢行すべし。勞力の能率を最大限に發揮せしめる爲め近代科學を極度に利用すべし。貨幣は資源勞力技術により生産せられる價値數量を其準備實質たらしめ國家之を發行し單に交易的價値を有せしむべし。貿易は國家之を管理し原則上國家必要範圍に制限すべし

三、外政的飛躍　我版圖内に於ては緊密なる有機的體制の下に各民族の特質を發揮せしめつゝ制限的自治を行はしめ全體的に民族文化の向上を圖り皇化の實體化を行ふべし。此方式を以て逐次世界に及ぼすべし

四、軍備的飛躍　皇業恢弘の實行に對し主義を異にする諸國家妨害を爲す場合隨時之を克服し得るの絶對的軍備を完成すべし。軍備の主體は無敵空軍とし軍の航空機たるの觀念より脱却し國家國民の航空機たるの觀念に至らしむること恰も古來我國民の日本刀に對する信頼と同樣ならしむべし

五、政治的飛躍　政治は皇業恢弘の完成に全能力を集中し何等の徒勞なからしむる爲め之を完全に信奉する全版圖の同志を以て其指導に當り　天皇に實を受くべし

そ之部

祖國會（附・學苑社）

創立　昭和三年九月
所在地　杉並區井荻三ノ一
主要人物　常務理事北岭吉、理事若宮卯之助、武田豐四郎、下位春吉、高須芳次郎、高倉寛
機關紙　月刊「祖國」

本會は日本哲學研究の目的を以つて北岭吉氏を中心に斯界の有志多數を糾合大正十五年七月創立された「學苑社」の思想運動機關である。昭和三年九月設立直ちに機關誌「祖國」を發刊、當時思想界に蟠居政界へも異常の進出を見せてゐた大山郁夫等の勞農黨一派と對峙果敢なる理論闘爭を開始した。北氏は哲學專攻の學究者にして而も打てば鏘々の響きあり愛國主義派陣營中稀に見る偉材として夙に其名を成してゐるが機關誌「祖國」は名實共に日本主義派雜誌中の巨星にして「中央公論」「改造」に拮抗した。此の城砦に立て籠つた同氏の舌鋒筆劍は愈々冴え縱横無盡に思想戰野を馳騁、特に統帥權干犯、倫敦條約反對、滿洲國承認問題等々に活躍した。昭和七年國際時局の重大性に深く鑑みる處あり、單身渡米ロスアンゼルス、ポートランド、シヤトル、サンフランシスコ等をはじめ各地の在留同胞に祖國の急を告げ其決意を促す處あつたが當時講演行脚の各地では風を望んで馳せ參ずる同憂同胞群をなし直ちに前記四市では祖國會の支部を設置する事となつた。北氏の熱意が如何に萬里異域の同胞を感激せしめたか思ひ半ばに過ぐるものがある。同會の目的は次の如し。

目的

一、政黨の所屬と階級の差別を超越し我國の傳統に基づき世界の進運に順應、祖國の全的發展に寄與する事
二、眼國日本の根本義を研究して、國民の遵守すべき原則を闡明す
三、國際危局に對應し、內、社會正義に立脚する具體的政策を樹立して、之を全國民に徹底せしむる事
四、一切の非祖國的思想と運動との根源を究明し、拔本塞源的對策を講ずる事

祖國會創設以來機關誌「祖國」を背景に北氏及び其一黨は各地に祖國主義の講演戰闘を續け目下全會員は三千七百名に及んでゐる。北氏は今春の衆議院議員總選擧に鄕里新潟縣佐渡より立候補見事に當選、無所屬團にあり、江藤源九郎、中原謹司、平野力三氏等と共に日本主義派として議會の一異彩を爲してゐる。なほ二・二六事件の大立物北一輝氏の令弟である。今後新官僚の專横に痛擊を加ふべく目下準備中の模樣であるが其活躍は大いに期待される。

綜合國策研究所（附・帝國憲法學會）

創立　昭和十年四月三日
所在地　赤坂區新町五ノ二
主要人物　專務理事板橋菊松、主事林忠雄、井田磐楠、早川鉄冶、菊池武夫、四王天延孝、江

綜合國策研究所

藤源九郎

本會は第六十七議會において至重至大の政治問題化せる「憲法學說」問題を契機として奮起一番愛國陣營に歸り咲いた法大及び拓大教授板橋菊松氏を中心とする「帝國憲法學會」同人の組織する實行團體である。即ち本團體「綜合國策研究所」は「帝國憲法學會」と不二一體表裏不可分の關係にある。換言すれば「機關說」根絶のため昨春來健鬪せる「帝國憲法學會」を純然たる研究機關に止めて新たに「綜合國策研究所」を創設したのであつて、嚴密に創立月日を記せば「昭和十一年九月一日」であるが如上の事情より「帝國憲法學會」のそれを適用した。而して本「研究所」の沿革活動並びに活動方針を知らんと欲すれば「帝國憲法學會」のそれを先づ究めるを便宜とする。乃ち

目的

帝國法學會は帝國憲法の學理を闡明し、併せて新情勢に適應する政治外交財政及び其他の重要問題を講究するを以て目的とす

之れ、同會の目的たると共にまた宣言綱領でもある。同會は、その前身「憲法學說再檢討の會」時代より憲法理論の研究に終始一貫して來た。時恰もミノベ博士等帝大法學部派の「機關說」根絶を中心とする御國體の本義明徵の大聖戰が全愛國陣營總動員下に展開するに際會して同會も憤然と蹶起した。かくて法制研究の立場(法理上)から「機關說」絶對排擊の雄叫びを擧げて聖戰場裡に馳驅した。その主なる戰績を列擧すると

一、當時の政府岡田内閣に法制局長官の要職を占むる金森徳次郎氏の「機關說」信奉者たるの事實を最も早く究明して糾彈の矢を放ち猛擊急追して遂ひに本年一月引退に至らしむ。

一、岡田内閣の措置甚だしく不徹底且つ欺瞞的たるに鑑みて、會員を總動員して全國的に發禁漏れの邪說唱道著書を調査指摘してその即時處分を政府に迫つた

一、その一方國體明徵徹底に關する諸種の獻策、進言を屢次に亘つて政府要路に敢行す

一、庄子野利一氏(當時明總會主事)が美濃部達吉、清水澄兩博士を「朝憲紊亂」の罪で再告發するや主腦部は司法檢察當局に對し寸毫も苛責せず斷乎糾明處斷すべしと進言輾轉に努む

一、本年御講書始めの御儀に際し御側近奉仕者並に宮内當局者等が穗積重遠博士をして恐懼にも「機關說」の種本たる獨逸ギアケの「團體法」を御進講せしめ奉つたことの不都合無忠誠振りを糾彈す

一、現廣田内閣の組閣工作中ミノベ不起訴等に於て國體明徵を妨げたとの疑惑渦中にある前法相小原直氏の居据りが計畫されるやこれが阻止のため要路に建白上申して目的を貫徹した

一、二・二六事件に伴ふ戒嚴令發動への形式が「機關說」思想たる疑義を挾まれることに關し政府並に當局へ警告す

一、本年度高等試驗委員に邪說信奉者たる東大教授野村淳治博士起用に關しその非を擧げて首相以下關係關僚に上申建白す

以上同會獨目の活動は同會(帝國憲法學會)及びその外廓たる「綜合國策研究會」「法制經濟研究所」等の研究に俟つて行はれたのであるが、今回頭書の如く「憲法學會」は單に研究機關たるに止め實行機關として「綜合國策研究所」を具有することゝなつた。即ち同「研究所」は前述の「綜合國策研究會」及び「法制經濟研究所」等「憲法學會」の外廓機關を結合して生成したるものである。要するに過去の足跡に徴して、玆に内容實力共に一段と强化せる實行機關を併有したことは「憲法學會」としては「鬼に金棒」と言つてよからう。更に附言すれば綜合國策研究所は帝國憲法學會の研究事項の遂行を擔當憲法定說

の確立と併せて國體明徴を基幹となす諸般の施設革新に向つて精進せんとするものである。卽ち我が御國體の本義を愆る「天皇機關說」を徹底的に排擊絕滅して　天皇を統治權の主體とする　天皇政治の根本義を確立し、有ゆる法制文敎、其他諸般の施設の建直しを斷行することこそ昭和維新の根本的意義であるとなし、眞個皇道精神發揚の指導原理を闡明し以て新時代に適應する綜合國策樹立に邁進を期してゐる。從て現政府の行はんとする「國策」に對しても嚴正なる檢討を加へつゝあり今後その驥足の延びる所は刮目されてよい。尙ほ專務理事板橋氏は夙に愛國運動に携り多くの戰績を殘してゐるが中頃より學界に身を投じ證券及び信託の法律制度を中心とした經濟法制の研究に沒頭し旁ら敎鞭を執つてゐた。しかし常に廣い意味の國法學殊に憲法理論の研究に深甚の注意を拂ひその結晶が今日その著書「當代憲法學界展望」を始め「我が國體と憲法論爭」「最近憲法問題論策」等と成つて現はれてゐる。又全國官公私立大學五十餘校の有志敎授を糾合する「全國大學敎授聯盟」に常務代表たり、「大學」に集喰ふ赤化思想並に自由主義等一切の反國體的邪說掃滅に盡瘁し著々敎學刷新を實踐してゐる。

な之部

內外更始倶樂部

創立　昭和三年八月一日

所在地　牛込區原町一ノ四九

主要人物　責任代表角田淸彥、代表兼書記長平野小劍、外交部吉川晳、政治交涉部西村泰藏、勞働部入澤吉次郎、農村部坂本淸作、事業部兼連絡部畑中光珠、拓務部影山知二、宣傳部楢原春燒

機關紙　革新時報（不定期）

「民政」若槻內閣の幣原外交は終始一貫拜外自屈事每に我が對外國步の退嬰を招致し遂に支那をして增上慢の暴情を重ねしめ不祥事續出の悲情を呈するに至り愛國識者は續々蹶起對支硬の國論喚起に努めた。角田、平野、入澤三氏等も憤起して打倒若槻內閣の運動を起した。かくて若槻內閣は輿論の前に瓦解して田中內閣の時代となつたが支那の增長は依然止まる處を知らず終に濟南事件を惹起するに至つて國論は沸騰した。當時政友の現地保護の主張に對し民政は依然現地放棄を固執して止まず遺憾に耐へぬ狀況を呈したが現地視察の必要を痛感した前記三氏は昭和三年早春渡支約半歲に亘つて詳に實情を調査歸朝後同志を糾合結成したのが本團體である。創立後約八ケ月に亘り全國各地を講演行脚して現地視察報告を兼ね國民の對支認識自覺に熱中する中、賣勳及五私鐵問題が勃發するに際會し此處に內外政の更始一新を期し

皇國日本國體擁護國防根本義　全世界內抱皇政復古更始　天皇親政本然絕對必須施爲　祭政維一復古顯現

を高唱した。恰かも田中內閣に代つた濱口內閣の拜外自屈外交爆擊のため當時存在せる大衆統一協會と固き握手の下に內閣倒閣運動を捲き起し、東京本所公會堂をはじめ市內十數ケ所で彈劾演說會を開催して火花を散らした。昭和六年六月主腦部は支那視察より歸朝せる故森恪氏と會見支那事情を聽取して對支問題に對する國民運動の一層急なるを痛感し輿論喚起のため約二ケ月に亘つて各地に講演

會を開催すると共に前記「祭政維一復古顯現」に關し政府要路者に進言、其の實現を促す所あり、又亡國的海軍々縮條約に對する聖戰に當つては同憂團體と共に挺身的運動を續け、更に國體明徴の徹底的運動に於ては青年訪問隊に平野氏を參加せしめて眞摯熱烈なる運動を續けた。二・二六事件後は專ら國際情勢に鑑み全國民に對する銃後運動を起して非常時に對する認識强化に努めて來たが近く對外問題に關し大運動を起すべく目下萬全の準備を進めてゐる。因みに同クラブの指導精神たる主義綱領は左の如くである。

主　義

一、純正國家主義を體し、皇國の精華を顯揚し道義的世界の統一を期す

綱　領

一、純正國家主義に則り被壓迫者の社會的、政治的、經濟的の桎梏解放

一、國防、國策の確立による亞細亞民族の團結と弱小民族の解放

南町塾

創　立　昭和七年十二月一日

所在地　赤坂區青山南町三ノ六〇

主要人物　塾主宅野田夫、講師生田目經德

機關紙　大日本新聞ヲ準用

我が南町塾は、畫壇の鬼才宅野田夫畫伯がその胸底に燃ゆる勤皇愛國の至情已み難く、御國體の尊嚴を顯彰し奉り內外の時弊匡救を念願して創設したものであり、同氏の居住する青山南町の町名に、建武中興の大業を翼賛し奉つた大楠公以下諸忠臣の遺風繼承を志すところから「南朝」の二字を利かせて稱呼したものと云はれる。さればその塾則も勤皇思想の實踐鼓吹を熱烈に表明してゐる。

塾　則

一、皇室至上主義を信奉す

一、勤王愛國思想の鼓吹を爲し非國家的思想を排す

時代に對應して此の精神此の使命を、より深くより廣く、究明徹底せんがため毎月一回第三日曜日午後一時より同塾講師水戸派國學の泰斗生田目經德氏の講筵が開かれる。同氏の講義資料は司法省藏版、木村正辭博士編纂「憲法志料」(卅九冊)で、該書は我が「萬葉」學者として劃時代的な盛名を謳はれた木村博士が、明治十年より同十七年に至る七年間その心魂を碎き神代から當時に至る悠久三千年我國獨自の法規を集成したる大著述であり、萬邦無比の我が國體の尊嚴を昭示遊ばされ給ふた「欽定憲法」の草案起草者が至重の資料として參考となした由緒深いものと傳へられてゐる。現在同書は、司法省、上野圖書館及び平沼騏一郎男、筧克彦博士等の所藏するものを合せて全國に約十部を數へるのみといふ稀覯本であるが、南町塾使用中のものは故文學博士小中村淸規及び故法學博士花井卓藏兩氏の舊藏にかゝり、彼の花井博士の卓拔なる憲法論は實にこの「志料」に基礎を置いたのであつた。南町塾が從來獨特の卓拔せる意見を吐いて朝野の指導層に警告し來つた活躍は塾同人の熱誠は勿論ながら又本書に負ふ所尠しとせぬ。尙ほ本書講義中生田目氏により神代における法規として取扱ふべき條項

を三ケ條追補するの要あることを發見するに至つたことは同塾として大收穫たると共に又斯界への大きな貢献ともなるであらう。思ふに南町塾が主として同書を講義する所以のものは之に依つて同人がその本來の精神を長養すると共に他面同書の皇魂的根髓によつて時難を克服せんと志すが爲であらう。塾主宅野氏は夙に　君側の廓清を叫び昭和三年以來暫く回天時報に「軒滴」と題して本問題を論じ其の熱烈と縱横の見聞を以て世に愬ふる處あつた。尙ほ又自ら「日本第一新聞」を起し同紙上八面六臂の勇を揮ひ、更に昨年夏國體明徴の聖戰半ばにして新聞「日本」の休刊あるや、當時の時局に鑑みて日刊「大日本新聞」を發行その社長として奮闘した。その痛烈なる直言は偶々筆禍事件を惹起するに至つた事さへあるが燃ゆる赤誠と其志は認められねばならぬ。二・二六事件以後は大いに自粛自戒、目下は南町塾の定例講義を中止すると共に「大日本新聞」も週刊となし恰も氷の如き冷徹なる靜けさを守り只管其天才的彩管にいそしんでゐる。

む之部

無名士倶樂部

創　立　昭和七年九月十七日

所在地　牛込區馬場下町三五

主要人物　會長直原東洋城、幹事城南支部長松本芳市、城西支部長中原士武一、横濱支部長肥後守造、横須賀支部長小林天龍、横須賀支局長登坂亮一、神戸支部長山本守雄

機關紙　無名士新聞(月刊)

皇國日本今日の興隆は實に地下三尺に埋もる無名士の赤誠と意氣とがあづかつて大いに力ある。然るに現代は如何、名譽の肩書を持つ有名士が歐米自由主義に惑溺し或は物慾のために賣勳事件や疑獄事件を惹起し其亡國的醜狀正視に堪えずと爲し、昭和七年全國の露店商に向つて檄を飛ばして設立されたのが我が「無名士倶樂部」である。結成以來四ケ年、二萬に近い會員を擁し毛色の變つた愛國團體として各方面から注目を惹いてゐる。

綱　領

一、傳統的日本精神を基調としその潑溂たる創造生活の實現を期す(創造生活)
二、貨幣經濟を中心とする經濟政策より一變して人間生活を中心とする經濟生活への轉向(人間生活)
三、政治政策として中央集權を是認するも地方分權の擴大强化を期す(自治生活)

以上三要綱の下に專ら大衆層に着眼して地味な運動を續けてゐる一方「無名士」の正しい生活擁護のためには

一、金融問題
一、百貨店(小商人に依る)對策
一、都市消費組合問題

等の主張を有し、當路の熟考金權の反省を促し來つたが、直原會長は「歐米自由主義思想」の流行に

動もすれば追ひ捲くられんとする我が國民思想の不動確固の爲め不斷に努力を拂ひその機關紙によつて會員の自覺と決意とを鞭撻すると共に一般の啓蒙運動にも腐心し殊に「第二國民」たる幼少年層に留意する處深く街頭紙芝居業者方面にも手足を伸ばし一昨春來全東京を初め横濱、神戸、其の他全國の會員を通じて繪畫の配給を開始し所期の目的貫徹を計りつゝある。赤化運動の徒が煽情的な言辭を連ねて覗ふ無名士層防護に獨自の活躍を爲しつゝある我が「無名士倶樂部」の存立は確かに見逃せない意義を有つてゐる。

け(げ)之部

健國講演會

創　立　大正十二年九月

所在地　牛込區西五軒町三四

主要人物　會長鹽田盛道、理事熊谷九十九、和田正、栗原謹一郎、細野來馬、三鍋捨次郎、顧問大井成元、築紫熊七、岡部長景、五百木良三、佐藤清勝、波多野二郎

「建國」は天業にして「健國」は我等臣民の業、卽ち靈忠報國である――といふ鹽田會長の辯をそのまゝの此會名である。そして專ら講演と出版とにより報國運動に健鬪してゐる。元來鹽田氏は刀圭界の出身で藥匙を捨てゝ愛國陣營の人となつた云はゞ此方面の變り種の一人である。かつて某氏が「鹽田君の行き方は平泳ぎだよ、この非常時にそれで間にあふかね……」聞きやうによつては隨分皮肉な質問であるが當の御本人はたゞニヤリと笑つたゞけ……そこに同氏の風格がある。派閥に超然として地道に十四年間一日の如く、世界皇化への絶對臣道を說き來つた。軒滴石を穿つ。推すに足る變り種だ。

吾人は須らく宇宙の眞理を窮め天意を體得して「マコト」を宣布すべし

と叫びこの主張の下に「世界統一人類一族」を唱へ、世界皇化に人類生活のあらゆる部門の最後の目的を導入し、思想、宗教、政治、教育等萬般にわたり獨自の見解を力調してゐる。一黨を引具し既にその講演足跡は全國にわたり、今日までに同氏の講演に接した者は六十萬人に達すべしと云はれてゐる。著書に「皇國大日本と其の使命」及び「國體の淵源」があるが、前者は講演速記錄、後者は氏の抱懷する思想の略記である。ミノベ「機關說」掃滅に心魂を碎いて奮鬪を續けてゐる隱れたる鬪士の一人だ。邪說討滅の聖戰全國に展開せる當時前記「國體の淵源」は雜誌に新聞に轉載され識者の注目を惹いた。最近の講演日程中の壓卷は十一月一日信濃善光寺の　明治天皇廿五周聖忌奉仕に際し同寺勸進の下に全國の宗徒を前に「國體明徵」に關して熱辯を揮ふた事である。佛徒に何を說き何を敎へたか、その說敎の內容に興味と期待はかゝる。或ひは之を轉機として十四年間の平泳ぎから俄然泳法をかへて拔手を切るのではなからうか！　その胸中何事か策戰が秘められてゐるようだ。本會の綱領は左の如くである。

綱　領

一、一君萬民思想の徹底

一、世界の皇化
一、國防充實と軍人精神の普及
一、皇國經濟策の確立

原理日本社（附・シキシマノミチ會）

創　立　大正十四年十一月三日
所在地　（本社）世田谷區若林町二七八　（事務所）麴町區內幸町商興ビル內
主要人物　三井甲之、蓑田胸喜、松田福松、上領一郎、鈴木雄一、齋藤隆而
機關紙　原理日本（月刊）

原理日本社は愛國陣營に於ける特異的な存在である。思想雜誌「人生と表現」を主宰せる三井甲之氏に蓑田胸喜、松田福松氏等が中心となり年來の同志と共に大正十四年十一月時弊漸くその極に達せんとする折創立され、帝大、一高、慶應等の求道心に燃ゆる學生諸君が集まつた。政黨の潛上慢、一部資本家の專橫、外交問題の低調、言論機關の亡狀等正視にたえざる憂ふべき時相も畢竟思想問題を解決するに非ずんば斷じて是正不可能となし「學術維新」を宣言し力强く明治以來自由主義の淵叢溫床を爲した帝大法學部の學風改革を主張した。これは此の十年間愛國派陣營が主として外交政策の是正既成政黨の痛擊專橫財閥の排擊から漸を追ふて「天皇機關說」卽ち憲法學說問題を中心として帝大學風の批判に入り此處に初めて根本的全面的に現狀打破の叫びをあげるに至つたコースを逆に最初から時弊

の禍殃を衝いたものであり、思想團體原理日本社の面目は此處に存する。曾つて大正の末期から昭和に掛けて一般社會主義の內からマルクス主義が斷然頭角を表し「日本共產黨」を生み反マルキストを自稱する官學私學の學者中一人の起つて積極的なる學術折伏を爲すもの無くたゞ書齋に籠つて困惑するの時、獨り祖國と人道の爲め學術的に之と爭つたものは實に原理日本社であつた。マルクス主義の溫床帝大法學部の學敵美濃部末弘諸教授に對しては數回に亘り果敢にも立會演說が申込まれたが遂に一回の應諾もなかつた。此間たゞ河上肇、瀧川幸辰教授等マルキストの立て籠る京都帝大に於て蓑田胸喜氏を中心の火花を散らした論爭講演會が行はれてゐるが之等の事業は原理日本社が書齋派の思想團體に非ざるを如實に示す一證左である。全マルキストをして「蓑田胸喜怖るべし」と悲鳴を擧げさしたのも此頃の事である。岡田內閣當時憲法學說問題に超弩級的正々堂々の論陣を張つた事は最近の問題として世の記憶に新なる處である。當面畢陣の論鋒は未解決なる憲法學說問題の追及に集中され「機關說」再興の日本評論社發行末弘嚴太郎末川博責任編輯「新法學全集」及び「新法學辭典」の痛烈なる解剖批判が闘はれつゝある。此の大論陣の進擊と相俟つて關係當局にはそれ〴〵進言鞭撻が行はれてゐる。原理日本社の眞精神は、日本國民の綜合生成的傳統生命の無極開展のため、世界文化單位として確立せる「原理日本」を究明宣說し、內外一切の凶惡思想運動に對して永久思想戰を展開し以て內に國體明徵の徹底を圖り外世界文化と人類生活の思想向上を圖るに在り、之が爲め傍系團體シキシマノミチ會と共に「明治天皇御製」の拜誦隨順に只管精進するにある。全國各地各階層に熱烈なる社友を有し凡そ三千名と見られ、三井、蓑田、松田氏以下數十名の同人を動員すれば今日からでも直ちに純日本學派の綜合大學を建設し得る實力を有してゐる。機關紙「原理日本」は權勢威武に屈せざる大筆陣を以

て鳴る。同人の著書は數十種に及んでゐるがその三四を擧ぐれば、三井氏「祖國禮拜」「我等は如何に此凶逆思想を處置すべきか」。松田氏「大學より發現する日本赤化運動の現狀と其學術的折伏」。田尻氏「國民同胞和歌集」。蓑田氏「獨露の思想文化とマルクスレニン主義」「學術維新原理日本」等である。

建國會

創立　大正十五年二月十一日

所在地　荒川區三河島町六ノ三五

主要人物　會長赤尾敏、書記長深澤源造、理事河野康夫、道本塵外、前衞隊幹部杉森政之助、古賀敏夫、坂田寛之

機關紙　皇道（月刊）

本會名はモスクワの幕營から最も嫌がられてゐるもの丶一であらう。それ程に對蘇强硬論には必ず無くてはならぬ一役を持つてゐる。二・二六事件後全都の愛國團體が其の運動を全く休止して居た時も本會は對蘇國交斷絶の一本槍で活潑なる動きを見せて居た。蓋し本會の對蘇問題に對する熱情を見るに足らう。會長赤尾敏氏は弱冠幾何も出でざるに單身孤舌國民精神作興と國民意識昂揚のため建國祭擧行を唱道し朝野有志を勸說すること數年其の熱意は漸く世の認むる所となり、大正十五年の紀元節を期して第一回の建國祭が擧げられ爾來全國民の御國體に對し奉る敬虔赤誠を表現する一大國民運動として缺くべからざる我が國年中行事の一となつた。此の第一回建國祭擧行の當日、愛國運動團體として上杉愼吉博士、高畠素之氏等を主柱として誕生したのが本會である。上杉博士、高畠氏共に今や亡し。而かも此處に十有餘年、年々歲々盛大となり往く二月十一日の紀元節大行進を眺めては赤尾氏の感慨や實に深きものがあらう。然し本家の建國會は其の後幾度か當局の彈壓と內部に離合集散があつたが、其の主唱者であつた赤尾氏は遂に推され本會を主宰する事となり現在に至つた。創立當時より終始一貫共產黨を當面の敵として活動を續け、國內に於ける左翼勞働爭議の破壞、メーデー許可反對運動、左翼演藝映畫反對運動等全く對蘇最强硬運動の最尖端に起つた。昭和三年三月第一回の日本共產黨檢擧あり赤露の陰謀白日下に曝露するや赤尾氏以下同會員の憤激は極點に達し遂にロシア大使館を襲擊幹部十一名は盡く下獄するの犧牲を見たが不撓不屈健鬪大いに努めて居る。一方ロンドン條約、勞働組合結成反對等にも多大の犧牲を拂ふたことは人の知る處である。昭和八年會內に洗心道場を創設左の如き綱領を定め專ら會員の精神修養に努めてゐる。

綱領

一、惟神の大道に立脚し皇道を中外に宣揚す
二、天皇政治を確立し議會中心主義を打倒す
三、日本國體に背反する一切の既成政黨及赤色無產黨を撲滅す
四、日本の建國原理に背反せる資本主義的經濟制度に反對し　天皇の下に「產業大權の確立」を實現し一君萬民の無搾取國家を建設せんことを期す
五、共產主義社會主義國家社會主義等一切の社會主義に對し嚴乎として之が討滅を期す
六、皇道の旗の下に「六合を兼ねて宇大となし八紘を掩ふて都を開く」建國の理想を實現す

此の綱領により會員は素朴質素な日常生活を送り一死報國の熱意は益々研磨され直ちに國難に赴くの慣習が養はれ他に比類なき猛烈果敢な運動を續行し愛國陣營中特殊な色彩を示してゐる。本會は昭和維新は共産主義掃討が徹底化されて始めて實現し得るとの確信の下に行動、精兵主義を堅く取り敢て會員を積極的に求めないのも亦異色の一である。本會設立の大眼目たる打倒赤露の日も今や目前に迫り單に時期の問題となつた。本會主張の決算期に際し主腦以下の自重を切に希望して止まない。

建武義會

創立 昭和十一年三月廿七日

所在地 赤坂區青山北町六ノ四五

主要人物 會長有馬良橘、副會長黑井悌次郎、黑板勝美、菱刈隆、理事井田磐楠、井上清純、大森亮順、菊池武夫、河野省三、香坂昌康、角岡知良、寺田四郎、等々力森藏、南郷次郎、平泉澄、兩角三郎、山田耕三、秋岡保治、大山卯次郎、里見達雄、南條金雄

機關紙 建武(隔月發行)

本會の前身「建武中興六百年記念會」は、長くも秩父宮殿下を總裁に奉戴し「第二の東郷」明治神宮々司有馬海軍大將會長の下に一昨昭和九年三月十三日の建武改元記念日を中心として全國に亘り、後醍醐天皇、後村上天皇、長慶天皇、後龜山天皇を始め奉り當時忠孝の大義に殉ぜられ給ひたる皇子の御方々並に中興の大業を翼贊し奉つた諸忠臣を奉齋して、あやに畏き建武中興の御精神及び諸忠臣の事蹟を偲び國民教化に貢献したが昨年五月十三日吉野中の千本に記念碑建立を最後として解散した。その後各方面よりの熱求あり、かた〳〵内外の時局重大にして國民思想の動搖甚だしき情勢に鑑み教化事業の最緊要なる事が痛感され君臣の大義を明かにし純眞なる日本精神を全國民に根强く植付けるには建武中興の諸神靈を本尊として之を繞つて擧國一致の實を擧げるに如かずとの確信の下に、昨年九月以來有馬大將、大井大將、今泉定助翁三氏主唱の下に永續的新團體の結成準備が行はれ今春「建武義會」の創立となつたのである。本會目的の根幹は

建武中興ヲ繞ル諸神ノ英靈ヲ祭祀シ其ノ遺烈ヲ後昆ニ傳ヘ以テ臣道ノ眞髓ヲ體得發揚シ普ク國民教化ニ貢獻センコトヲ期スルニ在リ

即ち建武中興の御聖業に一族郎黨を擧げて殉じ奉つた大楠公以下諸忠臣の壯烈悲壯なる精神と勳功とは後昆國民の齊しく感激し欣慕するところであるが、これを繼承して相共に己を修めて他に及ぼし御國體を明徵にし天業を彌榮に翼贊し奉ることが本會設立の趣旨である。創立以來僅々半歲なるも有馬大將を始め陸海軍の諸將星を始め朝野各方面の名士を網羅せるその巨陣は生ける魂の躍動せる眞乎當代の教化團體として首位に推すに足りる。今日までの事業としては去る五月廿五日大楠公殉節六百年記念日を卜して皇都赤坂區青山會館において第一回講演會を開催して盛況裡に本會設立の趣旨を闡明した。又十月十五日には評議員吉村太一氏の奉献せる(上大崎同氏別邸内)壯麗なる建武神社鎭座祭を擧行した。蓋し東都に於ける吉野朝諸忠臣の祭祀殿は之を以て嚆矢とする。尙ほ七月二十日機關紙「建武」を創刊之を通じて全會員は勿論一般の指導に任ずると共に大楠公、菊池武時、名和長年諸公の事蹟を顯彰併せて太平記の復活普及を唱導してゐる。又毎月第二水曜日には水交社に役員會を開き教

化運動の方針を協議して居り、全國各地に支部設置の上一大國民運動並に有意義なる諸事業を興さんとしてゐる。本會の事業要綱は

一、祭典　二、講演　三、出版　四、遺跡及史料の探明保存　五、各種の記念事業　六、其他前記目的に適する事業

等が擧げられてあり、會員章は八咫の御鏡を型取つた中に錦の御旗と櫻花とを配したものを用ひ不斷の精神陶冶に資してゐる。最後に一言附加するが、我等の觀る處を以てすれば同會は大教化團體であると共に決して單なる教化團體に非ざる事である。眞面目は其處に存するのではあるまいか。

こ之部

黑龍會

創立　明治三十四年一月十三日

所在地　麹町區永田町二ノ八六

主要人物　主幹內田良平、副主幹葛生能久、小幡虎太郎、池田弘、坂井六輔、齋地盤夫、鈴木一郎、岸本一誠、川原信一郎、香渡信

尙關西本部は吉田益三氏が委員長として其職に當つてゐる。

黑龍會は明治三十四年の創立、明治三十四年と云へば北淸事變の翌くる歲で會齡將に三十有六、人生五十の三分の二を經過してゐる譯だ。實に我國愛國團體中の最古參である事無論だ。現在の主幹內田良平氏は創立當初から其役に就いた。今日では團體結社の方法は幹部級の小數同志が先づ結社を爲してそれから同志の所謂獲得に移るのだが、當時の黑龍會の如きは全然其趣きを異にし、同憂多年の多數同志が直ちに其儘打て一丸となつたものである。從つて會史は創立以前の同人各自の鮮血したゝる活躍に大きな連鎖を有する。同會の精神は明治十年薩南の西鄕南洲に呼應して蹶起せる福岡黨と共流れを汲む平岡浩太郎、箱田六輔、頭山滿氏等創立の玄洋社の東亞經綸策をそのまゝに繼承するものであり、朝鮮の東學黨事件を中心に該地、滿洲、南北支那、西伯利亞、シヤム、安南等に、日本大陸政策の確立を闘ひ來つた先覺志士の魂の結合體心の巢であつたのだ。創立當時の主なる人々を擧ぐれば、伊東知也、吉倉旺盛、宮崎滔天、本間淸介、高田三六、增田良三、可兒長一、中野熊五郎、葛生玄卓、同能久、平山周、山中泰、中田辰三郎、尾崎行昌、棚橋俊二、秋山長二郎、佃信夫、小川平吉氏等である。創立以後に限定しても會史を盡さんとすれば、其活躍舞臺は東亞大陸の各地に亘り地下に、伊藤博文、山縣有朋、明石元次郎、兒玉源太郎以下の當年の達識者を呼び起し尠くとも二十名の編寡員に藉すに一年の時日を以てしなければなるまい。本編では、今日帝都に於いて愛國團體を主宰する人物の八分通り迄が、曾ては必ず一度頭山滿翁に對するそれの如く、內田邸の門をたゝき內田良平氏の啓發に負ふ所多かるべきと、歐米各國に於ても「コクリウカイ」の名譽はるゝの事實を誌して同會の間口の廣さと奧行の深さを想察するに止めてをこう。過去二十年の會史を回顧すれば、大正七年曩きに「革命の心理的基礎」と題する社說を揭げ暴力革命を煽動したる大阪朝日膺懲事件には、池田

弘、杉山竹三、內山福二郎氏等當年の青年會員多數を犧牲者として出したが、此の事件は大正以後に於ける謂ふ處の國體擁護國體明徵運動の先驅を爲すものであつた。大正四年の日支問題又同十年の第一回列强海軍々縮華府會議以後屢次の軍縮問題及び對米對支問題に對する硬論代表の國民大會は主として黑龍會を中心とするものであつた。また大正十四年の政黨全盛當時彼等がその權勢を驅つて而も浮薄なる世相に迎合し我が國家社會制度の根柢を爲す三千年傳統の家族制度打破の現行普選法を議會に提出するや憲政(民政黨前身)政友國民の「議會」黨三派を向ふに廻し頭山滿翁を盟主に敢然起つて反對、帝都の中央に一千の壯士を動員近代國民思想運動史に特筆大書さるべき痛烈果敢の純正普選運動にも中心勢力を爲した。外來思想に據る既成勢力と傳統精神に生きる日本主義派卽ち今日の現狀維持派と打開派の思想戰は此の運動によつて火蓋を切つたのである。「議會」黨は二回に亘つて議會を延期し遮二無二普選法を通過せしめ當時の首相憲政會の總裁加藤高明の暗殺陰謀事件なるものを生ずるに至り黑龍會主腦部は報復的な彈壓を被つたがその憂國の言說は今日盡く悲しむべき事實となつて表はれ思想界政治界選擧界は急速に腐敗し憲政會は「民政」黨となり思想界は極度に惑亂して遂に日本共產黨を生ずるにさへ至つた。斯くて思想界政界の此の混亂低調は祖國の現狀をして各方面とも亡國の悲狀に導き屈辱倫敦條約を招來せしめたのであつた。然し祖國日本の生命は窮まる處なし。昭和六年九月狂瀾を旣倒に廻らす滿洲事變の勃發を見るに至るや滿洲國の獨立國際聯盟脫退の全國民運動に政敎社愛國社鄕軍有志と共に同會亦主動勢力を爲した。大正十二三年以來、旣成政黨と社會主義派の挾擊裡に、克く民間愛國派有志の中心基幹を爲し頑張り通した奮鬪と努力は、創立前後の大陸國策に於ける生ける功績と共に近代國民史上特記さるべきものであり且つ今後の輝く活動を約束するものである。

昭和八年以來內田主幹病を得、昨春來小幡氏亦病み、獨り黑龍會の爲めのみならず全愛國派陣營に一抹の寂寥を痛感せしめつゝあるが、葛生副主幹、池田、坂井、齋地、鈴木、岸本、關西支部の吉田氏等よくその羽翼を張り憲法學說問題を通じ現狀打破の思想戰を闘ひ續けつゝある。現在の動きも、その大使命大陸經綸國策と國內政治革の貫徹に規準し其處に凡ゆる活動は發現し各方面の大きな期待が懸けられてゐる。同會公刊の著述は多數に及んでゐるが、之を先きにしては洛陽の紙價を高からしめた「西南記傳」、後にしては去る十月二十日完成せる三部篇「東亞先覺志士記傳」が最も著名である。

主義

一、吾人は　皇室中心主義を奉じ建國養正の遺訓に基き六合を兼ね八紘を掩ふの　皇猷を弘め以て國體の精華を發揚せんことを期す

國風會

創立　大正十二年二月十一日

所在地　牛込區東五軒町一

主要人物　會長上泉德彌、副會長江藤哲二、監事山口銳之助、理事江口隣六、堀內文次郎、佐藤皐藏、渡邊汀、梨羽時介、大中熊雄、田鍋安之助、松原利左衞門、井原長吉

機關紙　「國風時報」隨時發行

世界大戰後拜外自由主義思想は澎湃として侵入曲學阿世の腐儒は祖國を呪詛して人類人道に反逆するマルキシズムの宣傳に努め、一方外には英米の極東攪亂工作に支那全土の排日熱は激化し寔に憂ふべき情勢を展開した。當時其の著「大日本主義」を武器として祖國と正義の爲に闘ひつゝあつた江藤哲二氏は上泉中將と相謀り恰かも大正九年十一月最初の明治神宮大祭擧行に際し奉拜のため上京せる全國青年團代表五百五十名に呼び掛け全員を夫々支部長たらしめ、同十二年紀元の佳節をトして東京に「國風會」を結成した。此の時總會員數は七千餘名であつたがその後趣旨に賛同して來り投ずる者年月と共に增加し今や總員一萬七千三百餘名を擁するに及んだ。同會の目的と綱領は次の如し。

目的

一、大日本主義を發揚して大に皇祖以來の國風を進め正義人道に基き世界の平和に貢獻す

綱領

一、萬世一系の皇室を中心とし忠孝を勵み勤儉力行を旨とし國民思想の善導統一と國力の充實並に國民の世界的活躍を企圖すること

二、人類平等の思想に鑑み人種民族宗教上の差別的待遇を撤し各自共存の幸福を達成すること

創立以來の主なる活動を列擧すれば、米國「排日法」報復運動、「普選」反對、亡國軍縮條約反對、近くは「機關說」根絶、國體明徴運動に健闘してゐる。更に特筆すべきは舊帝國議事堂を改修して「國體館」となし國民精神涵養の大殿堂たらしめ、以て明治、大正、昭和三代の聖蹟を永久に保存し奉らんとして目下各方面に亘つて猛運動を續けてゐる事だ。又來るべき皇紀二千六百年奉祝の大祭典を前にして偶々オリムピック東京招致が決定するや心なき輕薄分子は歴史的擧國一致の大祭典に對する準備よりも寧ろオリムピック騒ぎに狂奔するの醜悪を露呈し、本末輕重を誤ることの甚だ遺憾なるを痛感する所から近く全國民に對する一大覺醒運動を起して　皇威更張並に國威宣揚の大祭典を嚴肅たらしむべきを期してゐる。

國粹大衆黨（附・國粹義勇飛行隊）

創立　昭和六年三月十日

所在地　關東本部　芝區琴平町二二九、光榮ビル

總本部　大阪市東區北濱一ノ二八

主要人物　總裁笹川良一、總務藤吉男、板倉彌二郎、杉浦聽

機關紙　國防（月刊）休刊中

亡國的華府海軍々縮條約締結（大正十年）後我が國防の安全感確保を熱求してこれが輿論喚起のため十三年笹川氏を中心に國防社（大阪）が結成され機關紙「國防」を通じて所期貫徹の猛運動が展開された。この國防社が即ち國粹大衆黨の前身である。華府條約に次いで倫敦條約の締結（昭和五年）あり之に隨伴して內外情勢は著るしく非常時色を帶び憂國識者の警世叱咤にも拘はらず一般社會の眠りは深く將に末世的事態を露呈したが此の悲狀打破の爲め適宜の措置として「國防社」は改組され國粹大衆黨となつた。創立當初自由主義の俗論は關西に於ても熾烈、高柳松一郎、清瀨一郎等一派の「軍縮促進會」が組織される有樣であつたが之に對峙し同憂愛國熱血の士を糾合し「亡國的軍縮排擊聯盟」を結成

して堂々正面より應戰し遂に「促進會」をして解消せしむるに至つた。次いで大阪朝日新聞掲載の美濃部達吉の不逞論說糺彈を闘ひこれ亦「朝日」をして陳謝せしむるの功を奏した。此の形勢裡に偶々滿洲事變の勃發を見るや國論統一のため遊說隊を組織全國各地に演說會を開催輿論の喚起に努めた。その後東京に關東本部を設け明糖問題における斷食祈願、東京帝大征伐、ミノベ「機關說」絶滅等に挺身隊的活躍を織込み獨自の力戰を敢行殊に前記「機關說」問題に際しては杉浦氏を陣頭に送り、政敎社皆川、黑龍會川原、建國會深澤、洗心莊友納諸氏をはじめ都下愛國團體の青年幹部と行動を共にし當局の意表に出づる大健闘を試みた。然るに結黨五年善戰の歷史に酬ひられたものは昨年以來の受難であつた。然し全黨員の意氣は此の受難と犧牲とによつて愈よ練磨され一向精進忠君愛國の熱誠に燃えてゐる。目下關東本部は杉浦總務、大室芳太、牧野作藏、黑田明弘の諸氏之を護り陰忍自重時局の推移を靜觀來るべき雄飛時代に備へてゐる。本黨の綱領は左の如し。

綱領

一、神武肇國の活精神に培はれたる我が國特有の文化を擁護發展せしめ以て國利民福を期す

二、產業上の自由競爭の弊害を芟除し相互扶助の精神の長養具現を期す

三、立法行政及び地方自治に浸徹せる弊害陋習を打破し神州正氣の伸張を期す

本團體の活動として特筆すべきものに民間飛行士の養成がある。卽ち國粹義勇飛行隊の活況である。同飛行隊は笹川氏を隊長とし令弟春二氏が副隊長、敎官に森本、吉田、末永氏等各一等飛行士を擁し現在生駒山麓大阪府中河內郡盾津村の飛行場には優秀なる練習生九名が孜々として練習にいそしみ何れも飛行時間既に四十時間の成績を收めてゐる。飛行場は附屬地を併せ三千坪設備も行屆き專屬飛行機三十四臺（陸軍練習機「アンリオ」五臺、同「サルムソン」三臺、海軍練習機「アブロ」二臺、「一〇年式艦上偵察機」一臺、「一三式陸上練習機」二臺、「同艦上攻擊機」二臺、陸軍「甲式一型戰鬪機」二臺、「同三型」一臺、「同四型」二臺等）を有する外に新設のグライダー部にはグライダー五機を有ち志鶴敎官が指導に當つてゐる。昭和九年六月十五日開設以來日尙ほ淺いが已に第一回卒業生九名を送り內五名は一等飛行士並に二等航空士の榮冠を獲得し更に霞ケ浦委託生三名もその前途を囑望されて居る。同飛行場に隣接して建設中の航空ホテルも去る九月竣工して一段の盛觀を添へてゐるが、同飛行隊の特色は練習生に對し合宿食費（實費）以外は一切經費を負擔せしめず、又他の航空團體の如く宣傳ビラ撒布等の營利事業も行はず、純然たる國防充實の見地に立脚して優秀飛行士の養成に精進その爲めには如何なる犧牲をも惜しまぬ點を第一とする。卽ち愛國團體飛行隊の面目躍如たるものがある。現在地方支部は北海道、福島、東京、名古屋、三重、奈良、京都、兵庫、岡山等に開設さる。

皇國血戰團

創　立　昭和七年十一月三日
所在地　芝區琴平町一一六、專榮ビル內
主要人物　大庭一
機關紙　血戰（月刊）

先づ本團名の由來を成すその宣言は次の如く述べてゐる。

我等は右翼にあらず左翼にあらず、日本帝國の臣民なるが故に、日本帝國臣民として進むべき正義の公道を、大膽、勇敢、神聖に猛進するのである。即ち建國二千五百餘年、國體の精華を世界に誇る雄健高貴なる我日本帝國の向上發展と、我國民生活の基礎確立の爲に戰ひ、進んでは、歐米白人間の慘虐下に苦しむアジア九億の民衆の爲に血戰せんとするのである。

團長大庭氏は闘志滿々の熱血漢として肯ける。

現代の世界人類を、醜惡なる利害闘爭、生きんが爲めの苦惱より眞に救濟し得るものは、現哲學、現宗教を超越し、魂と物質を包含し人類をして善を行ひ、正しきを踏み、その生を樂しまし得る、我が神ながらの道、皇道より以外何ものもない。

とはその持論である。就中共産主義は畢竟貪婪飽くなき資本主義と何等擇ぶ處なき我慾主義であるとして眞ッ向粉碎の意氣を示してゐる。

方針

一、皇道を世界に宣揚し人類世界を皇道の慈光に浴せしめる皇道樂土の建設を期す
一、教育勅語及び軍人勅諭を奉體す
一、共産黨の誤解を是正し皇道を信奉せしむ
一、財閥及び政黨に利己主義の非を悟らしめ舉國一致皇道を信奉せしむ
一、既成宗教は皇道の内に包含せらるべきものにして皇道即眞理なることを悟らしめ以て皇道を信奉せしむ

即ち本團體の活動方針は簡單明瞭である。無我無私以て皇道正義の發揚と昭和維新斷行に向つて奮闘を期してゐる。休刊中の機關紙も近く復活再刊する運びとなつてゐる。

皇明會

創立　昭和八年二月十一日
所在地　中野區鷺宮四ノ四八九
主要人物　主唱者四宮憲章、理事藤本充安、竹内岳堂、栗間外人、堀江景之、藤山義三郎、山田善吉、梅村鉞二郎

天憲を敬承し皇道を昭明するの趣旨により興されたものが本會である。主唱者四宮憲章氏は多年殆ど獨立獨行して今日をなしたものである。四宮氏は大正八年當時歐洲戰爭の餘波を受けデモクラシー自由主義が横行跋扈し、赤化思想が全國的に浸透せんとしつゝあるを憂憤し、故東郷元帥の熱烈なる後援贊助を得て全國に亘り講演行脚を行つたが之が本會結成の機緣となつた。それより歳を閲する茲に十有八年、今日迄に聽講者は通計百三十萬人を突破し其の足跡は北は北海道より南は臺灣に及び殆ど全國に到らざる地なき有樣である。常に單身孤舌、東奔西走、白髯をしごいて獅子吼を續け、本年古稀の壽域にあるに拘らず鏗鏘たる聲咳は壯者の如く、辯舌明朗聽者に對して多分の魅力を有つてゐる。其の說くところの主眼は世論の「皇」と「帝」との錯覺誤謬を是正せんとするにあり、孔子の「必ず や先づ名を正さんか」と言へるが如く正名の尊崇すべきを世に訴へ、御國體の明徴も「皇」と「帝」の正しき冠名の別を明らかにするにあると絶叫してゐる。其主張綱領を掲げて見よう。

主張

皇明會

一、天定的皇國たるの日本は、人爲的帝國の呼稱を配離撤廢すべきこと
二、伊勢大神宮は、絶對的信念の焦點にして人群萬類の大中心たるべき事
三、肇國天皇の大祭祝日を制定すべき事

綱領

一、我が國體の淵源に則り、皇國たるの眞意義を明かにする事
二、我が惟神の皇道に則り、敬神、尊皇愛國の旨を明かにする事
三、天地の公道に則り、破邪顯正の實を明かにする事
四、明治天皇の敎勅に則り、皇民道德の眞義を明かにする事
五、世界の大勢と我が本源的傳統の正義に則り、國民思想の歸趨を明かにする事

以上の主義主張は舌端火を吐くの辯舌となり一部では「昭和の高山彦九郎」の稱呼さへある。滿洲事變以後は國民とみに緊張自己反省の度を加ふるに至り同氏も亦吾が志を伸ぶるに正に絶好の機會至れりとなし、去る第六十五議會に「肇國節」及「肇國天皇國際日」新設の議を請願して衆議院の通過を見、續いて第六十七議會に於いては「國體號確立」を建議し「帝國」を匡して「皇國」となすべきの請願書を提出是れ亦衆議院の通過を見るに至つた。今春四月宮內、外務の兩省に於いて從來の「皇帝」御署名を「天皇」と改めらるゝの公布を見るに至つた事もその裏面に四宮氏の多年の苦衷が酬ひられ理想の一端が發現したものと云へやう。更に最近同氏は「大日本帝國」を「大日本皇國」と改稱「帝國大學」を「皇國大學」と改稱すべしとの運動を續けてゐるが、その眞摯な運動振りは漸次各方面の共鳴協力を得つゝある。尙ほ同氏は法政大學及二松學舍に敎鞭を執つてゐる。

皇道會

創立　昭和八年四月三日
所在地　芝區琴平町二、虎の門會館
主要人物　會長黑澤主一郎、幹事長山下鵬八郎、常任幹事平野力三、島中雄三、外十一名、事務長須藤淳次
機關紙　皇道(月刊)

本團體の根帶を爲すものは日本農民組合である。所謂農民運動が日本の農村日本の農民に當て嵌らない事實は今更此處に言ふまでもない。卽ち本會は、直譯階級鬪爭理論を適用する諸々の農民運動の現狀に慊焉たるものあり意識するとせざるとに拘らずコミンテルンの影響を受くる非皇魂的農民運動者とその行動を共にし得ずとし敢然拮抗獨往獨步の旗幟を揭げた日本農民組合を母體と爲し在鄕陸海軍々人有志の參加を得て結成される。會長黑澤氏は陸軍少將、幹事長山下氏は海軍中將であり、又顧問としては等々力陸軍中將、杉村陸軍少將、五來博士等が推戴され之等の諸氏は專ら會員の精神薰陶に當つて居る。而して今春の總選擧に山梨縣より衆議院議員に推されたる平野力三氏が幹事長の椅子に就いて居る。現在北海道、靑森、宮城、山形、岩手、新潟、栃木、群馬、山梨、富山、靜岡、京都、岡山各府縣に支部を有し會員五萬と號してゐる。名實共に此種團體中の雄たるを失はない。

皇道政治ヲ徹底シ以テ金甌無缺ナル我ガ國體ノ精華ヲ發揮スルヲ主眼トス

以上が皇道會の名稱を生み本會の指導精神の根幹を成してゐる。又其の綱領は次の如し。

綱領

一、既成政黨ノ積弊ヲ打破シ、以テ公明ナル政治ノ確立ヲ期ス
二、資本主義經濟機構ヲ改廢シ國家統制經濟ノ實現ヲ期ス
三、國民道德ノ振興ヲ圖リ以テ綱紀ノ肅正ヲ期ス
四、軍備ヲ充實シ、以テ國防ノ完全ヲ期ス
五、國際正義ノ貫徹ヲ圖リ、世界資源ノ衡平ヲ期ス

この綱領に準據し、農民及農村問題の角度から機關紙及び隨時の講演會によつて主旨の徹底を圖つて居る。尙ほ今後地方議會への進出も相當期待され黨勢漸次擴大の形勢に在る。

國民協會

創立　昭和八年七月廿三日
所在地　麴町區內幸町一ノ六、新興ビル內
主要人物　會長赤松克麿、總務長津久井龍雄、常任理事倉田百三、幹事鶴島三郎、石塚幸次郎、森本耕、會田甚作、濱口一郎、川瀨宏
機關紙　國民運動(月刊)

一切の自由主義的諸制度を淸算し日本精神に基く全體主義の確立卽ち此の措き代へによる國家革新運動こそは忠節なる國民に課せられたる任務との確信の上に築かれたのが國民協會の牙城である。非日本的勞働組合及び無產政黨の迷路より翻然自覺して立戻つた赤松氏と、高島素之門下の若き國家社會主義者として知らるゝ裡に日本精神の崇高偉大性に相觸れたる津久井氏、卽ち轉向派の二氏とそれに「出家と其の弟子」で名を賣つた倉田氏が結盟しこの三者を中心に鶴島氏以下少壯氣銳の士が蝟集してゐる。因みに津久井氏は、國家社會主義者より建國會へ、建國會から大日本生產黨へ、生產黨から現在へと其の過去の經歷は相當に複雜である。創立の當初國民協會は純然たる思想團體として赤化思想の溫床たる自由主義の排擊に首腦三氏がその體驗的なる獨自の大論陣を布いた。當時前衞隊たる靑年日本同盟の活躍目覺しきものがあつたことは今も尙同憂團體の知る處である。その後一擧全戰線を擴大し黨勢の發展を期するため新方針が樹立され、十年三月十日陸軍記念日に當り全會員を統一結合して一大實踐團體に化育生成した。卽ち靑年同盟を解消し綱領も左の如く活動的なものとなり爾後獨自の政治運動に一路進擊してゐる。

綱領

一、强力國策內閣の樹立　二、公益を基調とする國家統制經濟の確立　三、新世界平和秩序創建を目的とする大亞細亞主義の强行　四、軍備の完全充實　五、日本主義國民文化の創造及び宣揚

新方針により、議會進出を目さし今春の總選擧には赤松、津久井兩氏が出馬したが共に惜しくも敗れた。此の前後より友好團體と共に二月會を結び更に關西の同志團體と協力して全愛國戰線の統一合法維新政黨樹立の急務を專ら力說唱導してゐる。創立未だ三年會史の躍動は今後に在るべく而も活動の原動力は漸次加重されつゝあり、新星として必ずや注目に値ひする。現在地方支部は北海道、大阪、

神奈川等各地に於いて逐次擴大しつゝあり會員總數も一萬を突破すると云はれてゐる。

小塚原烈士　常行會

創　立　昭和八年十一月三日
所在地　荒川區南千住町八ノ三六
主要人物　理事柳町茂道、山野邊粲、溝上定龍

本會は單なる修養團體の如く考へられてゐるが元來その修養目標は、躍動日本精神卽ち藤田東湖先生の謂はゆる神州正大の氣を發揚するにあり、一切の行動規範を幕末勤王烈士に執つてゐる。以てその眞の本領を知るに足るであらう。靜中の動、動中の靜、此の特異的色彩を帶びて常行會は誕生後幾許もなくして愛國陣營中の華形となつてゐる。現理事柳町山野邊兩氏等は本會創立以前は相互に路傍無緣の人であつた。何等の機緣か、吉田松陰、橋本左內、賴三樹三郎先生等を始め櫻田坂下義擧等勤皇諸先輩烈士の小塚原回向院墓所が取り持つ緣で、同氣相接近せしめ、相語らしめ、相結ばしめたのである。そして之等青年の熱情は凝つて本會の創立を見ることゝなつた。從つて本會員は之等諸烈士の心を心として共に御國體擁護に一途邁進を誓つてゐる。其名に示す常行は

一、定例墓地淸掃日に全員集合して淸掃をなす
二、修養講座を設けて維新史の研究及會員の意見發表批判檢討並に研究に關する相互援助を爲すこと
三、烈士遺書の搜索及遺族の探訪
四、烈士遺德の顯彰及傳記、資料特に尺牘(寫本)及遺墨(寫眞)類の蒐集
五、會報の發行、研究資料の編纂出版頒布

であり毎月十六日には小塚原墓所掃除後、水戸學を繼承する生田目經德氏の講義を同院廣間で聽講してゐる。同氏の講述にかゝる明治維新秘史は既に完了して其の內容を上梓したパンフレットは三卷まで發行、汎く配布されてゐるのでその獨特の內容一班は世の知る所であらう。有名な水戸烈公の皇道館記述義の講義も續開されてゐるが、該述義の價値は金子堅太郎伯等の推稱するところである。春秋二季には盛大な烈士慰靈祭を擧行して一般世人の惰眠を覺醒せしめてゐる。此の眞面目な運動は遂ひに　天聽に達し、畏れ多くも昨年四月五日(舊三月三日)宮內省から祭粢料金一封を御下賜あつたことは本會のみならず我等も共に感激に堪へざるところである。尙ほ烈士の傳記中今日誤り傳へられ、或ひは明白を缺くものが少くないので本會では山野邊理事が主任となり烈士傳記を編纂中であり、完成の上は明治維新史へのよき貢獻をなすものと期待されてゐる。

皇道經濟研究所

創　立　昭和十年二月
所在地　麴町區有樂町二ノ四、日本閣內
主要人物　神保幸三郎、永田健三、鈴木覺、柳町茂道
機關紙　皇道經濟(月刊)

古來我が日本は祭政一致、神政々治の國と云はれ、上　御一人の御仁慈の下に全國民を打つて一丸となす一大家族國家を形成してゐる。然るに此の家族國家の思想、文物、制度とは黑白相容れざる西歐の個人主義思想が輸入せられ、議會政治の出現、勞資の對立抗爭、教育界の不祥事、赤化運動、經濟恐慌、失業者續出等枚擧に遑なき末世的時相を現出するに至つた。この社會情勢の禍殃こそは所謂現代資本主義經濟の跋行的發展に在りとなし、之が是正卽ち皇國日本固有の經濟理論を研究樹立せんがため同志相倚り相集り團結したのが本會である。其の目的は次の如し。

目的

本會は一般經濟的諸現象の批判研究を爲し以て我が皇道に則したる經濟學の建設を目的とす

之に依つて觀るに本會は純然たる經濟學の研究團體であつて實際運動に携はる團體とその軌を異にしてゐる。從つて會員は學生、少壯官吏、中小商工業者等各方面の人士を網羅して居り、月二回の會合においては研究論文の發表或ひは意見交換をなして夫々他日の活躍を期してゐる。當面の研究の重要對照は何んといつても馬場財政であり、大衆課稅に對しては獨自の見解を以て眞ッ向ふから反對の意見を抱きその論旨を世に問ふの日も遠からぬことゝ觀取される。本會の本格的蹶起活躍を展開する曉には、既成政黨及び無產黨の大言壯語獨善的理論に拮抗して、潑溂新鮮なる革新的論陣を張るものと豫想されてゐる。

て(て)之部

天地會

創立　大正十五年十二月

所在地　芝區田村町二ノ八、櫻田館內

主要人物　代表大和茂樹

機關紙　維新(休刊中)

本會の前身は立憲維新黨と稱し古い歷史を有してゐる。幹部も朝野有力者を網羅してゐるそうだが種々な事情から表面的には發表を差控へてゐる。代表大和茂樹氏は控訴院檢事であつたが職を辭して以來辯護士を開業傍ら愛國運動に身を投じてゐる斯界の變り種であつて常住坐臥　明治天皇の御製を拜誦只管　聖諭奉體を忘らざらむ事を努めてゐる。國際事情に重大關心を有しソ聯の膺懲を叫ぶと共に又英國の老獪卑劣なる野望の驅逐を力調する事久しく支那問題の解決極東平和の招來は此の問題を解決するに非ずんば不可能なりとの主張を有し、此の主張を延長して伊太利獨逸との聯携を圖り究極に於て世界暗黑面の魔王たるフリーメーソンの擊滅殲滅を大願望としてゐる。其の綱領は

綱領

我カ徒ハ惟神ノ大道ニ則リ、人生ヲ構理シ皇國ノ修理固成ヲ期ス

と云つてゐる。昭和十年七月前記の天地會と改名してより專ら團體の內容充實を計り、總裁、統制總監、參謀總監、執行總監、組織總監と各幹部を設定、全會員の統制秩序維持に努力してゐる。斯く

して昭和維新斷行に一路邁進してゐるが昭和維新に對する見解は
明治天皇御製　いそのかみ古きためしをたづねつゝ新しき世のこともさだめむ
の御精神を拜誦、體得するにあると嚴に戒めてゐる。その會員は全國各方面に亘り、支部の確立するもの大和氏の鄕里たる鹿兒島を始め、三重、奈良、滋賀、大阪、群馬、山形の一府六縣に亘り支部準備會も各地にある模樣である。

天晴地明民衆經濟學會

創　立　昭和四年六月一日
所在地　神田區司町二ノ三
主要人物　主幹柿花啓正、本部事務長小原壽
機關紙　天晴地明經濟新聞(月刊)

本會の主義は次の如し。

主　義

リカード、マルクス、レーニン等ユダヤ的經濟諸思想を一君萬民の日本建國思想哲學によりて統一開顯し內は民衆生活權を確立し、外は人類平等解放の天業を四海に恢弘せんとす、是れ天晴地明經濟學及び其の政策の本領なり。

此の主義の下に政治法律經濟諸問題を研究し「皇道主義」を此處に實現すると主張し、此の經濟眼よりする日本觀世界觀は本會の特色なりと自負してゐる。また柿花主幹の言を聽くに「政治法律社會革新の基礎的原理は當然經濟革新に存する。故に吾人は皇道主義の經濟學を樹立しなければならぬ」と云つてゐる。一切の社會事象を徹頭徹尾經濟問題と結びつけて考へるその思想法は愛國陣營中稀に見る變種である。この見地に立つて昭和維新の叫び漸く盛んならんとする昭和四年六月創立したのが本會である。柿花氏は大日本生產黨の前身たる日本國民黨創立に關係以來愛國戰線にその名を列ね現に生產黨相談役の位置にありその著に「天晴地明經濟論」なるものがある。本會の戰歷としては滿洲事變國際聯盟脫退、「機關說」駁擊運動等があげられるが、これ等の諸運動も亦柿花主幹獨特の經濟學的主張によつて行はれて居り何んにしても一風變つた團體である。例へば「機關說」駁擊運動においては、國史の示す「奉還」思想に基き反國體邪說を駁擊したりと稱するが如きそれであつて「國體」と「奉還思想」とを結びつけ國民の間に此の「奉還思想」の鼓吹を提唱してゐる。最近では電力問題に關して不徹底なる「民有國營」は一種の共產赤化思想にして不可、「奉還經濟」に基く大義名分上より「國有國營」たるべしと主張廣田首相を初め各大臣に進言建白してゐる。

傳劍莊

創　立　昭和七年二月九日
所在地　澁谷區代々木富ケ谷町一四三五
主要人物　寺田稻次郎

傳劍莊

日本主義戰線の豪勇寺田氏の本城始め秋水會と呼んだ。一度光鋩一閃すれば敵の心膽を奪はざれば已まずされど容易に鞘を脱せず、脱せずして而して平和の鍵を握る、拔けば王散る秋水こそは我が傳劍莊の眞面目だ。面壁三年五年九年、山の如く不動、されど心機一轉動けば電光石火の早業、これが又寺田氏の本領であり同時に傳劍莊の建前である。大正十二年、關東大震災の燒野ケ原を背景として大杉榮の遺骨事件に岩田富美夫、故下鳥繁藏氏等と共に敵の本城本郷駒込西片町の勞働運動社に乘込み大膽にして俊敏なる行動の下に大杉の遺骨を奪取し、絶對許すべからざる不逞計畫「社會葬」を一歩前に粉碎、皇國の尊嚴を擁護し、同時に日本主義派のために萬丈の氣焰を吐いた。これが寺田氏と大化會とを結ぶ楔びとなり、爾後約半歲に亘り大化會同人として重きをなしたが翌十三年春感ずる所あり單身秋水會を創立した。此の時恰も米國の排日移民法案決定に直面黑龍會を始め各派の同志と共に蹶起猛運動を展開した。如上對米政治運動に奮戰すると共に一方彼の驕慢を防遏せんが爲には我が國民殊に青年の腦漿に滲透しつゝあるアメリカニズムの驅逐を計らざれば之が根本的解決は望み難しと爲し輕佻浮薄我が士魂を蝕む事甚だしき輸入スポーツの改革を絶叫し、特に其典型とも云ふべき野球戲に對しては之が廢止を力調俗流の世論と鬪ひ朝野上下の自覺反省に努める處あつた。又同年秋早大總長高田早苗博士糺彈の猛烈な運動を起したが世間之を早稻田の「蕎かけ」事件と呼んでゐる。

此の痛快なる事件は、同大學教授佐野學を中心とする第一次日本共產黨樹立陰謀及大逆犯人難波大助の裁判記錄に曝露せられたる同教授の不逞內容講義並びに同じく教授片上伸を繞る風紀紊亂問題に對し、高田總長の責任を糺彈其の辭職を勸告する所謂「早大征伐」運動に附隨して起つたものであるが、秋季校友會の喧れの檜舞臺に於いて、其の演壇上寺田氏は眞つ向から堂々高田總長に辭職を迫り、一方辰川龍之助氏が同總長を鼻つまみの莢金佛にしたものである。爾來此の黃金戰法は各方面で相當流行したやうであつた。

次いで十四年一月の純正普選運動、十五年四月濱松の日本樂器爭議粉碎、同年八月朴烈問題に對する當局糺彈、同年末の德川義親侯の舞踊會糺彈、昭和四年の不戰條約問題、五年のロンドン條約反對運動及び北洋漁業權擁護運動、並びに滿洲問題解決運動等を經て、國體明徵の聖戰、華府條約廢棄運動等に盡瘁し文字通り百戰往來の戰歷を有してゐる。中にも濱松の樂器爭議粉碎運動は寺田氏が共の渾身の智勇を振つた問題の一つと云ひ得よう。當時爭議團を操縱するものは例の日本勞働組合評議會であつてその中樞部は赤露の手先にして且つ日本共產黨の指導權を握る三田村鍋山渡政山懸等であつた。此の赤賊一派は赤露指令の「革命操典」に準據、豐富なる資金を握つて勞働學校を創立又赤衞團襲擊隊を組織し、工場及び重役邸を襲擊包圍する等暴狀至らざるなく、而かも警察機關は殆んど手の下しようなき有樣を呈したが寺田氏はその中途より本爭議の渦中に入り、日本主義勞農同志會を結成、正々堂々果敢なる思想戰並に行動戰を展開、獨特の明敏なる智謀と肚勇とを揮つて敵膽を寒からしめ遂に執拗なる赤賊を克服した。因みに神兵隊首腦部の天野辰夫氏は當時樂器會社々長の御曹子であり後年名を成した林逸郎辯護士等も本事件に關與した。蓋し愛國陣營中直接三田村鍋山等と對峙した人物は寺田氏を以て嚆矢とする。

更にまた昭和五年十一月廿六日には我國最初の愛國政黨たる日本國民黨を創立その首領となつた。同黨は國民全體主義の合法運動結社であり、從來の愛國派の高踏的運動と全然行き方を別にし今日の所謂大衆運動卽ち大部隊動員を目的としたものであつたが、翌春深く慮る所あり同黨を退き秋水會に立て籠つた。國民黨亦解消して同年六月大日本生產黨に合流したが、當時の國民黨の主なる顏觸れは

西田稅、津田光造、長野朗、八幡博堂、鈴木善一氏等である。尙ほ血盟團の若き志士達の多くは孰れも寺田氏の門に遊び「血盟」の名は同氏が之を談笑の間命名せるものと傳へられてゐる。其後秋水會を改めて傳劍莊となし今日に及び、目下は飛ばず鳴かず冷靜に時局を大觀してゐるが、愛國陣營には寺田氏と志を同じうし且肝膽相照すの士あり、一度起てば同氣友を呼ぶの概を呈すであらう。電光石火豫め捕捉し難しと雖もその將來は期待される。

あ之部

愛國社

創立　昭和三年八月一日
所在地　芝區白金臺町一ノ八七
主要人物　社長岩田愛之助
機關紙　愛國新聞（旬刊）

歐洲大戰が齎らした影響としては、まづ我國の國際水準を所謂世界三大强國の一に高めた事、各種産業界に長足の進歩を與へた事等が擧げられねばならないが其の半面には、輕佻浮華の黃金萬能思潮と低調至極の國際協調主義の橫行濶歩を招致せしめ之より先き既に渡來せる自由主義思想と相倚り相助け凡ゆる方面に日本的なるものを壓迫、思想界を惑亂、政界を溷濁、財界を修羅餓鬼道へ、外交界を自屈退嬰に陷れ、遂に一世を惡化言論界の矯激と相俟つて共産黨の出現をさへ許すに至り、亡國的悲狀頓みに露呈せる昭和三年、日本人本然の魂を奪還せんとする愛國の至情已み難く、左の如き綱領の下、青年志士養成のために創立されたのが卽ち愛國社である。

綱領

一、愛國社は對支問題及び思想問題の研究をなす
　尙問題の發生する毎に社員たるものは會議により種々なる運動をなす
一、愛國社は大陸積極政策の遂行及び研究を以て目的とする

盟主岩田氏は溫容君子人の如き風貌の裡に烈々火焰の如き熱情を存し、觸るゝ物は何者をも燒き盡さでは止まぬ典型的志士である。夙に大陸問題殊に支那問題に對しては獻身的活躍をなした人、久しくその活舞臺を此の方面に求めて南船北馬華々しき活動を展開滿洲國滿人側の重用人物に知己多きは人の如る處である。以て其の大陸政策の方向を識るべきであらう。今や愛國社の名は、黑龍會、政敎社、明德會と共に都下愛國陣營中の大軍容として併び稱され岩田氏は天晴れ重鎭たるの實力を示してゐる。創立の翌年神奈川縣稻田登戸に愛國社村塾を建設し將來滿支及びアジア大陸に活躍すべき人士を養成する目的で青年指導に盡瘁今日に及んで居る。その塾則は「晴耕雨讀」、農耕自治と讀書勉學に其の門下を精進せしめ併せて劍道々場を開き心身の鍊磨鍛鍊に努めしめつゝある。此の村塾において培はれた愛國社同人にして現在大陸に雄飛する者多數に及んでゐる。更に此處兩三年來我が經濟的發展の躍進的趨勢に鑑みて南進政策の確立を强調して此の方面にも同人の活動を展開せしめんとして

ゐる。斯くて岩田氏の聲望は各方面に及び愛國學生聯盟、同青年聯盟及び同勞働聯盟の生成を見、又愛國法曹聯盟も實に同社と生息相通じ誕生したものと云はれてゐる。社員中愛國の熱情迸る處國辱ロンドン條約問題に於いて濱口首相狙撃事件の佐郷屋留雄氏松木良勝氏を始めとして挺身的行動の犠牲となつた者も强ち尠しとはせぬが、愛國社同人は概ね着實を旨として犠牲者たる佐郷屋氏等の精神を生かさんが爲の活潑機敏なる合法的運動に精進してゐる。不戦條約反對、ロンドン條約締結反對、滿洲問題解決、共産黨撲滅、國體擁護、華府軍縮條約破棄、「機關說」排撃等の諸運動に痛烈果敢なる活躍を試みた事は本團體に好意を有つものと有たざるものとの別なく齊しく認むる處である。現況は岩田社長以下全社員相共に切に輕擧盲動を戒しめ岩田氏は讀書三昧に靜かな日を送り、社員は大所高所より時局を觀察し、同社創立の主要趣旨たる對外問題の解決にその活動の主力を注いでゐる。

愛國學生聯盟

創　立　昭和六年十月廿七日

所在地　瀧野川區田端町五六五

主要人物　總務委員長上野眞二、副總務委員長島田幸四郎

機關紙　愛國新聞（旬刊）

愛國青年聯盟及び同勞働聯盟と同樣に愛國社の直系團體でありその團體名の示すが如く純眞潑溂たる學生の集團にして「大學」の積弊たる自由主義乃至マルクス主義等非皇魂的思想排撃の爲め同憂學生の間に創立された。その盟誓は曰く

吾等ハ純眞ナル學徒ノ立場ヨリ犠牲殉國ノ精神ヲ以テ團結シ眞日本建設皇道宣布ノ前衛タランコトヲ誓フ

と。この盟誓の上に打ち建てられた綱領は以下の如し。

綱　領

一、吾等は建學の本旨に則り文武を勵み修德、習業、品位ある國民たらんことを期す

一、吾等は享樂惰弱の弊風を打破し質實剛健なる氣風の作興を期す

一、吾等は學園内の非國家思想を一掃し學園をして熾烈なる愛國精神の源泉たらしめ一旦緩急ある秋進んで祖國防衛の第一線に立ち義勇奉公の赤誠を致さんことを期す

一、吾等は盟誓に基き文化百般の是正向上を期す

斯くて先づ創立第一着手として、滿洲事變に我が生命線擁護と東洋平和確立の爲奮鬪中の皇軍將士慰問使を現地に派遣する一方東京市始め各地に演說會を開催銃後の國論統一に努力潛かに自由主義者一派の反軍反戦運動に備ふる處あつた。愈よ滿洲國の建業成るや祝賀訪問使節を送り之を機會に彼我學生の間に友邦善隣兄弟の誓ひを結んだ。而して又九年五月第十回極東選手權競技大會が比島マニラに行はれるに當つて、軟骨輕佻の選手魂の拔殼たる體協役員の徒が滿洲國遺忘の擧に出づるや斷乎極東大會反對の輿論喚起に奔走する處あつた。當該運動は不幸直接當局を動かすには至らなかつたが爾後同大會は自から各樣の内紛を招致し遂に同年度を最後に潰滅を告げた。蓋し本聯盟の苦心亦酬ひられる處あつたと觀てよからう。本聯盟團結の翌七年には頭書の田端の地に學寮を開設し聯盟員は日夜出入文武兩道によつて相切磋しつゝある。目下加盟校は逐次增加、明大、早大、農大、國士館、法政、

拓大、日大、中大、東洋大、駒大、立正、東京商工、東京高獸、明藥、日醫等約廿校に及び、毎秋十一月を期して代々木原頭に擧行さるゝ學生愛國祭に動員さるゝ者は五千乃至一萬に達する盛況を呈し當日の大行進は皇都民間行事中の一異彩として謳はるゝに至つた。同聯盟最近の活動中特筆すべきは憲法學說問題所謂「機關說」根絶の聖戰に於いて諸多の學生團體中最も熱烈に活躍各學園より邪說掃蕩に健闘せる事實である。又現下の對支問題に對しても强硬なる具體案を提げて奮起してゐる。校門の先輩にして曾ての盟友數十人は今や滿洲又南北支或は南洋に雄飛しつゝあり其の堂々たる陣容は都下愛國學生團體中の白眉として推すに異論はなからう。

愛國青年聯盟

創　立　昭和七年四月
所在地　麴町區有樂町二ノ四、日本閣內
主要人物　總務委員長林逸郎、副委員長兒玉信夫、總務大澤米吉、大澤武三郎、柳町茂道、山野邊粲、門沼一男、書記長神保幸三郎
機關紙　愛國新聞(旬刊)

日の丸の國旗の下部に團體名を右書きに記した徽章――それが本聯盟員の燃ゆる愛國心を如實に象徴してゐる。本聯盟は愛國陣營の宿將として知らるゝ岩田愛之助氏の指導下に在り故上杉愼吉博士門下の逸材にして且つ愛國派辯護士として長き歷史を有し特に五・一五海軍、血盟團事件公判に其人有りと知られた林逸郎辯護士を委員長とする團體だけに獨自の氣魄に富み部內に燃ゆる戰闘的な愛國熱は其儘に冲天の火炎を思はしめる慨がある。昨年來凶逆邪說「ミノベ機關說」排擊の一大國民運動起るや單獨に或は又同憂團體と提盟當局訪問パンフレット刊行講演會等に目覺しき健闘を續けた。又昨年伊エ戰爭勃發に際しては卒先して本問題の眞相「白人伊國の橫暴」を天下に曝露し「エチオピア救援」の猛運動を行つたことも記憶に新しい。更に又創立以來大陸問題に活躍したことも周知の事實である。その綱領は、

綱　領

一、吾等は建國の本旨に則り刻苦勉勵以て人格の向上を圖り國家の忠良なる臣民たらむ事を期す
一、吾等は欺瞞政策を排擊し非國家主義的思想の撲滅を期す
一、吾等は大陸積極政策の確立遂行を期す
一、吾等は常に愛國の眞髓に基き祖國防衞の士たらむ事を期す
一、吾等は正義に據り正しき輿論の喚起を期す

以上の如く、本聯盟の使命を知るに足り一切の行動は愛國精神の眞髓「祖國防衞」に基き行はれてゐる。現下の時局打開の爲には全員擧つて烈々たる意氣に燃え一段と活潑なる運動が期待されてゐるが當面の運動方針としては大處高處より着眼主力を對外問題に向けるもの、如くである。卽ち我が大陸國策を繞る國際情勢は最近益々微妙に複雜化しつゝあるが、此の難局處理の重大性加重に鑑み適當緊切なる方針を確立せんとして最善の策を練つてゐる。一方又年來の主張たる南方經綸に對する積極的方策を樹立すべく調査員派遣の計畫もあり、對外諸問題に關する正しき輿論の喚起を企圖して萬全の

努力を期してゐる。主なる地方支部は、神戸、大阪、和歌山、新潟、佐渡、富山、青森、盛岡等であるが、就中神戸支部長村田村治氏を中心とする關西各地支部の活躍は目覺しきものあり、現在大日本生産黨關西本部其他と共に愛國戰線統一合法維新黨樹立に向つて精進してゐる事も注目に價する。

愛國法曹聯盟

創　立　昭和七年五月十三日

所在地　麹町區有樂町二ノ四、日本閣內

主要人物　伊藤清、五十嵐治孝、林逸郎、樫村廣史、中里義美、草野正慶、松村喜三郎、福田秀一、兒玉信夫、木下好太郎、角岡知良（いろは順）

機關紙　愛國新聞（旬刊）

滿洲事變後澎湃として捲き起つた日本主義思潮は、過去廿年來國內の諸分野を占據せる「自由主義」を疾風枯葉を捲くが如く驅逐し全日本國民の胸底に眠れる其國民的感激を震り動かした。時しも昭和七年五月、在野法曹界に日本主義に據る赤心愛國の大烽火が揚げられた。卽ち愛國法曹聯盟の創立がそれである。久しく時流と拮抗「法律の日本化」を叫んで孤軍奮鬪の、角岡・林、伊藤氏等は頭書の諸氏を糾合互に固く相結び將に大いに爲すあらむとした。其の旗印たる綱領は左の如し。

一、現行法律の日本主義的解釋適用を期す

一、法律生活の日本主義的克服融合を期す

一、法律制度の日本主義的修正完備を期す

言ふ迄もなく法曹聯盟は此の綱領實現に關する必要なる事項の專門的研究機關であり、その研究に基き各員が夫々法廷に獅子吼するのであつて、聯盟自體が直ちに實行機關ではない。然し各員の主張或は足並みは一糸亂れず、在野法曹家としての立場に於いて御國體の守護に一丸となつて邁進してゐる。卽ち林氏の佐鄕屋事件、血盟團、五・一五海軍側の辯護に於ける、角岡氏の佐鄕屋事件、血盟團及び五・一五陸軍辯護に於ける伊藤氏の血盟團及び五・一五民間辯護に於ける全國民の血を沸騰せしめたる劃期的辯論陣は、這間の事情を有力に物語るものと云へよう。又林、兒玉兩氏は出でゝは愛國青年聯盟に伊藤、木下兩氏は愛國勞働聯盟に其の指導役を承り、五十嵐、中里兩氏は愛國政治同盟其他の顧問として各々活躍してゐる。然し角岡、林、伊藤の諸氏は、過去廿年間在野法曹界に在つて其名を鳴らし、全愛國戰線の爲貢獻せる處多く聯盟を通して今日の盛名を成すものではない。聯盟の角岡、林伊藤と云ふよりも、角岡の、林の、伊藤の聯盟であると云ふべきである。本聯盟では旣にして、結成使命の第一階梯を終つたと爲してゐる。然らば第二階梯の目的は果して如何。仄聞するに現下の對內及び對外情勢に相應すべく凡ゆる國際運動の再檢討をその主題となしつゝありとも言はれる。卽ち國際的政治運動としての「フリーメーソン」及び同經濟運動としての「ロータリークラブ」並に同思想運動としての「人民戰線」剖檢等がその俎上に上されてゐる譯であり、これ等非日本的乃至反國體的運動に對する批判檢討は定めし痛烈果斷を極めるものと期待される。尙ほ角岡氏はエチオピア問題の權威として知られてゐる。

愛國勞働聯盟

創　立　昭和八年四月十日
所在地　麹町區有樂町二ノ四、日本閣内
主要人物　總務委員長伊藤清、副委員長木下好太郎・島譲三
機關紙　愛國新聞（旬刊）

本聯盟も岩田愛之助氏の指導下に在り、五・一五、血盟團公判に林辯護士と共に驍名を馳せた伊藤清辯護士が總務委員長に其名を擧げられてゐる。一昨年以來反國體思潮「階級闘爭」イデオロギーの横化たる亡國メーデーの撲滅に全力を傾注し、毎年四月三日神武天皇祭の佳節を期して「産業報國」の標語下に「愛國勞働祭」の擧行を力唱し、故神野信一氏の衣鉢を承け繼ぐ日本勞働運動界の白眉石川島造船所自疆組合を始め都下の日本主義勞働團體と提携、遂に此の目的を實現した。第三インターの指導下に蠢動する亡國メーデーを蹂躙して祖國に隨順し奉る日本勞働者の自覺と衿自を奪還し鞏穀の下に高らかに日本勞働祭を祝福し得る現實の事實に對して、愛國勞働聯盟は大きな功績を負ふものゝ一人である。見よ、其理想に燃ゆる綱領を

綱　領

一、吾等は建國の精神に則る全國勞働者の組織糾合をなし産業報國に殉ぜん事を誓ふ
一、吾等は共産主義及左翼勞働組合の克服を期す

一、政黨政治及自由競爭的資本主義機構の積惡を覆し愛國精神に基く是れが改革を期す
國體明徴問題の未解決と官製「選擧肅正」の根本的誤謬に乘じ社會主義イデオロギーに基礎を有つ「社大黨」其他の所謂無産派は頻りに躍進を續け、甚だしきに至つては二・二六事件直後の戒嚴令下の帝都に於いて共産黨の再建陰謀さへ企圖さるゝの實情に在つたが、今後赤露或は第三インタ又之に内應する亡國的不逞の徒の着眼する勞働界に於いて最前線に立ち最も果敢に闘ふべきものは將に日章旗の徽章に燃ゆる赤心を表徴する本聯盟であらう。東京市内に有する支部は、芝、深川、澁谷、蒲田等でありその會員數は二千を擁し着々勢力を増大しつゝある。

愛國革新聯盟

創　立　昭和八年八月五日
所在地　深川區毛利町一〇
主要人物　會長伊藤信司、常任委員山屋石太郎、篠塚彌作、石倉政雄、河原藤五郎、書記長井口増三、名譽顧問江藤源九郎
機關紙　革新々聞（月刊）

此の團體の特異性は首腦部の總てが愛國運動陣營の人々として或は又社會運動家として全くの素人揃ひであり且つ構成分子が青年揃ひである事だ。以上の理由からして一面運動諸形態は未だ尚熟達せぬ觀を見逃せないが、此の不足を補ふに足る青年特有の潑溂さを有して相當に威力を發揮してゐる。

滿洲上海兩事變を經て昭和七年國際聯盟脱退の大事あり非常時深化の叫びは血氣の青年等を驅つて愛國的情熱に燃えしむるに十分であつた。現在の主腦部伊藤、篠塚、山屋氏等何れも當時二十二三歳の弱冠ながら祖國奉公を誓ひ同十一月愛國雄辯會を創立昭和維新の斷行新日本建設を目指して深川區内に言論陣を張つたのである。翌年、五・一五事件公判に際し、連座諸士等の減刑を希望して市内最初の減刑嘆願民衆大會を開催した。その頃から次第に愛國戰野に登場したが此の歳の八月五日遂に單なる雄辯のみを以てしては克く國難を救ふに足らずとなし愛國雄辯會を改組して本聯盟を設立茲に愛國運動團體として元服を遂げ堂々と名乘り出たのである。十年二月ミノベ問題が重要の政治問題化するや本聯盟も亦全機能を擧げて問題の經緯を正しく區民に報道し、或は連日連夜各處に本問題批判演說會を開催したが其の眞摯な運動振りは遂に「機關說」爆擊陣の驍將江藤源九郎代議士を動かして心からなる援助を得るに至り、それまで江東の一角にあつた同聯盟は都心にまで其の名を馳せ今や愛國陣營の錚々たる若武者部隊として名實を兼備してゐる。其の綱領を擧ぐれば次の如し。

綱　領

一、皇室中心主義ニ基キ皇道ヲ中外ニ宣揚シ大亞細亞聯盟樹立ニ邁進ス

一、腐敗政治ヲ淨化刷新シ反國體的一切ノ惡思想ノ撲滅ヲ期ス

一、我等ハ皇民生產意識ノ下ニ團體組織ノ偉力ヲ信ジ、合法的政治運動ニ進出シ、以テ國民生活ヲ向上シ、國防ヲ强化シ、皇道維新ノ斷行ヲ期ス

此の綱領を奉じて夫々の職業に精進する會員一千三百名の存在は誠に江東の一偉觀とも云ふべきであるが、未だ年齒三十歳に滿たざる青年諸士が老巧江藤將軍の指導を受くる事となつたのは洋々たる前途を約束するものである。目下本所區城東區に支部設立の氣運が熟し其の準備會が設けられてゐるが近く發會の運びとなる模樣である。尙又先般結成された愛國勞働團體全國懇話會との間に密接な握手を遂げ政治的進出に備へる等漸く其の驥足を伸ばさんとしてゐる。

愛國勞働農民同志會

創　立　昭和八年十二月十七日

所在地　麴町區内幸町一ノ三、太平ビル別館

主要人物　會長松本勇平、理事長阿部巳與平、顧問植松練磨、同林業、同小林順一郎

機關紙　愛國勞働農民新聞(月刊)

本會は其の名稱を一見すれば勞働者農民のみの團體の如くであるがその綱領は一切の勤勞者を組織體とする事を明示してゐる。卽ち七項に亘る綱領の内其主なるものは次の如し。

綱　領

三、帝國は世界に全く比類なき一君萬民の精神的大家族なり。我等は此の建國の大精神に甦り國内に於ける總ての物質的對立抗爭を排擊し進んで結束固き皇道日本の實現を期す

四、我等は皇道日本の大義に則り神を敬ひ人を愛し信義禮節を重んじ勤勉力行、日に進み日に新たに率先して他に比類なき美しき社會相を現實化し其の光をして八紘を被はしめんことを期す。總ての利害問題は此の皇道日本の大精神を使ふものも使はるゝものも相互に理解する所に常に一致解決點あるべきことを確信す。

七、我等は非常時日本の光輝ある打開の爲に、最も力ある結束の下に適正なる國内革新の中心勢力たらん事を期す

本會は昭和八年小林順一郎氏を中心に結成し勤勞報國遂行、階級闘爭打破、銃後産業補强を誓ひ合つて一千二百七十名の會員を擁し非常時日本を背負つて起つの慨を示して誕生した。本部構成は總務、勞働、農村、青年、宣傳、會計の各部を置き、佐藤鐵馬、阿部己興平、今里勝雄、伊藤良夫、近藤榮藏、阿部の諸氏が夫々の部長に任じ熱烈な活動を續けてゐる。本會の特色は小林氏同樣首腦部は軍部出身者が多く從つて整然たる規律が重んじられる事である。去る四月十九日我國産業史の一劃期を爲した「愛國勞働組合全國懇話會」が結成されるや之に參加し懇話會内に斷然重きを爲し、尙又全國農村が經濟的破綻に瀕した今日動もすれば其農村が全面的に赤色運動者の好餌たらんとする現狀に憂慎、日本農村の防衛卽ち農民階層の國家的社會的防護に當らんが爲去る六月廿八日芝區協調會館に擧げられた全國農民團體結成關東地方準備大會にも參加今や同團體結成後は主動團體たるの實力を示してゐる。過般會長小林氏は勇退し主として三六倶樂部及三六社の社業に任ずるかたはら本會の參謀格を引受け後任會長には人格識見共に定評ある松本勇平少將が就任する事となつたのは重大なる活躍期を目前に控え本會の新しき活躍舞臺の展開を約束するものであらう。十月四日川口市に第一回全國大會を開催、埼玉、茨城、群馬、福島、宮城、山形、新潟、山梨、愛知、岐阜、三重、和歌山、大阪、京都、滋賀、富山、石川、福井、福岡等各府縣に支部を有し、現在の會員數約三萬と號す。

愛國政治同盟（附・日本中小商興聯盟、皇國農民自治聯盟）

創　立　昭和九年二月廿四日

所在地　麹町區内幸町一ノ三幸ビル内

主要人物　總務委員長小池四郎、總務委員藤岡文六、荻原勝次郎、大槻正秋、石橋彌、今村等
佐々木武雄

機關紙　日本愛國者新聞（月刊）

從來の日本主義戰線に於ける群雄割據的形勢を整備して日本主義團體の大同團結による合法維新黨の結成へ――これが愛國政治同盟解消直前の基幹的活動方針である。今春大阪に擧行の「維新政黨結成準備會」にも提唱者の一人に役員藤岡文六氏を送つてゐる。委員長小池四郎氏は曾て「社民」黨に籍を置き其名を鳴らしたのは今尙ほ世人の記憶する處であるが、滿洲事變を契機として翻然過去の思想的行動を淸算して日本主義に立ち還へり、昭和七年五月社民黨と訣別、島中雄三、赤松克麿氏等及日勞黨を脫黨した藤岡、今村氏等と相結んで日本國家社會黨を結成した。かくして左翼勞働政治運動理論の迷夢打破又自由主義排擊の爲某大財閥のドル買問題糺彈を始め爲政者の惰眠覺醒に「轉向」黨としての荊棘の道に立ちながら、それ故に一段と深刻なる思想的政治的闘ひを見せたが闘ひの尖鋭化は必然的に行動の單一化を招徠し從つて團體名にも明確性が與へられ頭書の如く九年二月「愛國政治同盟」と改稱同時に其陣容も革新されて本年十一月に至つた。黨名改稱當時改訂された綱領は

綱　領

一君萬民の國民精神に基き排取なき新日本の建設を期す

以上の如し。此綱領に基き具體的な戰績は農村問題、反國體學說排擊、國際勞働聯盟脫退決議等に

主として表はれてゐる。而して今や時局重大、愛國陣營の使命愈〻重く皇道を奉戴して國威發揚に献身的飛躍をなすべき秋、一大愛國政黨結成の雄圖は燃ゆる火箭の如く之が達成促進を熱求して熄まず、既にして政治結社としての活動第一過程を了へた愛國政治同盟は十一月卅日を卜し壯烈なる發展的解消を遂げた。此悲願を荷ふて小池氏は個人に還元、他の幹部諸氏は外廓傍系團體たる日本産業軍、日本中小商工聯盟、皇國農民自治聯盟に夫々の部署を定め不動の結束を以て一向邁進してゐる。

さ之部

三六倶樂部（附・三六社）

創　立　昭和八年十月十五日

所在地　麹町區内幸町一ノ三、太平ビル別館

主要人物　井田磐楠、井上清純、堀口九萬一、大井成元、四王天延孝、菊池武夫、淺田良逸、二子石官太郎、松江豐壽、松本勇平、南郷次郎、渡邊汀、小林順一郎、宮下善吉、有馬成甫、吉見隆治、佐伯正悌、志賀直方（以上理事）

機關紙　一九三六（月刊）　三六情報（月二回）

所謂「一九三六年の危機」に當面してこれが克服突破のため眞に犧牲奉公を誓ふ同志が相寄り斷金の交りを結ぶ倶樂部――それが三六倶樂部である。從つて政治團體ではなく外部に對して「倶樂部」としての團體的行動は未だ曾て存在せぬが、同憂の士の結集する所おのづから時局問題に對する意見交換相互研究が眞摯に行はれ其結果之が結論は何等かの形式に依つて世間に發表される。三六倶樂部は將に近代的梁山泊と云ふべきであらう。專門的研究部門は財政、經濟、教育、思想の各部に分たれて居る。掲ぐる所の綱領も亦同志相互の主張の綜合的表示であつて各項に愛國慨世の眞情の流露が認められる

綱　領

一、極力政界の肅正に努め皇道政治の普及徹底に邁進せんとす
一、軍民一致して國家興隆の大計を講じ遺憾なきを期す
一、鄕黨の健全なる發展を計り理想的鄕土の建設を期す

即ち至誠盡忠の堅決意志の表現であつて、同志各員の目指す所は御國體の明徴と國難の打開といふ二にして一なる大使命貫徹にあることが窺知出來る。されば凶逆ミノベ「機關說」擊滅に當つても理事菊池、井上、井田三男を始め各〻その所に從ひ各自主宰或は所屬團員を動員して奮戰これ努め、三男僚は貴族院議場に於いて岡田内閣に凄壯なる肉迫を試み又院外にありては四王天、南鄕、小林、松本氏等と共に民間愛國團體主腦部との聯絡を緊密に國體明徴達成聯盟に參加して健闘したことは世人の記憶尚新らしき所である、又最近の例に見れば去る特別議會において「津村問題」における淺田男の痛烈果敢なる駁擊演說の事實がある。かくの如く政界を始め思想界その他に蟠居して祖國を毒する猛惡なる癌腫の剔抉芟除に各理事が各自の責任において本團體の特異性と獨自の强味が存在する。その關係團體を教導しつゝ奮闘してゐる。そこに毎週一回の定例理事會における時局研究は、直ちに國事に戮心協同する建前の下に行はれ、隨時パンフレット及リーフレット等を發行して國民啓發の第一線に

活躍しつゝある。一方庶政一新に關する各理事相互の見解を綜合する具體案が研究樹立されつゝあるが、その內容は「經濟問題」と「精神方面」の二要素を根幹とするもので近く成案を得て理事會で正式決定を見る運びとなつてゐる。成案完成の曉こそ本倶樂部獨特の活躍の秋であらう。機關紙「一九三六」及び「三六情報」は小林氏の經營する三六社より發行され各方面より多大の注目を受けてゐる。

き之部

勤王聯盟

創　立　大正十三年四月二十日
所在地　四谷區南寺町四二
主要人物　會長菊池武夫、副會長佐藤清勝、久世爲次郎、理事鈴木勇、菅澤重雄、豐田朝喜、監事吉田勝逞、鈴木庸之助

本會創立の動機は大正六年春「救世軍」本部の傳道說教の中に聞き捨てならぬ亡國的言辭があつた事より、鈴木勇、豐田朝喜兩氏を始め明大、日大の愛國學生有志が憤起し「救世軍」の足許たる神田神保町の街頭に於て立會演說を敢行したることに由來する。祖國を愛する若き學生の舌端火を吐く熱辯は群衆環視裡遂に謂ふ所の「神」の使徒「救世軍」を沈默せしめ彼等は哀れな「十字」を切つてその本部に逃晦した。此の降つて湧いたやうな路傍の問題に鈴木豐田氏等は自ら啓發する所多く、故由比大將を盟主に現慶大教授柴田一能氏等と共に關東一圓に亘つて「天皇中心主義」の一大講演運動を捲き起した。然るに大正十二年十二月廿七日九千萬國民悉く恐懼し奉り且つ憤激措く能はざる虎ノ門大逆事件は突發した。一黨の悲憤思ふべし、卽ち更に一段の奮鬪を期すべく先づ同人の結束を堅めんが爲「勤王聯盟」を結成した。當時の會長は由比大將で綱領は左の如し。

綱　領

一、我等は一君萬民、君臣一體、億兆一心、勤王報國の天皇中心主義の强現を期す
一、我等は先づ天皇中心主義によりて我が國體を明徵し、社會各般の革正を期す
一、我等は國民の一致團結と國防の完備充實とを圖り、以て國威を發揚し我が皇德を世界人類に光被せしむることを期す

此の三大方針に則り國民啓蒙に萬全の努力を傾倒する外常に國際人の行動に嚴重監視を怠らず續けた。從來の活動中主なるものを擧げれば、米國飛行家リンドバーク少佐の飛來した折り輕薄なる御祭り騷ぎ的歡迎の眞ッ唯中に彼の千島列島その他に於ける怪行動を摘發したパンフレット「間諜」を刊行同時に全國各地に於て開催した講演會と相俟ち國民の注意を喚起し惰眠覺醒の警鐘を亂打した。又不戰條約、ロンドン條約、萬寶山事件等に對しても全會員を動員して憂國警世の激烈運動を續け更に又「高氏問題」「ミノベ機關說問題」には同憂團體と共に奮戰し殊に後者に於いては別働隊たる「訪問隊」に鈴木氏が參加し健鬪を續けた。これより先き大正十五年十月由比會長長逝したが後任に菊池男爵を迎へてその陣容は微動だもせずその活動も亦益ゝ健實に凄壯味を加へて今やわき目もふらず「昭和維新實現」へと驀進しつゝある。卽ち

天皇中心主義卽ち大亞細亞主義、延いては世界主義であり、其の宣布さるゝ處必ず皇道樂土を生ずとの主張信念の上に起つて非常時局下に健鬪意氣軒昂たるものがある。而して此堅決斷行の對外的一表現として日支親善に關する國民外交の實踐を唱へてゐる。過般天津に於いて日支兩國民親善の國民運動機關として創立された「普安協會」會長尙旭東氏との間に緊密なる聯絡をとり、互に提携して所期の目的貫徹を期し此の方面の活動にも期待さるべき將來性を多分に有つてゐる。

勤勞日本黨

創　立　昭和八年四月三日
所在地　神田區元岩井町一五
主要人物　總理松谷與二郎、黨務長深田吟治郎、常任中央執行委員小原長四郎、綠川勝美、海老根均、內藤高美、小田林、宇佐見藤次、杉本桑太郎、中島六郎、高橋一郎
機關紙　雜誌「勤勞日本」(月刊)

この團體も亦愛國政治同盟國民協會と同樣組合會議派に絕緣狀をたゝきつけて日本主義に立ち還つて結成されたものである。大正初期以來第二インタ及第三インタの指令下に百鬼夜行の「勞働運動」及び「無產政黨」界に翻然轉機の機會を與へたものは實に滿洲事變であつた。天來の爆彈的衝擊に迷夢より覺醒した松谷氏は昭和七年秋當時所屬せる全國大衆黨に國家主義意見書を提出して單獨脫黨、日本主義勞働團體結成念願の下に新日本建設同盟を組織した。かくて街頭宣傳によつて大衆黨及びその一連と雄々しくも對峙する裡、趣旨を同じうする日本勞働同盟、國民生活防衞同盟、栃木經濟同盟の三團體と大同團結して翌八年神武天皇祭の佳辰を卜して芝協調會館に發會式をあげた。その綱領は

綱　領

一、我黨は國體の本義に基き君民一如皇道日本の强化を期す
二、我黨は皇道經濟を具現し產業協力國民生活の安定を期す
三、我黨は現下の非常國難を打開し東洋平和の確立を期す

以上の如く此の旗印の下に左翼勞働團體粉碎、愛國勞働團體結成の二大目標を擧げ爾來三ケ年一貫した活動を續け今や全國支部卅八支部聯合會八黨員六萬を擁するに至つた。更に各左翼團體の內部分裂の結果同團體と行を共にする者逐次增加の形勢にある。而して同團體が從來の「勞働團體」と趣きを異にする點は亡國的イデオロギーに基く經濟鬪爭のみを以て能事終れりとなさず全日本國民の國家的全體的自覺の上に立脚常に時局を大觀して行動せんと志す處に存する。勞働運動界に於ては產勞及び總聯合を急先鋒とする愛國勞働組合懇話會と同一步調を以て進まんとする一方又政治的社會的問題に關しては愛國諸團體と共同、曩には血盟團及び五・一五事件連座諸士の減刑運動を起し或ひは又相澤事件公判の公開運動等を行つてゐる。更に又亡國華府條約破棄運動には同憂團體と提携して健鬪又「機關說」撲滅運動にも全國支部を動員して熱戰を演じた。昨今對蘇對支を始め國際問題に關しても重大關心を注ぎつゝあり今後の活躍は相當注目される。

勤皇護國同志會

創　立　昭和十年八月
所在地　澁谷區幡ケ谷本町二ノ三五三
主要人物　理事長內田剛藏、顧問井田磐楠、井上清純
機關紙　地湧日本(旬刊)

本會は地湧日本社の姉妹團體であることは同社の項において述べた。卽ち昨年八月地湧日本社の實際的方面の活動に當るため內田氏を中心として同社同人の創立した「勤皇護國黨」の後身である。勤皇護國黨は肇國の御精神を奉戴して　皇謨翼贊に献身するの青年を養成し、勤皇、護國、敬神の美德長養に盡瘁するを目標として結成さる。その信條と目的は以下の如し。

信　條

一、吾黨は　天皇陛下に献身し、勤皇、護國、敬神に向つて精進す
一、吾黨は勤皇、護國、敬神が皇國日本の根本であり、東洋平和の確立であり、道義的世界統一であることを確信す

目　的

一、龍袖に陰れ不善をなす宮內官を一掃し尊皇、補弼の實現を期す
一、權力亂用の官僚、私利黨略の政黨を排擊す
一、安逸的特權階級及賣國的財閥奸商を排擊す
一、勞働者、農民、使用人に對する不法なる搾取をなす企業家、富農、資本家を排擊す
一、反國體思想、邪敎、享樂主義撲滅を期す
一、武力、文化政策、經濟壓迫、宗敎による外國の征服的野心侵略に對しては斷然膺懲を期す

右の信條に立脚之が目的貫徹に向つて精進して居り首途の槍玉に擧げ王藤原銀次郎氏の反軍思想を糺彈し次いで故松田源治氏(當時文相)の京都武德會における恐懼すべき不敬事件を糺明問責したが、創立滿一年を期して九月以來改名勤皇護國同志會と名乘つてゐる。同時に我が貴族院議員中の至寶たる井田井上兩男爵を顧問に推戴、石川龍惺氏は敎化運動方面の參謀格として內田氏を援け相携へて黨勢の擴大發展を期してゐる。同會の活動は「地湧日本」の言論と共に明日の大進軍に期待されるが今や愈よその本舞臺に第一歩を强く踏み入れたものと見てよからう。

め之部

明德會

創　立　昭和二年三月
所在地　日本橋區濱町一ノ二一
主要人物　主幹鹽谷慶一郎、鈴木善一、平野善三、川口政好、淺井正純
機關紙　明德論壇(廢刊)

明德會は日本主義陣營の先輩株として重きを爲す鹽谷慶一郎氏によつて昭和二年三月創立された。先づ其の綱領を見ると

一、吾人は忠誠　皇室を尊崇す
一、吾人は全世界の皇化を期す
一、吾人は建國精神に對立する惡思想制度の撲滅を期す

とあり、資本主義、共產主義、社會民主々義と同時にファッシズムの排擊を主張してゐる。機關紙「明德論壇」は創立の翌々月五月創刊以來大いに健闘を重ね來たが本年七月廢刊の已むなきに至つた。然し從來此機關紙と相俟つて會內及び同憂團體の靑年訓練に貢獻し來つた夏期臨海大學は昭和四年以來引續き開講され本夏も房州において盛大に行はれた。此の外本會の重なる戰績を擧げると、共產主義團體及び腐敗政黨に對し極力抗爭する一方各種勞働爭議（野田醬油、小型タクシー、東日從業員爭議）等の合理的解決に盡力してゐる。更に又昭和三年國策情報資料の一大統制機關として「國策統制院」設立の必要を唱導し其の說明書「國策統制論」を刊行したのを始めとして出版部の名に於いて「日本浪人傳」「國家政策より見たる廢兵問題私見」等見るべきもの多數を世に出してゐる。又實行運動方面では

一、昭和四年不戰條約の大過失に關し田中首相問責
一、六年若槻內閣の軟弱外交糾彈並に支那問題解決の爲め努力
一、翌七年、櫻田門大逆事件に關して犬養首相問責
一、同年末同志と共に國體擁護聯合會を結成し共產黨撲滅並に國體明徵運動に努力中
一、九年、中島商相の高氏讃美論を膺懲、大藏省事件の眞相究明及び軍縮問題に關し、軍備平等權の確立、國防安全感確保、幕府條約卽時廢棄等に活躍
一、十一年同志と共に「日本財源調査會」を結成財源に關する諸般の調査をなす
一、目下「機關說」撲滅を中心とする國體明徵問題、支那問題等の根本的解決に盡力中

等に健闘大いに努めてゐる。主幹鹽谷氏は東大政治科在學中深く感ずる處あり將來學者や官吏となるを屑しとせず中途退學自由なる浪人道に投じた。支那の第三革命當時は山東で革命軍東北總司令居正氏を援けて現滿洲國侍從長工藤忠氏及び血盟團の盟主井上日召氏、五・一五事件の本間憲一郎氏等と行を同じふしたが戰ひ革命軍に利あらず一旦此團結を解散、其解散後も支那に留まり東亞問題の實際的研究を續け、或ひは樺太、朝鮮、滿洲等の實狀等を調査し大正十二年大震災後歸朝赤化防止團の指導に任じた。其後明德會を組織し苟くも國體精神に反する思想運動並びに制度に對しては何等の假借無く猛攻擊を加へ、理論的に實行的に不逞賣國的思想家政治家及び腐敗上層部の一敵國を成した。その反面においては一切の私生活を犧牲として多數の靑年學生を集め身を以て其の訓練に當つたことは偉とすべきである。又夙に日本主義者の全國的結束の必要を悟り日本主義による最初の大衆政黨たる信州國民黨日本國民黨及大日本生產黨の創立に參畫後援する所あつた。曾て日本國民黨員たりし人々の中には井上日召、西田稅、小沼正、菱沼五郎、川崎長光、黑澤大二、鈴木善一、小野義德、小松崎重氏等俊勇が揃つてゐる。

明倫會

創立　昭和八年五月十六日
所在地　麴町區丸ノ內、海上ビル七階

主要人物　總裁田中國重、總務部長井上勝好、青年部長加藤惣次郎、政務部長匝瑳胤次、宣傳部長中山健、統制部長渡邊良三

機關紙　「明倫」及び會報(月刊)

昭和六年九月滿洲事變勃發するや之より先き多年退嬰追從外交排擊大亞細亞主義實現を主張してゐた田中國重大將は「我が志を伸ぶるの時至れり！」として、全國同憂の士に飛檄して强固なる日本主義政治結社の組織準備に着手した。これに共鳴賛同して集る者、在鄕將校あり、元司法官あり、貴族院議員あり、大學教授小學教師あり、實業家あり、智識的階層を網羅して翌々年五月十六日東京に華々しく發會式を擧行した。卽ち明倫會である。滿洲事變後對外的には華府、倫敦兩海軍々縮問題に對する愛國陣營の熾烈なる反對運動が展開し、對內的には既成政黨の積弊に對して同樣憤激の輿論が燎原の火の如く擴がり、今日謂ふ處の「庶政一新」の先驅的運動は將に一大高潮に達せんとしつゝあつた。この秋に際し明倫會の旗擧げは如上の形勢に適應せんとするものであつた。其綱領は卽ち次の如し。

綱領

一、皇祖肇國の神勅を奉戴して天壤無窮の我國體を尊重し忠君愛國及獻身奉公の至誠と道義的觀念との普及徹底を期す

二、既成政黨の積弊を打破して　天皇政治の確立國家本位の政治の遂行を期す

三、退嬰追從外交を排して自主と正義とを基調とする外交を斷行し以て國威國權の宣揚發展を圖り且つ大亞細亞主義の實現を期す

四、統帥大權の發動並國際的軍備平等權を確保し以て自主的國防の安固を期す

五、根本的行政財政及稅制の整理を斷行し且つ產業の振興中正なる經濟政策の遂行並民族の海外發展に依つて國力の充實及國民生活の安定を期す

以上五項を「明倫主義」として世に問ひ先づ第一着手として、國民外交の立場より滿洲事變直後列國の誤れる認識是正の爲め日滿兩者の不可分關係を歷史的地理的政治的に詳述且つ堂々主張せる一文を草し各國大使を通じて其本國へ通達せしめ田中總裁を陣頭に種々猛運動を續ける一方國內においては既成政黨が黨利黨略に沒頭し只之れ政權の爭奪に日も足らざるの非國家的妄動を糺彈し、旗幟愈々鮮明に昭和維新の使命斷行に向つて全力を注いだ。又近くは勿論不逞邪說ミノベ「機關說」絕滅の國體明徵運動に全國支部を動員して邁進した。斯くして躍進日本の眞面目發揮の爲めには、大亞細亞主義の經綸遂行、大和民族の海外發展を現實になさゞるべからずとなし南進政策の確立にも力を注いでゐる。同會のメムバーを見るに前記首腦部の外に相談役として石光眞臣、加瀨倭武、高山公通、德川義親、東鄕吉太郎、堀口九萬一氏等を有し又理事には

安藝晋、蘆澤敬策、伊丹松雄、石原廣一郎、今井信夫、今井新造、奥平俊藏、大山卯次郎、太田千尋、鹿島守之助、齊藤瀏、島內國彦、重松淸行、園田成憲、高田豐樹、瀧原三郎、繼屯、中村四郎太、中頭新左衞門、中川金藏、中原謹司、二宮久二、橋本才輔、二子石官太郎、松尾忠二郎、增田乙三郎、山田英夫、山田軍太郎

諸氏を擧げてゐる。本會としては中央地方の議會進出も目指す處であり、理事團中からは過般の總選擧に今井新造、中原謹司兩氏が當選尙ほ今後の躍進的進出を期してゐる。又議會後本會の名に於いて「國政革新要綱」を提げて政府に進言鞭韃する所があつた。創立以來今日迄に京都、大阪、橫濱を初

め全國に支部八十七、支部準備會、連絡所の設けられたるもの九十ケ所、青年部の數二十一、この全會員萬餘を擁するに至つた。二・二六事件後鳴を鎭めてゐたが對支問題を始め今後の愛國戰線上に於ける活動は注視に價するものがある。

し之部

辛未同志會

創立　昭和六年九月廿八日

所在地　芝區田村町二ノ二、榮和ビル四階

主要人物　理事長淸浦奎吾、副理事長大隈信常、大島健一、横田秀雄、理事宇佐川知義、遠藤格、大山卯次郎、筧正太郎、中島虎吉、南郷次郎、井上淸純、大倉邦彥、龜岡豐二坂本俊篤、堀口九萬一、松井茂、三井淸一郎、村川堅固、矢野恒太、深水貞吉、山田英太郎

機關紙　會報（隨時發行）

昭和五年春ロンドン軍縮會議に於て帝國の主張貫徹危殆に瀕し、ワシントン會議の覆轍を踏まんとするの情勢濃厚となるや憂國識者は總蹶起して時の首相故濱口氏海相財部氏等の中心的當路に警告或ひは鞭韃したのであつたが遂に亡國的屈辱條約の締結を再び繰返へすの現實を招致した。斯くて「一九三五・六年」の危機は此處に確實性を有ち非常時打破の國民運動は遂に熾烈化するに至つた。此間に處し最も活潑に亡國條約締結に反對した南郷少將、井上淸純男、坂本俊篤男等を中心に在郷陸海軍將校並に各方面同憂の士が結束して團結したのが辛未同志會である。主要人物の顏振れを一見したゞけでも同會の眞價は直ちに評價し得るであらう。殊に理事の內には鐵中の錚々たる人物がズラリと並んでゐる。「辛未同志會」起つの聲が一世に重きを爲すの所以は此處に在る。結束後第一聲の聲明と宣言は次の如く叫んでゐる。

聲明要旨

吾人深く鑑る所あり、政黨政派の外に超越して一の研究團體を組織し、國家觀念の徹底、道義心の振興、國家存立の確保、國際正義の實現を目的として時勢に適勢なる對策を講じ、或は政府に進言して其の實行を促し或は國民に宣傳して國論を鼓舞し進んで國際正義の實現を對外的に高調せんとす

宣言

一、健全なる國家觀念の徹底道義心の振興を圖る

一、國家存立の本義に基き之に對應する國策の樹立を圖る

一、世界平和の基礎たる國際正義の實現を期す

帝國の安危存亡測るべからざるの秋、忠良なる國民の眞摯なる自覺に期待し、外に國際平和の恒久的建設、內に國民精神の振作、國策の樹立をなすを以てその使命となす前記宣言は直ちに取つて本會の指導精神であり又運動方針である。創立以來五年此の指導精神に基き同會の活躍は續けられた。亡國倫敦條約の廢棄、政黨財閥及び國民精神頽廢の溫床たる自由主義思想の絕對排擊に對しては特に主

力が注がれた。從つて日本精神闡揚を一途志す教學刷新は一切の同會思想政治運動の具體的中核を爲し、大學問題の研究には卓拔の識見を備へ夙に同憂團體の注目する處である。昨春の議會を契機に凶逆ミノベ「機關說」絶滅の聖戰が國を擧げて至上問題化するや敢然此陣頭に立つて邪說排擊に勇戰したことは周知の通りである。斯くて今や同會は全國民の日本精神涵養を大眼目に思想教育問題を通じ健實なる歩武を進めてゐる。毎月一回水交社に於て例會を開催し必要に應じては國務大臣の出席を求めて時局に對する忌憚なき意見を交換或はその善處を促す等他團體に見られざる長所を發揮する一方隨時パンフレット及リーフレット等を發行して全國民の國家問題研究又は反省自覺に資してゐる。特に目下注目さるゝは大倉邦彥理事を委員長とする教學刷新研究會の研究結果であつて既に成案成り近く獨自の教學革正案脫稿を見る運びとなつてゐる。愈ゝ完成の曉は政府に提示して誤れる現代國民教育の諸機關に對する一大改革の實現を期しつゝある。同會の將來は注目さるべきもの甚だ多い。

新日本國民同盟

創　立　昭和七年五月廿八日

所在地　四谷區大番町九

主要人物　中央總務委員長兼教育部長佐々井一晃、組織部長神田兵三、機關紙部長三木亮孝、庶務部長牛谷彰造、農村對策委員會長蔦木武士、勞働對策委員會長水口德義

機關紙　錦旗國民軍（月刊）　雜誌「錦旗」（休刊中）

此の團體の前身は下中彌三郎、滿川龜太郎、中谷武世、神永文三氏等の企畫せる日本國民社會黨準備會であるが、其同人に全國教化團體聯合會から佐々井一晃氏及び舊勞働農民黨から轉向せる神田兵三、牛谷彰造兩氏及び日本大衆黨からの轉向者手島剛毅氏等が加はつて陣容を整備したのが本同盟である。從つて創立以來國家社會主義的主張を持つ愛國團體として特色を有つて居た。その後下中氏を始め幾多の脫盟者を出し乍ら逐次陣容を建直して今日に及んでゐる。現在は維新政黨結成を目指し手島氏をこの運動の中樞部に送り同運動の主體的勢力の一つとして活動を續けてゐる。

盟　誓

建國の本義に基き搾取なき新日本の建設を誓ふ

綱　領

一、我等は合法的國民運動により全支配權を廢絶し以て　天皇政治の徹底を期す

二、我等は資本主義機構を打破し國家統制經濟の實現により國民生活の確保を期す

三、我等は人類平等資源衡平の原則の上に新世界秩序の創建を期す

以上の盟誓綱領に基いて「新日本建設計畫大綱」を有つてゐる。過般の二・二六事件後同會內に往時の左翼闘士が集つてゐるといふ事實によつて一時其の主腦部は縲紲の憂目を見たが、其の寃は雪がれて去る七月四日本部に於いては新陣容を樹て直し現幹部が其の任に就き新運動方針を確立し前述の如く愛國戰線統一を主題目標として活動することになつた。目下地方支部は、山梨、岐阜、群馬、新潟、三重、埼玉、福島、長野、京都、大阪、兵庫、高知、山口に開設され其の盟友約六萬と號して居る。大衆運動の經驗者を多く集め結成當初より勞働者農民層に組織を持ち目下の處農村六分都市四分と云

ふ勢力分布である。

昭和義塾

創　立　昭和八年二月十一日
所在地　麻布區簞笥町一四
主要人物　代表前田芳藏、三浦鐵雄、福本隆一、工藤秀劍、野田琢磨、顧問五百木良三
機關紙　稜威（月刊）休刊中

本塾は國體擁護聯合會及國體明徴達成聯盟の尖鋭部隊として共産黨撲滅「機關說」殲滅等の愛國聖戰に活躍すると共に獨立部隊としては中島元商相の「高氏論」反擊を始め政黨財閥の醜惡合作たる「大藏省問題」（所謂帝人事件）の爆擊等に健鬪獨自の面目を發揮し來つた。代表者前田氏はまだ卅三歳、春秋に富む潑溂活潑の一青年であるが夙に日本主義運動に投じ、昭和五年「日本生産大衆黨」創立に携はつて中央執行委員に推された。その後愛國青年聯盟に在つて活動し昭和八年獨立して現在に及ぶ。國體明徴徹底、皇道世界宣布翼賛に一途邁進を期してゐる。本團體の綱領は次の如し。

綱　領

一、我等は建國の本義に則し御稜威の世界發揚を翼賛す
一、大日本の性相は昭和維新を達成せざれば實現せざるものと確信す
一、昭和維新斷行の偉業に參ずるの士は昭和義塾の門より出づべきを確信す

新日本建設同盟（附・皇化聯盟）

創　立　昭和八年三月一日
所在地　下谷區茅町二ノ二一
主要人物　盟主笠原幸八、主事笠原正成、福田長太郎
機關紙　「飛躍パンフレット」不定期刊行

會名「新日本」に相應しき若々しさに滿ちた團體である。盟主笠原氏は主事笠原氏の親父であり、此の團體の中心をなす主事笠原氏及福田氏等若人達の實際活動の後見役を務めてゐる。父子揃つて其の名を連ねてゐる團體は恐らく日本國中本同盟と直心道場の二つであらう。創立當時未だ日大法科の學生であつた笠原主事早大出身の熱血漢福田氏等は、夙に五來欣造氏、森吉義旭氏等の反マルキシズム理論に啓發され、中大、明大、早大、日大等の學生有志に呼び掛け之を打つて一丸として創立したのが本團體である。同盟主要の活動圏は現代最も精神的に懊惱しつゝある「インテリ」青年層である。其の綱領は次の如し。

綱　領

一、明治大帝の勅語を奉戴して建國三千年來の日本精神を發揚し義勇奉公の普及徹底を期す
二、既成政黨の積弊を打破して昭和維新の大成を期す
三、腐敗墮落せる青年層の覺醒を促し非常時新日本の建設を期す

四、學生、青年の思想を善導し講演、演說其の他を以て之れが目的貫徹を期す
五、航空省の建設を期す
六、民間飛行青年の教練をなし有事の防空充實を期す

此の主旨によつて隨時文書發行、講演々說等を通じ前記の第一活動圈を目指し健鬪之れ努め來つた。今や全國各地に分散する各大學同窓生によつて其の勢力は波紋化し遠く滿洲支那方面にまで及ばんとしつゝある。別に福田氏の主宰する「皇化聯盟」は特に航空思想普及に盡力してゐる關係上本團體も同方面に獨特の注意を向け學生航空聯盟とも密接な聯絡を保つてゐる。最近京阪中京方面の青年層の橫斷的團結は本團體でも從來の主張と一致してゐる建前から相當の關心を持ち全國的愛國青年結合の前提運動の一として之に支持態度を示してゐる。目下の處支部は埼玉縣の小川町及び本庄町、千葉縣一ノ宮町、山口縣野中の外天津と五ケ所だけに確立してゐるが全國に散在するインテリ青年同盟員は約一千名を算すると云はれてゐる。

尺貫法存續聯盟

創　立　昭和八年十月廿日
所在地　麴町區內幸町一丁目、大阪ビル二號館
主要人物　理事長岡部長景、常務理事波多野二郎、理事伊東忠太、細川護立、大倉邦彥、荻野仲三郎、吉田熊次、鶴見左右雄、黑田長和、阿部潔、酒井忠正、平山清次

機關紙　昭和の光（月刊）

大正十年政黨內閣華やかなりし頃法律を以て我が國傳統の尺貫法を廢止し「メートル法」實施を決するや反對輿論は隨所に起り拜外自由主義思想に支配されたる惡法撤回の叫びは囂々たる當局非難の聲となつたが、就中岡部、波多野兩子爵をはじめ我が建築工藝界の泰斗たる伊東博士等の我が善美なる傳統——家族制度擁護に基調する思想的又精密確實なる計數算定法上よりの惡法反對論戰は如上の全國的形勢輿論を代表するものであつた。爾來尺貫法存續の叫びは全面的に一大輿論化したが當局の徹底的反省のない限り恒久性を以て繼續されるの形勢となり此處に之が素志貫徹の爲め當該運動の指導的統制的機關が組織された。昭和八年東京虎の門霞山會館に發會の擧式を行つた本聯盟が卽ちそれである。斯くてこゝに統制ある組織を具有した前記各方面識者の大陣營は帝都を中心として全國各地に轉戰輿論指導の大講演會を開催する等活躍目覺しきものがあつた。その効果は忽ち同年の議會に反映して兩院共に各派代表が「尺貫法存續メートル法併用」の名論熱辯を揮ひ政府の熟慮を促し善處を迫るに至つた。卽ち曾て政黨政治の生んだ倚狂兒自由主義の所產メートル法專用法規もいざ之を實施せんとするに至つて忽ち猛烈な反擊に遭ひ戸惑ひするの醜體を暴露するに至つた。今でこそメートル法專用を說く者は商工省のお役人の中にも絕無の狀態だが、事此處に至る間の經緯に就いては本聯盟の健鬪に負ふ處實に多大である。過般來商工省內に度量衡制度調査會が設置されてメートル法に關しても再檢討を加へられつゝあるが尙一部には「メートル法主用尺貫法存置」の謬說を固執する者がないでもない。その順逆轉倒の蒙を明知せしむる要あり聯盟としては尺貫法を主として必要やむを得ざるも

のに限り適宜メートル或ひはヤード制等の併用を可とすべきを唱導してゐる。殊に所謂メートル法はフランス革命直後に興隆した制度であつて思想的にも同革命と相關連するものあり斯かるものを法律を以て强制實施することは我が尊嚴なる御國體の明徵上よりいふも斷じて不可なる旨を强調し以て當局の猛省を促しつゝあるは最も注目すべき點である。現在本聯盟と同一趣旨の下に行動を共にしてゐる團體は

京都(尺貫法制度存續擁護會)大阪(尺貫法存續期成同盟會)神戸(尺貫法存續神戸同盟)仙臺(皇國尺貫法存續聯盟後援婦人會)和歌山(尺貫法存續和歌山縣聯盟)岸和田(尺貫愛護聯盟)秋田(尺貫法擁護秋田同盟)島根(尺貫法存續擁護島根本部)滿洲圖們市(大日本尺貫法實行會)

等全國的に二十有餘を算するがその主張は何れも端的に我が國情に鑑みメートル法專用强制に反對して尺貫法の存續を要望し法を以て國本の美風を追放し國情を無視盲目的に外來思潮を取入れるが如き歐米模倣主義を絶對排擊し一切の制度を眞の日本の姿に返すことが非常時現下における最大急務である旨を表明し眞ッ向微塵に惡法打倒を宣言してゐる。同聯盟の會員は現在政界或ひは學界實業界等に有力なる立場を有する人々であり從つて本團體の行動は尺貫法問題に劃定されてゐるとはいへ一面其の運動方針及び實行方法等は思想團體たるの實內容を有ち必然的に尺貫法問題を通じ一般的思想教育問題方面にも驥足を伸しつゝあるは今後注目に價する。

新日本同志會

創　立　昭和八年十二月
所在地　麴町區丸之內、日清ビル內
主要人物　理事長高廣三郎、川原田政太郎、石黑敬七、顧問杉森孝次郎、高木友三郎
機關紙　新日本(月刊)

種々な意味で毛色の變つた團體である。其の綱領は

綱　領

我等は聰明なる認識と强固なる團結とを以て凡ゆる現代社會惡の根源を排除し以て新日本の建設を期す

と云ふのである。資本主義は行詰つた。自由主義も行詰つた。議會政治もその實體を曝露した。それでは日本をどうする。ファッショで行くか、それは考へものだ。では何で行く。此の萬人の疑問に對し明確な解答を與へようと云ふのが本會の志す處である。本來の日本主義は神がゝりか左もなくば偏狹な國家主義だ。吾等の主張の原理は人類社會生活の科學的認識に基いて現代日本の外部的內部的進路の開拓に在るのである。と世に問ふて居る。在會の會員は實業家、役人、武術家等かなり廣汎に各方面に散在してゐるが、早大柔道部の黃金時代の土臺骨であつた高廣氏が主宰するものだけに多くは此の關係の下に集まつた人達と見ても差支へあるまい。「高廣になにかさせたい」と考へてゐる人々の集團とも觀測される。當の高廣氏は先般の總選擧に鄕里富山縣から立候補し惜しくも落選した。現在機關誌「新日本」を毎月一回發行、會員の指導に當ると共に廣く同志の糾合に資してゐるが、顧問に杉森、高木氏の顏振れを存するのに見て其の動向を推すべきであらう。

神道有志聯合會

創　立　昭和九年七月
所在地　市外吉祥寺町二六七八
主要人物　會長瀨尾彈正

眞の日本精神とは、淨化、美化、神化されたる智情意、眞善美の綜合、統一、大成されたるものを云ふ。此の日本精神の凝結する處に我が萬邦無比の御國體を仰ぎ奉るのである。

――とは、會長瀨尾彈正氏の國體觀である。同氏は幼少より神道界に入り專ら此世界に於て心身を鍛錬するところあり、大正十三年黑龍會の門に入り、純正普選運動には當時の「普選」論者樞密院副議長たりし一木喜德郎男に鐵拳を見舞ひ囹圄の人となつた熱血漢である。爾來十有餘年神道界の名物男として押し捲くつてゐる。殊にその獨自の神道論は幽玄にして且つ發溂、斯界を濶步する概がある。昭和六年以來祖國內外の情勢一變、社會の各方面とも國家躍進に拍車をかける應分の努力が捧げられたが、五十年一日沈香も焚かず屁もたれずといふのが神道界の實情であつた。この神道界沈淪の現狀は悲しむべき事實であると共にまた由つて來る制度上の大きな缺陷も多分に存するのではあるが、明治維新の黎明期が神道界の有志によつて招來せしめられたる歷史を回顧する時、彼此對照して轉た寂寥の感なくんばあらず此處に奮然蹶起したのが瀨尾氏である。先づ神道界に提唱して神道人の自覺を求め有志を糾合して本聯合會を形勢した。會員は必ずしも多數ではない。しかし全國各神社の神官諸氏の中には本聯合會に好意を有するもの相當多數に上り、また貴衆兩院の日本主義派並に民間有志家の多くも之れを支持し、一朝瀨尾氏が何等かの問題を提げて起てばその贊同者後援者の顏觸れは堂々の偉觀を呈する。以て本聯合會並に瀨尾氏の實力を推すに足る。海軍々縮會議排擊、共產黨撲滅、ミノベ學說絕滅等に神道人の立場として活躍し目下は天理敎撲滅問題に懸命努力中である。

新興亞細亞青年同盟

創　立　昭和十年三月
所在地　本所區鶴澤町一ノ三
主要人物　顧問山口恭右、常任幹事志賀三郎、三宅進
機關紙　共愛會々報(不定期)を準用中

對支貿易業を營む山口恭右氏を中心に本所區內小工場主及職工等の經濟問題に關する意見交換と親睦とを目的とした「八の日會」といふ一團體があつた。蓋し江東一帶の工場は對支對南洋貿易の消長によつて其の收益が左右せられ職工の生活と貿易とは密接不離の關係にあることが此の會の生まるゝ原因であつた。處が二・二六事件後滿洲北支に對する我が貿易は實に變轉極まり無く、「八の日會」員の如上の關心は次第に成長して政府の對外殊に對支政策には深甚の注目が拂はるゝ事となり、山口氏の直接間接の指導下に對支對蘇外交强硬策を主張するもの次第に激增遂に窮極する處黃色人種の大同團結によつて世界白人閥を打破せざるべからずとの結論に迄發展此の志の下に本同盟は創立された。同

盟の思想的指導者である山口氏は對支問題に對する深き理解者であり、又熱烈なる忠孝兩道の遵奉者である。其の綱領は以下の如し。

綱　領

一、御皇室ニ對シテ一意忠誠ノ念ヲ以テ行動ス
一、皇道ニ照ラシ臣道ニ基ク新日本ノ建設ヲナス
一、覇道文化ヲ克服シ全亞細亞聯盟ヲ達成ス

最近支那に頻發する侮日事件は、特に英蘇の巧妙なる外交術策に乘ぜられた我が外交當局の失態なりとし之が徹底的是正を見ざる限り黄色人種相刻の愚を永久に繰返すばかりであるといふ見解から、成都事件解決を始め全面的對支策確立運動を爲すべく各般の準備を進めてゐる。創立以來日尚ほ淺いが、他方現今問題になつてゐる人民戰線運動に對する監督取締當局の態度にも之を我が金甌無缺の御國體を輕視するの甚だしきものとして痛烈な憤懣の情を抱き、中西、加藤、高津等一派の人民戰線派に對する一方當局啓蒙に就いても不斷の活躍を續けてゐる。現有勢力は會員約六百名であるが同盟員は一般日本的インテリゲンチヤが多く、同地域に地盤を有する赤色勞働團體と第一線的對立關係にあり兩者間の論戰こそ江東一帶の日本主義者とマルキストとの正面衝突の觀を呈してゐる。

新日本海員組合（附・國體擁護海上同志會）

創　立　昭和十年五月二十日
所在地　芝區芝浦二ノ一（本部）神戸市榮町五

主要人物　組合長門司宗太郎、副組合長那賀源三郎、組織部長藤原喜代松、調査部長陰山壽、政治部長新妻德壽、教育出版部長松田喬平、會計部長塚越佐人、顧問赤崎寅藏、茅原基治、東京支部長狹間信一

機關紙　新興海員（月刊）

「海國たる我帝國にとりて海運は立國の根帶を爲す重要産業にして海員は海運の原動力である」「海員の素質改善と能率の增進とは其先決問題である」といふ宣言書を發表し、大正十五年五月七日全國有力海上團二十三團體が打つて一丸となり日本海員組合を組織し日本最大の單一勞働組合を結成、其の統一擴大に異常なる成功を收め海運勞働者の眞使命指導に任ずること十年に及んだが、幹部の思想的誤謬は遂に當初の趣旨を裏切り幾多の醜聞を起し、昭和五年三月には第二インターの本山國際運輸勞働組合聯盟（ＩＴＦ）に加盟するの暴擧をさへ敢てした。此の醜態は組合内部に伏在したる日本主義的正義派のよく堪え忍び得るところではなかつた。此の一黨としては是非とも「海員は海運の原動力」であるといふ衿持と共に日本人たるのそれを擁護なさねばならなかつた。此時既に分裂すべき運命が迫つてゐたのである。かくて川崎汽船海上ゼネストは遂に「新」「舊」に「善」「惡」に明白なる分裂を招來した。即ち海上十萬大衆の牙城として中外に其の形態を誇稱してゐた日本海員組合は遂に分裂し去り、昭和十年五月廿日國體明徴の神風に乘つて新日本海員組合は結成された。その掲ぐる綱領は

綱　領

一、我等は自己の本分を盡して公正なる勞資關係を確立し、産業協力の實を擧げて國家海運の興隆に盡すと共

に、鐵の如き團結を保持して海上勞働者の福利增進と社會的地位の向上を期す

一、我等は比類なき我國體を遵守し、合法公正なる經濟的並に政治的行動を通じて全無產階級の解放と我日本の建設を期す

由之、海運報國の誠を盟誓して忍苦の一年を送り今春愛國勞働組合全國懇話會が結成さるゝや入りて重要なる構成分子となるに至つた。躍進日本の現狀は益ゝ海運の健實なる發展を望んで止まぬ秋、咄！　日本海員組合がIFTの指令下に西班牙人民戰線政府軍に義捐金を送り、或は去る廿五日神戸港に於て日本郵船野島丸以下九隻の不敬事件を惹起して凶惡なる不逞思想を曝露したるに反し、我新日本海員組合は『國體明徵徹底』『亡國人民戰線粉碎』『海上赤魔討滅』の三大旗幟を堂々と揭げ、同憂團體と共に『國體擁護海上同志會』を組織して士氣旺盛裡に陣地を進め、今や將に敵壘を摩さんとするの圖は頼もしい。支部は目下東京の外、横濱、名古屋、大阪、門司、若松、三池、伏木、高雄等にあり、護國海軍の無二の友誼的存在としての威容を着々整備しつゝある。本組合の正當なる發展は國家の爲めにも願はしきものゝ一つである。幹部諸君の自重と研鑽とを望んで止まない。

眞日本建設社（附、眞日本建設同盟）

創　立　昭和十年十一月
所在地　目黑區上目黑一ノ七
主要人物　主宰馬場園義照

本團體は國民戰線社（昭和三年末創立）の後身である。「民政」黨を中心とする政黨の權勢が頂點に達した昭和三年當時の世相に就いては此處に更めて贅說するまでもないが、思想國難、政治國難、外交國難と國難は內外に重疊し國步實に艱難、諸種の亡國的象兆をさへ見るに及んだ時代であつた。此の時勢の重壓下に刻苦辛酸と打ち鬪ひながら「祖國救濟」の勇猛心を以て憂國の士は續々と蹶起した。妖雲を排して天日を仰がんとする此の雄々しき一群の中に我が國民戰線社も存在する。大逆叛人朴烈怪寫眞問題を振出しに同社は果敢なる戰端を開き機關紙「國民戰線」を通じて青年同志の糾合を圖り中外に向つて皇國の眞精神發揚に種々努力した。殊に昭和五年ロンドン海軍々縮條約問題が起るやその歲五月「ロンドン會議收攬の眞相」と題するパンフレットを發行同會議の裏面の國際的カラクリを白日下に晒らして我が國民の自覺と奮起とを促す處あつた。爾今常に愛國諸團體と行動を共にし亡國華府條約破棄並びにミノベ「機關說」絕滅等の聖戰に挺身的猛運動を續けた。斯くて昭和十年長くも第二皇子殿下御降誕遊ばさるゝの御吉慶に際會して益々皇道翼賛のために祖國奉仕を誓ひ、玆に團體名を「眞日本建設社」と改稱同時に「眞日本道場」を創設した。本道場は講師「磐座の行事」體得者相葉忠男氏の指導下に都下の學生層を糾合し、每日曜日場內の神前に於いて日本精神涵養惟神之大道顯彰の講話會を開催精神作興に努めて居る。組織は繁文褥禮を避けて來る者卽會員となし特別の主義も綱領も揭げず古神道に謂ふ所の「磐座の行事」體得を以て眼目としてゐる。要は日本人は日本精神に依つて生きて行く處に世界何國人にも劣らぬ向上と進步發展があり、日本精神の涵養は「惟神之大道」奉戴にありとの主意信念の下に、全國民に神事に對する一切の知識を普及して一千年來中斷せる「磐座の行事」を復活せしめることこそ眞に同人の務めであると爲してゐる。而して全國民がこの精神

の發揮にいそしむことが、やがて神國日本をして眞に世界の一等國たるの偉容を現實に備へしめる所以であるとてこの「眞日本道場」を全國道場にまで護立つべきを皇紀二千六百年を迎へ奉る記念事業と爲し此の念願達成のため不斷の精進を續けてゐる。一方實行運動に當つては「眞日本建設同盟」の名において刻下の重大問題たる對支輿論の喚起と政府鞭韃のために馬場園主宰自ら蹶起し「機關說」絶滅運動に健闘せる同志訪問隊の諸豪と共に强固なる陣容を整備して事態の推移を監視中である。

神政社

創立　昭和十年十一月
所在地　品川區下大崎二ノ二三
主要人物　社長森清一、同人菊池弘泰、村野泰敏
機關紙　神政（月刊）

同社は昨年十月解散せる「大日本學生聯盟」の延長である。「學聯」は明治、法政兩大學の學生を主體として結成され、極東オリムピック反對運動、アリゾナ問題等に愛國學生團體として活動の足跡を印したが、菊池氏の學園卒業と共に一旦之を解散して同人は此處に當時からの機關誌「神政」に專ら據ること〻なり爾後現在に及んでゐる。その主張は次の如し。

主張

一、吾等は一切の個人主義的思想を排し神政の下に道義日本の再建設を期す
一、吾等は惡德政治家、不正資本家に猛省を促すと共に眞日本精神の擴充を期す
一、吾等は白色制覇の鐵鎖を斷つて弱小民族の解放、世界資源の衡平、以て皇化による平和世界の創造を期す

現在同社では從來の關係上より學生層に支持を受け此方面に對する日本主義理論の確立と大亞細亞主義の徹底化を目射し不斷の努力を捧げると共に昨今の對支問題に對し多大の關心を拂ひつゝある。

せ之部

政教社

創立　明治廿一年二月十一日
所在地　神田區猿樂町二ノ一五
主要人物　社長五百木良三、國分高胤、寒川陽光、皆川三陸、旭國彰、山田和彥、阿部利行、平野直美
機關紙　日本及日本人（月刊）

政教社は創立五十年の歷史を保有する。黑龍會が實行運動團體としての王座を占むるものとすれば、之れは正當言論派の傳統を守り貫いて將に今日同派の首位を占むるものと云つてよい。兩者を愛國陣營の双璧として推稱することに何人も異論はないであらう。明治初期以來洛々として神州日本帝國に

押寄せた西洋風潮は、當時文明開化に駈足歩調だつた國民をして應接に暇なからしめ、歐化萬能に陶醉を貪るの時相を呈したので憂國慨世の志あるの士は齊起して國粹保存を高唱した。その中の健筆家が集り我が善美なる傳統の保全と良美なる善果採取を標榜して政教社を結成、廿一年四月三日神武祭の佳き日雜誌「日本人」を創刊した。當時の顔觸れは、杉浦重剛、志賀重昂、井上圓了、棚橋一郎、三宅雄二郎、菊地熊太郎、杉江輔人、辰巳小次郎、松下丈吉、島地默雷、今外三郎、加賀秀一氏等何れも錚々の士である。そして志賀氏が編輯人として毎號卷頭言を記したがその筆致の痛烈なる懦夫を奮起たしめるの慨あり特に第二號の「旨義」(註一)及び第六號の「日本前途の二大黨派」(註二)は前者は國粹保存、後者は日本主義を高唱せるものにして卓拔の識見堂々の行文共に後代の範とするに足る。この筆陣と相俟つて柵橋、三宅、辰巳、島地諸氏は「日本旨義」即ち日本主義の演說會を催し、警世叱咤にこれ努めた。その後同一論陣を張つてゐた「日本新聞」より陸羯南、古島一雄、河東碧梧桐小久保喜七氏等の精鋭一時に馳せ參じて政教社の陣容は一段と擴充强化され同時に誌名も「日本及日本人」と改題した。かくて對外問題と思想問題を主材となし爾後數十年一貫して今日に及んで居る。殊に大正十二年大震災後陣容改組により三宅、中野(正剛)一派が去り專ら井上龜六氏(現大日社々長)の主宰する所となり現社長五百木氏が裏面的に多大の援助をした頃から純正日本主義皷吹に編輯方針も改まつた。更に昭和四年以來五百木氏の經營下に置かれるに至り對外思想兩問題を中心として日本主義の大論陣を布き革新意識を高調して國民の自覺喚起のため大號令を續けて來た。之れを要するにその主張は「皇國の天業たる世界綜合の大使命達成を期す」といふにある。以上は政教社沿革の概略であるが現社長五百木氏は弱冠にして日本主義を體得し之が顯揚に盡瘁、對外、對內問題に活躍し來つた事は多く語るまでもない。日刊「小日本」から同「日本」現在の「日本及日本人」と文章報國に献身努力する一方、故霞山近衞篤麿公の知遇を受けて「東洋倶樂部」「國民同盟會」「對露同志會」「櫻田倶樂部」「城南莊」等に關係し日本主義運動の爲め樞要なる役割を演じた。從つて其の活舞臺は朝鮮に、支那に、滿洲に展開し對露問題に關しても古い經驗を持ち大陸經綸の深遠該博なることは周知の通りである。その最近における主なる活躍を列擧するも井上哲二郎の妄說征伐、不戰條約問題、ロンドン會議問題、滿洲問題、華府條約破棄問題、「機關說」撲滅等凡て重大なる對外及思想問題には常に輿論と實行團體兩方面の指導に當つてゐる。而して同社の主張を體して五百木氏の意を汲み實際運動に先陣を承つてゐる人として皆川氏の存在を特記して置く。尙ほ五百木氏は昭和七年國體擁護聯合會成るや推されて其の首領格に座し、共產黨撲滅・國體擁護の大聖戰を展開したことは周知の如くであるが卽ち對內的には御國體の明徵徹底、對外的には對蘇問題の徹底的解決、此の相表裏する二大問題の解決(「赤」退治)こそ實に昭和維新の大眼目としてゐる。斯くて此の大眼目解決を繞つて今後展開する革新派と現狀維持派との接觸應酬こそ直ちに取つて以て昭和維新途上における「鳥羽伏見の戰」なりとし一段の活躍に精進してゐる。春秋已に六十餘を重ねながらも尙ほ鑊鑠壯者を凌ぐ意氣と健康を併せ持つ五百木氏の活動舞臺は將に此れからだと云つてよい。

(註、一)　卷頭言「旨義」……予輩が懷抱する處の大旨義は實に日本の國粹を精神となし、これを骨髓となし、而して後能く機に臨みて進退去就するにあり。(中略)當代今日は實に之れ大日本國の興廢、盛衰、安危と、大和民族の隆替、進退、嚮背とを裁斷すべき千載一遇の機會なるを以て、予輩は舌の在らん限り、筆の在らん限り「國粹保存」の大義を極言極論して已まざらんとする者なり。

（註、二）同「日本前途の二大黨派」……（前略）日本旨義とは何ぞや、「勢力保存旨義」是なり。勢力保存とは何ぞや、自己が特有の勢力を歩々着々發揮進暢して、其の基礎を鞏固にし、其の重心線を垂直ならしめ、漸次の間に大勢力と化成するものを云ふ。然れば此の旨義は「歐洲旨義」即ち模倣旨義とは全然反對するものにして、日本國民が原性、本才、技能、精神、秀粹を養成蓄積し、淘汰改良し、以て日本國旗の命脈榮譽を永久萬代の間に保維せんとする者なり。（中略）日本旨義を懷抱せる人士が唱導する處を追隨すれば「國粹保存旨義」となり、「非模倣旨義」となり、民力休養となり、（中略）「日本旨義」は獨り公明正大なるのみならず亦至利至益なるを以て、予輩は這般を懷抱し、這般を伸張し、以て大和民族が現在未來の需背を裁斷せんとするものなり。吁嗟「日本旨義」なる哉。「日本旨義」なる哉。

聖日本學會

創　立　大正十二年十一月

所在地　澁谷區原宿二ノ二三〇

主要人物　田尻隼人、澤田五郎、千家尊建、井乃香樹、天野辰夫、野中貞、西川光二郎、金丸吉治、五弓安治郎、山本信哉、手塚道男、稻葉一也、伊藤武雄、梅本寛一、野尻祐通、大森一聲、三浦延治

機關紙　聖日本學會記錄

大正十二年秋關東大震災の直後彼の大慘事はその突發直前までの混濁腐敗せる世相に對する天譴なりとして「覺めよ！　國民、日本精神に立ち還れ！」と奮ひ起つた故渥美勝氏以下澤田五郎、田尻隼人、千家尊建（當時鐵鷹）四氏發起の下に神聖日本主義を標榜して相結んだのが聖日本學會である。そして神聖日本の大精神を究明し神聖日本主義高調普及の爲に雜誌「神聖日本」を發行する一方遊説隊を編成して遠く大阪、岡山、大分にまで及んで活躍する處あつた。

宏遠なる肇國の古へより澎湃として神ながらの大空に波打つて盡きざる心靈の潮、之を日本精神といふ

と日本精神の意義を闡明して、この日本精神の體現によつて天壤無窮の皇運と莊嚴なる天業恢弘を扶翼せんことを誓ひ、知行合一を旨として眞理のために闘ひ大義のために殉ずるの覺悟を抱き十字街頭に敢然雄叫びするの戰士――これが當時の此一黨の姿であつた。中にも渥美勝氏は「神政維新桃太郎」の幟を押立て或る時は神田須田町の四辻に軍神廣瀨中佐の銅像を背景として憂國の叫びを擧げ、或る時は上野の樹下石上に立つてミコトの道を說き火焰の如き警世の言は切々として都人士の胸を强打した。「淸く、優しく、强く」（偕に食ひ、偕に働き、俱に樂しみ、俱に榮える）これが所謂桃太郎主義の要諦であつた。この陋巷の闘士の思想は後來神兵隊事件の主動勢力をなした天野辯護士によつて繼承されたことは餘りにも有名である。創立後幾多の難關に逢著した同會は一時鉾を納めたが世の悲狀は歲と共に深刻化し同會同志の奮起を促し遂に昭和七年十月の再擧となり今日に及んでゐる。同會が唯物思想と合理主義の眞只中に起つて幽玄なる神道精神と日本主義の不可分關係を闡明にする爲如何に難戰苦闘したかに就いては多くの語り草が殘されてゐる。田尻氏が早大學生當時大正三年の頃同憂の澤田、千家氏等と共に片假名でありさへすれば喜ぶ連中を引きつける策戰から「ネオ・シントイズム」の「新語」を發案し「神道などは古臭い」と頭からケナシつける連中に一泡吹かせたなどは今も

尙ほ同人懷ひ出話の一つとなつてゐる。同會再興に先立ち恰かも櫻田門の鮮人大逆事件あり「大義名分論」の小冊子を刊行して各方面に頒布時の政府犬養內閣を問責爾來捲土重來の意氣を示しミコトの道の宣布非日本的思想克服に斬魔の利劍を揮つてゐる。今後愈よ「神聖日本」の眞面目發揮に大奮迅せんとする同會の將來は刮目に價する。會員は嚴選主義從つて多數ならず。

旋風社

創　立　昭和五年五月
所在地　淀橋區百人町三ノ三七三
主要人物　代表者薩摩雄次
機關紙　旋風（休刊中）

必敗的屈辱倫敦軍縮條約締結を繞り、濱口內閣によつて大不祥事「統帥權干犯」が强行され、天下の志士孰れも天日を仰いで悲憤の涙に咽んだが斯かる全國的憤團氣の裡に薩摩氏を中心に宮本利直、西田稅兩氏を兩翼として生まれ出でたのが本團體である。機關紙「旋風」第一號は統帥權干犯問題を論じ全國同憂の士をして感憤せしめたが當時の爲政者爲めに一大衝動を受け周章狼狽遂に大彈壓となつて現はれ第二號の出版中絕を餘儀なくさせられた。西田稅氏は二・二六事件に連座目下囹圄の人、宮本利直氏は北支天津に別途の活動を續けつゝあり、代表薩摩氏獨り孤壘を守つて奮鬪しつゝあるが、如何せん其の主張を述ぶべき機關紙は第一號以後全く當局の忌諱に觸れ發刊不可能、從つて同社としての運動は全く表面に現はれてゐないがその實體は存立の意義を愈よ發揮しつゝある。薩摩氏は這回の二・二六事件謀議容疑者として久しく自由を拘束されてゐたが今や全く其の嫌疑は晴れた。其の綱領を一讀すれば同社同人及び支持者が如何なる種類の人達であるかを想像し得よう。

綱　領

今や日本は萬惡巷に滿ち、憂患國中に溢ぎす。——國家を私斷する政治的朋黨經濟的閥族の驕奢暴逆、階級鬪爭の名に於いて斯かる姦國的勢力と共に國家其の者をも敵とする赤賊跳梁、墮落宗教、破倫藝術家等の國民殘賊。然して精神の墮落、歌行天下に蔓り、生活の窮乏餓孚を埋め、普く見る今や國人の念願「國家」の片影だもなく、上下左右滑々相率ひて「國家」破壞の妄戾を敢犯す。夷敵四方に迫り外患日に急なる誠に止むを得ざるなり。嗚呼國滅んで山河ありといふ然も此の日本國一たび滅んで豈只山河のみあらんや、五萬方里の山河、九千萬國民と共に遂に昨相を留めざらん。痛哭淋漓、技に鎭護國家の征途に立たんとして、破邪顯正の天劍の鞘を拂ふ。昭和五年五月、巷に滿つる亡國的萬惡を席捲すべく日本の一角に「旋風」起る。

代表薩摩氏は目下孤獨であるが國體擁護聯合會の主柱の一人として各愛國團體の誘掖指導に當り、「機關說」排擊、國體明徵運動に活動し其の卓越した精力は愛國陣營の力强き宿將たるを失はない。今後の維新運動に於いても其の活躍は期待される。尙ほ同氏は東洋平和確立と大亞細亞建設への文化的貢獻を期し過般同志の人々と共に「東京日華學院」を麴町區富士見町大東文化學院內に創設、日滿支三國靑年學生相互の思想、學術、政治、經濟、藝術理解に努めつゝあることを特に附記して置く。

洗心莊

創　立　昭和八年三月一日
所在地　澁谷區代々木本町八三六
主要人物　主宰友納早一
機關紙　洗心（不定期）

主宰者友納氏は心からの南進論者である。今頃流行の御都合主義的北守南進論者ではない。氏は其の愛國的情熱を明德會で養ふたが、我が國產業の不振を嘆き南方開發こそ我が國是なりとの確乎たる主張の下に盟友と袂を分つて南方に遊び驥足延びて遠くエチオピアに及んだ。歸朝後直ちに私塾「洗心莊」を開く。時に昭和八年三月一日滿洲建國一周年記念日であつた。同氏の目的は南方雄略の青年を育英するにある。卽ち「洗心莊」は運動團體に非ずとの批評の生まるゝ所である。然し乍ら本團體は決して國內問題を輕視せんとするものではない。海外萬里の雄圖に燃ゆるものは內に在りては必ず現狀革新の意圖に燃ゆる愛國者でなければならぬ。頻發する國內重要問題に本團體が友誼團體と步調を合せ鬪つてゐる所以は卽ち此處に存する。特に國體明徵問題の解決に當つては各團體有志と共に友納氏自からその陣頭に立つて鬪つた。其の綱領は次の如し。

綱領

一、赤心報國を期す
一、社會人心の革新を期す
一、亞細亞に經綸を行ひ全世界に皇道の宣布を期す

然り「洗心莊」は皇道の世界宣布に實際的運動を展開しつゝある。主宰友納氏に養成された鳳雛は既に長じて圖南の翼を翔り、大瀛を越えて南方未開の地に皇道宣布の準備作業を續けてゐる。卽ちジャワ、シヤム、セレヴエス等に屯して「洗心莊」の理想實現に邁進しつゝある。目下國內情勢の一大變革期に當り豫定方針の變更を餘儀なくされた爲め從來の塾生養成は中斷してゐるが、此の事情は却つて將來南洋開發の實際業務に入らうとする友納氏の最後の案の實現を促進せしめることになる模樣であり、或は近い將來に素晴らしい飛躍を具現するのではないかと期待されてゐる。

青年運動社

創　立　昭和九年七月十五日
所在地　赤坂區青山南町四ノ二二
主要人物　藤三雄、千葉友次郎、小杉賢二、山本昌彥、鈴木正吉、北條哲夫
機關紙　青年運動（月刊）

此の團體は其の名の示す如く若き人々の團結であり、大日本生產黨の支流中の尤なるものとして知られ、愛國各陣營の青年層と强靱な聯絡を有する點に特色と威力とを有つてゐる。盟主藤氏は明治大學在學中已に學生愛國運動に身を投じて純眞なる學生を荼毒する赤化思想及び自由主義思想絕對排擊

の陣頭に起つた經歷を持つ。一方愛國運動の總元締たる黑龍會に籍を置き諸先輩の薫陶を受けて「生産黨」結成されるや黨員として活躍し、現に少壯中堅分子の列に座してゐる。豪放濶達の天性は青年層の支持する所となり青年運動社を起すに至り獨自の智略と戰法を以て一黨を引具してゐる。その活動の指導精神たる綱領は

綱　領

一、皇道維新斷行による新日本建設を期す
一、白人魔手より亞細亞民族の解放を期す
一、建國精神に則り道義的世界統一を期す

以上の如し。而して維新運動の急先鋒たるべき青年の結束を期する所から機關紙「青年運動」を通じて其所志の徹底を圖ると共に隨時研究會を開いて時局を檢討し、又友誼團體十數個の青年幹部有志を糾合して毎月廿五日定例時局懇談會を開催之れに依つて對時局認識を深め相互の連絡緊密を計つてゐる。二・二六事件後は專ら自己內省を旨となし、機關紙發行、座談會開催の二つながら中止して部內の修養練磨と結束固めに精進してゐたが、支那の暴狀座視するに忍びず同志と共に憤起對外硬を提げて活躍してゐる。尙ほ地方支部は福岡、京都、北海道に開發されてゐる。

各派聯合團體

對外硬各派同志會

創　立　昭和十一年十月十五日
所在地　麴町區永田町二ノ八六、自由倶樂部內
主要人物　馬場園義照、藤三雄、友納早一、川原信一郎、依岡浩馬、內田剛藏、堤倉次、赤尾敏、佐橋尙政、皆川三陸、神保幸三郎、平野小劍、摺建一甫、杉浦應、須藤理助、鈴木勇

最近の深刻なる支那情勢に刺戟せられ、都下有力愛國團體の中堅戰士及び新鋭團體の黨首等を打つて一丸とする各派の聯合軍である。其の主要人物の所屬團體は次の如くである。

馬場園（眞日本建設同盟）、藤（青年運動社）、友納（洗心莊）、川原（黑龍會）、依岡（白王社）、內田（地湧日本社）、堤（大日本錦旗會）、赤尾（建國會）、佐橋（大日本生産黨）、皆川（政敎社）、神保（愛國社）、平野（內外更始倶樂部）、摺建（鶴鳴莊）、杉浦（國粹大衆黨）、須藤（大日本護國青年黨）、鈴木（勤王聯盟）

由來愛國團體の大悲願は、今日謂ふ所の「御國體明徵」にあり、外にしては大陸經綸、內にしては

此處十年來所謂憲政常道論を金科玉條とする既成政黨の徹底排擊と資本財閥の是正より發展して昭和維新の名によるミノベ學說擊滅に及んでゐるが本同盟の根幹は曩にミノベ問題の當時、國體擁護聯合會、機關說撲滅同盟、國體明徵達成聯盟等の邪說排擊陣の間に介在し、いはゞその遊擊隊的役割に於いて而も獨自の立場より疾風迅雷最も果敢に闘つた各派青年有志の無名「訪問隊」である。其顏ぶれは須藤、馬場園、西村、友納、川原、川口、內田、深澤、赤尾、佐藤、皆川、平野、須藤、杉浦、鈴木諸氏の他に井上四郎（生産黨）松林堯（政敎社）鹽谷慶一郎（明德會）庄子野利一（同）下山治平（國士會）諸氏

以上の諸氏であつた。貴衆兩院中の正派激勵、岡田首相、小原法相、後藤內相、松田文相はじめ當路者及び牧野內府、樞密顧問官、又「機關說派」たる一木、ミノベ、金森法制局長官の歷訪に健闘頗る努むる處あり「訪問隊」の名は敵味方の間に齊しく認めらるゝ處であつた。岡田內閣の沒落後暫らく時世の傾向を靜觀しつゝあつたが去る八月の成都事件以來支那の憍上慢は赤露及び英の野望を背景として停止する處を知らず遂に我が御國威を無視せんとするが如き形勢をさへ馴致し來り事態座視するに忍びずとして「對外硬」の旗幟の下に、かつての戰友に加ふるに新鋭を以てし此處に本同盟の結成を見るに至つた。新陣容に加はつた人達としては以下の諸氏が擧げられる。

西村泰三（內外更始倶樂部）、壁經平（對支國策研究會）、川口政好（明德會）、上村市之亟（天鄕會）、深澤源造（建國會）、佐藤信勝（信統會）、志村吉男（國士會）、森山悟朗（愛國社）

結成と同時に長文の烈々たる聲明書を公にしたがその聲明の骨子は左の如し。

一、吾人の理想は恒に平和に存し平和の裡に文明を求め平和の裡に國運の發展を求め平和の裡に國民の膨脹を求め、之を以て國家經綸の大綱となす

一、吾人が東亞の問題を思念し恒に自主積極の主張をなす所以のものは畢竟日本の政治的存在を確保し、日本文化の發展を希求する爲めに亞細亞に於ける歐洲諸國の壓迫を排除して日本の自主存立を圖り、依て以て東洋の平和を確保することに外ならず

一、對支國交上和親協同を以て其の要義となすは言を俟たざる所なり、然るに日支關係今日の惡化は支那の外力に對する依賴心と我國當局の無能に對する侮蔑の深刻なる發露に因るものにして、對支處置上の根本要義は支那に對して更に積極膺懲を徹底し先づその對日侮蔑心を根本より一掃するにあり

一、姑息軟弱、妥協、糊塗は對支處置上絕對禁物たるべし。而して其の排日行動の根本的挑發支持を爲す外力の干涉容喙の如きは斷然之れを拒斥せざるべからず

今後對支外交の經過如何によつては蹶起奮起すべくミノベ問題の戰歷に照し期待さるゝもの多く又事態如何によりては各々其所屬團體を動かして各派の大同團結の礎石たるべき使命をも有してゐる。

機關說撲滅同盟

創　立　昭和十年三月八日

所在地　麴町區永田町二ノ八六、自由倶樂部內

主要人物　代表頭山滿、井上淸純、井上龜六、五百木良三、岩田愛之助、今泉定助、池田弘、林逸郎、小幡虎太郎、大竹貫一、奧平俊蔵、川原信一郎、田鍋安之助、佃信夫、內田良平、葛生能久、松本重敏、松岡洋右、松田禎輔、增田一悅、香渡信、江藤源九郎、赤池濃、葦津耕次郎、齋地磐夫、薩摩雄次、菊池武夫、蓑田胸喜、宮澤裕、三

武錠史、四王天延孝、鹽谷慶一郎、末永一三、角岡知良

凶逆邪說ミノベ機關說は西歐唯物思想と個人主義法律學の見地より萬邦無比の我が國體と欽定憲法を曲解せるものにして、我が國體の尊嚴を冒瀆、皇國臣民の信念を蹂躙するものとして、夙に原理日本社同人一部愛國陣營の識者がその擊滅根絶を熱求「學術維新」の名の下に痛烈なる論擊を加へ來つた處であるが、久しく南風競はず皇國に生れて皇國の恩を知らず學術的思想的迷信に惑溺せる朝野は毫も反省の色なく驕る曲學阿世の徒をして「三十年定說」の不遜態度を擅まになさしめた。斯くて治々上下相率ひて皇國の神聖を汚瀆し去らんとしたが遂に邪は正を制する能はず東雲白む黎明は廻り來つた。昭和九年の歲末、第六十七議會開會目睫の十二月四日、此年六月六日附を以て原理日本社蓑田胸喜氏の告發に掛る凶逆ミノベ學說と同列のスエヒロ言說に對する不起訴の裁斷が下された。嗚呼時弊の澗濁遂に此一大痛恨事を齎す！　志士識者の悲憤は其極度に達した。明けて十年の新春松の內を過ぎた十日都下愛國團體を打つて一丸となす國體擁護聯合會は敢然として先づ起つた。卽ち議會休會明けを前にして「末弘美濃部國憲紊亂思想に關し」と題する長文の聲明書發表は時の政府要路者及學界に一大衝擊を惹起せしめた。

引き續き同十五日には末弘に對する東京帝大教授辭職勸告、十八日には後藤內務、松田文部兩相に對する痛烈なる決議文の手交が行はれ御國體明徵の聖戰は果然その火蓋を切つた。かくて全愛國陣營の緊張環視裡に第六十七議會は再開され、當局のミノベ・スエヒロ學說取扱ひは嚴重注目の的となつた。時運は動いて低調墮落の議會にも一脈の正氣は躍動した。二月九日衆議院豫算第二分科會（內務文部所管）において江藤源九郎代議士によつてミノベ「逐條憲法精義」の內容に關する質問第一矢が放たれた。然るに後藤內相は狼狽しながらも之を輕視して糊塗せんとした爲、二月十八日貴族院本會議において菊池武夫男立ち一流の辯舌を揮つて端的にミノベ學說に對する政府の所見を質すや松田文相は「學說は學者に一任」の奸譎極まる遁辭に加ふるに逆擊的態度を以て之に答ふる處あつた。之れ天意に非ずして何んぞ！　此處に至つて事態は急展政治問題化し、三室戸敬光子、井上淸純男の追及質問有り、之れに對して岡田首相亦文相と同樣の答辯を弄して自らその國體觀の低調を曝露すると共に問題を愈々紛糾せしめた。更にその渦紋に拍車をかけたものはミノベ自身の「釋明口演」であつた。卽ち二月廿六日貴族院本會議において學匪ミノベ達吉は畏れ多くも　玉座の大御前を憚りなく釋明に言を藉りて彼の抱懷する凶逆不逞の「機關說」を口述するに及んだ。おそらくは「三十年定說」に驕り狂したものであらうが一面政府部內に彼を使嗾して此擧に出でしめたものがあるのであらう。此の國體に對し奉る積極的の不遜態度は院內院外の明徵派、愛國陣營を極度に刺戟し「撲滅！　機關說」の雄叫びは嵐の如く捲き起つた貴族院では公正會の菊池、井上、井田（磐楠）三男爵を中心とする正派が奮鬪し衆議院では旣成政黨の變り種政友會の山本悌二郎氏一派が立上り院外では國體擁護聯合會の戰線統一强化が行はれ之と呼應して愛國團體は一齊に蜂起した。事態今や急！　此至重至大の問題を解決せずして何の政治やある、我金甌無缺の御國體は將に危殆に瀕せんとす。全愛國派の總帥頭山滿翁は憤激一番老軀を提げて出馬した。御國體の御守護を唯一の信條とする頭山翁は如上の事情に鑑み三月七日飯田町の神宮奉齋會に今泉定助、五百木良三、葛生能久、蓑田胸喜、江藤源九郎氏等を會して「邪說擊つべし」の決意を示し、翌八日日比谷三信ビル內東洋軒に明徵派（貴衆兩院議員、在鄕將校、學界、法曹界及び都下愛國團體等）の代表的有志約五十名を招待し、席上「天皇機關說の發表禁止」及

び「美濃部博士の自決」要望を申合せて出席全員を發起人となし「機關說撲滅同盟」を結成、有志大會を催す事に一決した。依つて有志大會は同月十九日午後二時より上野精養軒に開催された。この發起人三百廿七名、出席者約一千名。當日の會場は異常の緊張と興奮に終始し左の宣言決議が滿場一致を以て可決された。

宣　言

上に萬世一系の　天皇を戴き萬民其の治を仰ぎて無窮なるは是れ我が國體の本義なり。

天皇機關說は西洋の思想を以つて我が神聖なる欽定憲法を曲解し國體の本義を攪亂するものにして兇逆不逞斷じて許すべからず。此の邪說を正さずして何の國民精神の作興ぞやっ吾人は玆に國體の本義を明徵にし億兆一心誓つて此の兇逆なる邪說の撲滅を期す

決　議

一、政府は天皇機關說の發表を卽時禁止すべし

二、政府は美濃部達吉及其の一派を一切の公職より去らしめ自決を促すべし

かくて此の宣言決議の示す所に從ひ全發起人を實行委員となしその實現を圖るべく猛運動を開始、翌二十日訪問委員二十三名は二班に分れて第一班は岡田首相、林陸相、大角海相及び近衞貴族院議長鈴木政友會總裁等を、第二班は後藤內相、松田文相及び濱田衆議院議長、町田民政黨總裁、安達國同總裁等を訪問當局に向つて邪說撲滅の實行を促すと共に各方面の奮起と協力とを要求した。此の間兩院の猛擊を受けた岡田首相は右顧左眄ミノベ著書に對し「全體通讀贊成」の暴言を吐露し之を追急さるゝや「一部字句不穩當」の曖昧言辭を弄しひたすら事態を糊塗するに汲々たるものあり、之れが解決處斷に全然無熱意を曝露するの痛憤事を繰返し兩院の空氣は極惡化するに至つたのであつた。その結果貴族院は三月廿日建議案の形式により、衆議院は同廿三日決議案を以て共に全會一致院議により邪說排擊御國體の本義明徵を政府に要求した。それに先立ち江藤代議士は二月廿八日早くも前途を洞察してミノベ告發を東京地方檢事局に提起した上、更に三月七日及び同廿九日の兩度に亘つて追加告發を起し司法裁判の發動を待つた。かゝる經緯をたどり凶逆「機關說」絕滅運動は眞乎國を擧げての重大問題となり第六十七議會は本問題を中心議題となすの觀を呈した。その後撲滅同盟は國聯の五百木氏及び千阪智次郎、佐藤清勝兩中將、一條實孝公爵等と共に前記有志大會の直後二日目の三月廿一日午後六時折柄の大雪を冒し靑山會館に於て「機關說糺彈緊急大會」を開催、之亦痛烈なる左の如き決議案を可決した。

決　議

一、政府は天皇機關說が我國體に反する學說なることを明示し其の責任を明かにすべし

二、軍部大臣は國體及統帥權確保の見地より機關說反對の意思を天下に聲明すべし

三、美濃部博士一派は速かに一切の公職を辭し謹愼すべし

右決議は翌廿二日早朝實行委員卅名により明治神宮の「國體明徵祈願式」後それ〴〵關係當局へ手交された。かくて緊張怱忙の裡に議會も閉會し陽春四月を迎へたが政府の措置一向進捗を見ず、學匪ミノベの處斷が直ちに同種の邪說信奉者たる一木樞相及び金森法制局長官等に波及する影響を怖れて遲疑逡巡を事となすのみか、首相は自からの重大職責を毫も省みる處なく第六十七議會の跡をふり返つて「鰐の面に水」と嘯くに至り、輿論は一轉して「國體明徵卽ち岡田內閣彈劾」と化した。此の間

に處して政府のミノベ處分は僅かに三著書の發賣禁止、二著書の改訂命令を發するのみにて司法處分は何時かな顧みられず、公職辭任もそのまゝに放棄された。こゝに於てか攻擊陣の先鋒は一段と尖鋭化し鄕軍有志も遂に靜觀を捨てゝ續々と各地に蹶起した。此の情勢寸刻も默過し得ざるものあり、撲滅同盟は四月十七日緊急世話人會を開催、翌十八日及び翌々十九日の兩日に亘つて岡田首相及び司法當局たる小原法相、金山次官並に檢察當局たる林檢事總長、光行檢事長、猪俣檢事正、戸澤、太田、長尾、吉江各係檢事を歴訪司法處分の即時發動を要望する所あつた。かくて此間新情勢に適應して國聯を中心に生れた「國體明徵達成聯盟」と行を同じうし當局の爲す處を監視した。然るに一方漸くミノベ先づ蹉跌、金森、一木と順次凋落したが猶未だ「機關說」は撲滅芟除されずして今日に及んでゐる。同盟も亦その目的の一班を貫徹したりとは云へ未だ殘る處甚だ多く其の後の時局に鑑み暫らく靜止の狀態にある。國體明徵の聖戰は何時の日にか終熄する。玉鉾の道ある國にしあれば機に臨み再起蹶起すべく潛かに思ひを練り腕を撫しつゝあるものと思はれる。

國體明徵達成聯盟

創　立　昭和十年六月一日

所在地　芝區田村町二ノ八、櫻田館內

主要人物　五百木良三、岩田愛之助、入江穎矩、猪野毛利榮、西村茂生、小幡虎太郎、大竹貫一、若宮卯之助、河上哲太、倜信夫、葛生能久、山本悌二郎、松林亮、牧野賤男、增田一悅、深澤豐太郎、香渡信、江藤源九郎、薩摩雄次、宮澤裕

思想的學術的迷信凶逆邪說の「天皇機關說」に對する岡田內閣の態度は、第六十七議會に於いてその正體を曝露した。首相岡田は「機關說」問題に對し議會中既にその態度を改變し來つたとは云へ樞相一木を繞る裏面の微妙な諸情勢に制抑されたものが正しき處斷を決行し能はなかつたのは、苟くも事は御國體の大本に直接關する至重至大の問題であるだけに、其の責任はおそらくは後代に及べば及ぶ程追求されねばなるまい。議會直後即ち十年四月七日、之よりさき江藤源九郎氏によつて告發中の機關說派の張本ミノベ達吉は任意出頭の形式に於いて東京地方裁判所に喚問されたが、その翌日當局より著書「逐條憲法精義」以下三著を發賣禁止、二著の改訂を命じられたるのみにて事態は何等の發展を見せない。是に於いてか巷間夙に傳へられつゝあつた不起訴說は愈々有力化し來つた。「三十年學界の定說」は「三千年傳統の大事實」を遂に覆滅せんとするか！　全愛國陣營は沸騰せざるを得ない。大義名分の發する處勢ひ「不明徵內閣」の彈劾とならざるを得ぬ。即ち五月十六日都下愛國陣營各派は日比谷松本樓に「時局懇談會」を開催、「肇國の大義を辨ぜず臣節の如何を解せざる現內閣の下國體明徵は期す能はず」として即時引責處決すべしとの決議を滿場一致可決した。次いで廿日斯界の大先達たる政教社五百木良三氏は廣く各方面の各派代表卅名を日比谷陶々亭に招き懇談協議此の結果重ねて六月一日同所に再會合の上萬般の打合せ成り此處に「國體明徵達成聯盟」が結成された。當日參集の諸氏は以下の如し。

頭山滿、大井成元、井上清純、井田磐楠、菊池武夫、赤池濃、福原俊丸、石光眞臣、堀內文次郎、四王天延孝、南鄕次郎、山路一善、小林順一郎、裏田胸喜、板橋菊松、若宮卯之助、林逸郎、角岡知良、大竹貫一、江藤源

九郎、山本悌二郎、牧野賤男、竹内友治郎、猪野毛利栄、宮澤裕、深澤豐太郎、葛生能久、小幡虎太郎、佃信夫、岩田愛之助、入江種矩、香渡信、増田一悦、松林堯、薩摩雄次氏等約五十名

世話人として頭書の人々が擧げられ直に事務所を櫻田館に設けた。かくて七月九日上野精養軒に「國體明徴・内閣彈劾――全國民總蹶起して國體の明徴を期せ」のスローガンを掲げ「國體明徴達成有志大會」を開催した。會する者一千餘名、五百木氏開會の辭を述べ、座長に葛生氏を推戴、議事に入つて左の如き宣言、決議を全會一致可決次いで實行方法として首相其他訪問の件及び發起人全員を擧げて實行委員として宣言決議の貫徹を期することを一決した。

宣　言

惟みるに我が肇國の大義は宏遠の古に定まりて萬古に易はらず。道義由りて以て立つ、之を宣揚して六合開都八紘爲宇の實を擧ぐるは乃ち日本臣民が天業翼賛の使命とするところなり。機關說は易世革命を常とする外邦立國の法理より出でたる解釋にして神聖なる我國體の本義を沒却するものなり。故に此事、一世の反對を受けて より半歲、志士立ちて之れが撃滅に精進し軍民憂憤之れが剿殄に戮力して今日に至る。然るに何事ぞ、政府當局の其の當を得ず、事の根源に觸るゝを忌みて一時を糊塗せんとし、一に累の二三の重臣に及ばんとするを恐れて、國體の明徴に逡巡し、毫末も誠意の認むべきものなく、即ち國家千載の禍を貽さんとして憚るなし。寔に仰ぎて　祖宗神靈の大前に愧ぢ、俯して後昆の爲めに粛然たらざるを得ず。國體の信を有せざるもの、今日の閣臣の如きは未だ曾て聞かざるところ、以て輔弼の重責にあるは正に天日の明晃を掩蔽するものと謂ふべし。如是のもの焉んぞ克く國體の明徴を期するを得んや。吾人は岡田内閣の引責處決を以て大義闡明の第一歩なりと斷じ、更に萬般の手段を盡して一向專心國體明徴の達成を庶幾せんとす。敢て宣す。

決　議

一、岡田總理大臣は速かに引責自決して譴を　閣下に謝し奉るべし

二、吾人は全力を盡して國體明徴の達成を期し以て皇道宣揚の實を擧げんことを誓ふ

右決議す

尙ほ此の大會には遠く九州より、鎭西乃木會、大日本護國軍久留米軍團、七日會、久留米報德會、久留米在鄕將校有志、皇道義盟、正之會等諸團體の代表が參加した。此の前後、六月廿六日、ミノベを告發中の江藤源九郎氏は神明も照覽あれと感ずる所あり、靈感のまに〳〵邪說芟除に關し「上奏」の手續を内大臣府に執り、又八月に入るや板橋氏は憤然として其の十五日金森長官を「朝憲紊亂罪」に該當するものとして告發狀を提出し次で十七日には追加告發あり、越えて同月廿七日東京に召集された鄕軍大會においては建軍の御精神に鑑みて斷乎「機關說」討つべしとの決意宣明が行はれ事態は愈々急迫を告げた。即ち全國各地において國民大會乃至縣民大會が一齊に開かれる情勢を展開、是に於いてか文部省は憲法起草の任に奉仕した唯一の生存者金子堅太郎伯を煩はして七月十五日より五日間東京に憲法講習會を開催する等の餘儀なきに至つたが、一方に於てミノベの驕慢不謹愼は如上時局を蔑視するかの如く依然不逞内容を盛りたる「法の本質」を刊行し、問題は愈々出でゝ愈々怪奇遂に政府も詮方なく八月三日午後一時國體明徴に關する聲明を發表してその所信を中外に闡明した。然るに何事ぞ、岡田首相は該聲明書發表の直後談話を以て邪說信奉者として定評ありミノベと共に論難の的となりつゝある一木樞相及び金森法制局長官庇護の辯を弄しあたら政府聲明も一片の空文化して終つた。此間「機關說」派に對しては遲疑逡巡の内閣も攻撃陣に對しては頗る勇斷、謂ふ所の「暴力團狩

り」の名に藉口して反噬的の態度を示し來つた。おぞましくも權力を以て其の御國體上至重至大の問題を壓迫せんとするのだ。あゝ何ぞそれ天を怖れざるの甚だしき！　他面政府部内においては九月五日陸相交迭（林大將辭任川島大將就任）及び同十二日遞相交迭（床次氏逝去望月氏就任）等の事があつたが九月十八日遂にミノベ處分は決した。實に小原法相の裁斷は「不起訴」であつたのだ。ミノベに戒慎の情顯著なりといふのが其の主なる理由であつたが。當のミノベは「不起訴」を交換條件的に貴族院議員を拜辭したるのみにて肝心の「學說」に對しては「不變」なる旨を聲明した。學匪の不逞厚顏無恥、當局の周章狼狽、邪說排擊陣の憤激、後にして思へば此時既にして不吉の豫兆はあつたのだ。だが不撓不屈の愛國陣營は愈々奮起し、江藤氏はミノベの近著「法の本質」を捕へて「國憲紊亂」の再告發を翌十九日東京地方檢事局に提起した。その間如何なる畫策が行はれてか廿一日ミノベの聲明取消の旨法相より閣議に報告があつた。しかし這間の重大責任は法相の身邊より拂拭すべくもない。廿三日には貴族院の菊池、井上、井田三男が法相を訪問、思想再檢討を試み遺憾なく其の「不明徴」意志を曝露した。各方面の情勢頓みに切迫せる八月廿六日「達成聯盟」に於いては緊急世話人會を開催、翌廿七日川島陸相及び大角海相に對して、建軍の精神に鑑み速かに順逆理非の道を明斷し以て國體明徴の爲め大義の所信に向つて邁進せられんことを建白した。當局の彌縫糊塗は、重ぬれば重ぬる程馬脚を曝露自縛の觀を呈したが、窮餘の一策十月十五日の再聲明も亦同型同類たるを免れなかつた。之れ只眼前の彌縫に懸命するのみ。御國體に對し奉る確乎たる信念を有せざる天罰である。即ち再聲明の内容は甚だしく欺瞞的にして政府の處斷する對象はミノベ「機關說」にのみ局限され、その元兇たる一木樞相は不問に附すべき意圖を表白、此の聲明書作成に當つては「機關說」信奉者たる金森長官及び清水澄樞密顧問官が關與せる事實を曝露恐懼に堪えざる悲狀を重ぬる事となつた。達成聯盟は廿一日世話人會を開催愈々「不明徴」内閣打倒の强硬意思を嚴守して此一事に驀進するに決した。時恰も全國鄕軍の要望たる全國大會再開は何等かの都合あつたものか中止されるに至つたが、上京中の地方代表は何時かな動ぜず素志の貫徹する迄は歸鄕せずとの悲壯なる決意を表明した。又時局の騷然たるに鑑みその禍殃たる「機關說」絶滅を念願して明德會庄子野利一氏は同月廿五日清水美濃部兩博士を「朝憲紊亂」の罪により告發し、更に不明徴派及び邪說信奉者に取りて一大敵國の觀を呈した原理日本社においても十一月一日畏みて御國體の明徴に邁進する旨の聲明書を發表した。かくて岡田内閣打倒の大喊聲は全國化し、政友會明徴派委員は屢次に亘つて會合し關係閣僚を歷訪して本問題の徹底的解決を慫慂督促した。然るに何ぞ、岡田内閣は十月廿九日源泉を清めずして「教學刷新協議會」を設置したるのみ。然し之等の瞞着的對應策は事毎に世論を刺戟するのみにて鄕軍有志團は「國體擁護鄕軍將校會」を結成して一段と排擊陣を强化せしめた。昭和十一年一月七日、邪說守備陣の一角は遂に陷落した。即ち金森法制局長官の辭任が實現した。しかし之れを以て此の聖戰の鉾先きを回避することは絶對不可能事である。果然本聯盟を楔とする院内政友陣及び院外愛國派の硬化に脅えた政府は、第六十八議會休會明けと共に解散の已むなきに至り、玆に衆議院議員總選擧が行はれた。然しその結果は「民政」黨優位を占め「社大」黨の進出となつて政界の情勢たゞならざる氣配を見せたが政府が北叟笑む時しも二月廿六日不慮の大不祥事が勃發した。所謂二・二六事件がそれであるが、此の偶發的不祥事に依つて岡田内閣は倒壞し、越えて三月十一日一木樞相も遂に辭任した。斯くて廣田内閣の出現となり、庶政刷新の聲明が發せられるに至つたが全愛國派陣營は二月事件に對する全國

民共同の責任を痛感して只管自肅自疆自戒以つて謹愼萬謝の誠意を披瀝し奉つた。我が達成聯盟に於いても亦同斷靜かに祈りを續けて今日に至つてゐる。だが然し聯盟としては其の本來の立場から一刻と雖も徒らに事態を傍觀するものではあるまい。大義名分の大旆の下大悲願達成の爲めに戮心協同廣田內閣を監視しつゝあるものと覺ゆ。

國體擁護聯合會

創　立　昭和七年十二月十八日
所在地　芝區田村町二ノ八、櫻田館內
主要人物　顧問五百木良三、常任委員入江種矩、岩田愛之助、池田弘、林逸郎、金子力三、中村新八郎、松林亮、增田一悅、薩摩雄次、鹽谷慶一郎、下澤秀夫、實川時次郎
機關紙　年報

可惜肇國の神聖大理想を奉戴しながら內外共に自屈退嬰の一途をたどり來つた我が國步は果然昭和六年九月十八日柳條溝の一大爆音を契機として大きな轉換を見せた。卽ち上下全國民の長夜の眠りは覺め、非常時の波濤乘切る躍進日本の威容は內に湧然として日本精神の興起するあり、外に友邦滿洲國の建國と相俟つて皇道宣布翼贊を誓ひまつる眞摯熱烈の正論擡頭あり、恰かも燎原の火の如く全國的に熾烈化した。是に於て肇國の大理想に隨順して昭和維新を念願とする新興團體は相次いで名乘りを擧げ、又左翼の泥土に埋沒中の心ある者も從來の誤謬を淸算して續々と日本主義に轉向し來つた。かゝる情勢下にありながら非合法左翼共產黨の蠢動は執拗に繰返されその潛行する所長くも皇室の藩屏たる華族及び高官の子弟に及び或ひは國防第一線に起つ軍隊內にも侵潤し又は第二國民敎育の重責にある小學敎員を侵蝕する等の憂狀を露呈し然も躍起狂亂せるこれ等非國民の首魁は鞏殼の下荏原區における鬼畜も眉を顰むる慘虐なるリンチ事件を起し、次いで七年十月には大森における白雲銀行襲擊のギャング事件をさへ敢てなすに至つた。この惡虐暴戾！　これをしも放置せんか彼等狂人の兇惡猛毒遂に停止する所なからん。加之その元兇たる風間等の鼠輩取調の進行に從ひ更に深刻なる不祥事相は白日下にさらされた。卽ち神聖なる聽訴の府司法部內に於てして靑年判事尾崎陞及び阪元書記が此の非國民運動に重要人物として關係あるの事實が判明するに至り、尙またその取調によつて中央地方を通じて司法部內に共產黨と聯絡ある者芋蔓式に檢擧されるの痛恨事に際會した。事玆に至る、忠良なる臣民の悲憤慨嘆は其極に達し全愛國陣營は擧げて共匪赤賊の殲滅に向つて氣勢ひ立つた。時なる哉、政敎社五百木良三氏は此の輿論沸騰と熱願興起の實情に卽して全國愛國團體大同團結の烽火を打揚げた。先づ入江種矩、松林亮、實川時次郎、增田一悅諸氏を招き共產黨擊滅、國體擁護の旗幟の下に愛國戰線統一の協議を遂げ更に黑龍會愛國社等と連繫の上都下有力團體に呼びかけ馳せ參ずるもの八十團體此處に一大勢力を結成して內に血盟團、五・一五兩事件、外に國際聯盟との對立激化等多端なりし昭和七年も將に暮れんとする十二月十八日日比谷松本樓において華々しく結盟の式を擧げた。卽ち我が愛國運動史上劃期的の戰線統一綜合團體たる國體擁護聯合會の成立を玆に見たのである。かくて本部事務所を芝區田村町一丁目內田ビル三階に設置八年年頭を期して素志貫徹の猛運動を捲き起

したが本聯合會は最も單式化された組織により統制され會長を定めず會則も規約も有しない。しかし御國體の擁護、天業翼賛に隨順し奉る堅決は確然として構成團體を一體化して大磐石の如き結束を現實にしてゐる。この鞏固なる大團結の力を以て活動の火蓋は先づ大言論陣の進擊によつて切られ八年一月より陽春の交に亘り東京市内主要箇所に共產黨撲滅大演說會を開催すること三十一回パンフレット及びリーフレットの刊行實に數十萬部に及んだ。その間京大教授瀧川幸辰の不逞思想膺懲のため屢々委員を京都に派し京大當局にその處斷を迫る一方當時文相たりし鳩山一郎に重大勸告を試み此の學匪を首途の血祭りに上げた。かくて戰機いよ〳〵熟した五月六日芝公園に「共產黨討滅國民大會」開催を決行したが當日の參會者無慮二萬と算された。席上可決された宣言決議は左の如し。

宣　言

肇國三千歲、未だ曾つて有らざる者之を日本共產黨となす、專ら階級の鬪爭を說きて天理人道を破壞せんとし勞農專制の革命を叫びて國體覆滅の不軌を圖る殊に指令を赤露に仰ぎて我皇天后土を彼等赤賊の外奴に衒らんとするに至つては眞に是れ滔天の罪斷じて許容すべからざる也

一人の共產黨あるも仍ほ日本帝國の一大汚點、日本國民の一大恥辱なり、然るに爾來此徒の帝國に跳梁するもの實に萬千の多きを以て算するに至り、文敎の府と云はず、聽訴の廷と云はず將た　皇室藩屏の華胄界も、大官名門の子弟等も亦た齊しく其の染浸する所となり、今や將に國家の干城たる軍隊にすら其魔手を揮はんとす、事此に至つては敢て朝野を問はず、苟くも生を皇土に享くるもの敢然蹶起以て之が剿滅を期せざるべからず玆に國民大會を開催し共產黨の絕滅を計ると共に一切の禍因を掃蕩し、灼爍たる天日と共に肇國の宏謨を顯揚し奉らんことを期す

敢て宣す

決　議

一、肇國の大義を闡明し以て國民精神の作興に努むべし

二、共產黨に對する根本對策を確立し速かに其根絕を期すべし

三、苟くも共產黨を看過培養するが如き者は其何たるを問はず斷然之を一掃すべし

「共產黨討滅國民大會」は一部赤賊分子の跳梁跋扈に憤懣の情抑え難き帝都市民の祖國的感情とピッタリ合致し之れがため氣勢大いに擧がり大會後二萬の會衆は當日の座長土方寧博士を擁して四列縱隊堂々と市街行進を起し二重橋前に至り宮城を遙拜して御國體の護持奉公に至誠盡瘁する事を誓ひ奉り　聖壽萬歲を奉唱更に靖國神社に至つて護國の神靈に目的貫徹の祈願を籠めた。なほ代表者は當日の宣言決議文を政府要路に手交してその實行を熱求するところあつた。此の皇民意識宣揚の大運動高潮の折柄、偶々海の彼方獨逸においてその國是に背馳する共產主義圖書の焚書斷行の事起るや何事ぞ無恥狂態の左翼並に自由主義者一連の徒輩は日本國民の總意の如く僭稱して遙々抗議書を獨逸政府に送り共產黨庇護の態度に出でた。國體擁護聯合會は六月八日附を以てヒットラー氏宛全人類の公敵共產主義及び此種不良文藝書一掃の英斷を賞で獨逸國民の福祉を熱禱する旨の聲明を電送して日本國民の信念を明確に傳へた。かくて內外に亘つて赤賊討滅のために奮戰したが此の年三月廿七日には滿洲國承認問題を挾み我が國は遂に國際聯盟と袂を分ち自立獨往の本然的姿に復歸すると共に所謂「一九三六年」の危局に直面するに至つた。此處に於いて本聯合會は八年十一月廿五日再び芝公園に國民大會を決行した。曩の「赤賊討滅」の大會に優るとも劣らぬ盛況の下「非常時突破、昭和維新斷行」を

合言葉にして頭山滿、田中光顯兩翁をはじめ聯合會加盟各團體は勿論、鄕軍有志、學界、法曹界、中商工業者、勞働界諸有志並に全國各府縣代表等字義通り國民各層代表を一丸として結集、蛟龍雲を呼ぶの概を如實に示す宣言決議を可決した。宣言においては「國家非常の時局を打開して將に來らんとする對外的危險線を突破するの經綸勇斷」を喫緊事となすの秋、當時の政府齋藤內閣の老耄無能者の退隱を先づ以て要望した。これに基く決議は左の如くである。

決　議

一、皇國內外の情勢に鑑み昭和維新を斷行すべし

二、老耄無能の齋藤內閣は卽時辭職すべし

三、非常時局を處理し得べき强力內閣の出現を望む

而して此の大會前後における國聯の活躍は、此の決議と同一趣旨の抱負實現を目指して勇往邁進したことは勿論だ。此頃五・一五事件連座諸士の減刑運動を捲起し國聯の名において全國より蒐集し得た減刑嘆願書は實に十五萬六千九百四十通の多きに達した。又大會を中心として昭和維新斷行の演說會を開くこと百六十七回、リーフレットの發行部數三十萬に及び加盟團體及び地方同憂諸團體を總動員して全國民の愛國心に懇へその奮起を唱導した。かくてその年は十二月廿三日一億萬蒼生を擧げて奉祝申上げた宮中の御慶事皇太子殿下の御降誕を拜して瑞祥滿天滿地の御吉慶の裡に暮れて明くれば芽出度き昭和九年元旦國聯の活動は此元旦早々にして華々しく第一彈を放つた。卽ち一月一日午前零時を期して加盟各團體代表多數は「昭和維新斷行」と墨書せる白鉢卷、素足にワラジといふいでたちで明治神宮に參拜、神明の大御前に嚴肅なる祈願熱禱を籠めた。此至誠よく神明の加護を得てか二月十一日紀元節の佳辰恩赦の大命煥發の御盛事を仰ぎ、佐鄕屋留雄君及び五・一五事件並に血盟團の諸士は打揃つて畏こけれども無邊の君德に浴し、聯合會員は擧げて鴻恩の厚きに感泣しいよ〳〵忠誠一途御奉公を誓ひ奉つた。時恰も商相中島久萬吉はその身男爵を賜ひ、君恩衆にぬきんずる光榮をも顧みず雜誌「現代」二月號に不倶戴天の大逆賊足利高氏絕讃の漫筆を弄するのことあり、天威を恐れざるの甚だしきものと言はんかこの大不祥事に憤激した國聯は直に起つて大義闡明＝中島糺彈の猛運動を起し成功を納めた。卽ち一月廿六日宮內當局に斷乎たる措置を要望したるを始め或ひは開會中の議院內の正論派と提携して政府に猛襲し、或ひは又獨自の立場に於て演說會により輿論を喚起し、一方當の中島に對しては二月八日「國務大臣卽時辭任」「皇室の榮爵殊遇拜辭」「一切の公職辭任謹愼」の決議文を突き付け、その足で疾風の如き活躍を展開して議院內の軟論者約廿名に反省を求めたがその當日商相の辭任が實現した。引續き齋藤首相の責任糺明に鉾をしごき聖戰に奮迅する中謂ふ所の「大藏省事件」卽ち「帝人」「神鋼」株を繞る綱紀肅正問題が白日下に曝露されこゝに至つて齋藤內閣の存在は最早一日も之を許すべからざる事態を招致したので國聯は敢然として糺彈猛追し、要路に建白或ひは演說會に活舞臺を展開したが、本運動中の白眉は入江、增田兩氏以下代表十三氏による快擧「箱根越へ」興津に西園寺訪問のそれであつた。時は三月二日午前七時卅分某所に集合せる十三氏は「重大國政に關する意見書」――大義蹂躪綱紀紊亂大臣奏薦、統督の責任を解せざる老耄齋藤內閣の消滅と、後繼正義强力內閣出現とを要望せる――を携へて、途中官憲其他の阻止等を避ける爲め先づ小田原に至り自動車三臺に分乘、箱根山道を越し午後一時半目的の坐漁莊訪問に成功した。かくて熊谷執事を通じて意見書を老公西園寺に手交、歸途淸見寺に立ち寄り問題の「高氏の木像」を首實見中島商相の

絶讃せるが如き「豐頰圓滿、柔和福德」等肯綮に値ひする何物もなきを觀取し唾して去るの挿話を生んだ。此の快擧に次いで同月八、九兩日に亘り前記西園寺公への意見書と同樣內容の要望書を携へて重臣大官及び有力者の間を歷訪した。右建白書に附記せる「非常時內閣組織に對する要望」は爾來國聯の常に叫んでその實現を熱望する處であり、その骨子は左の如し。

一、敬昊、識見、經綸、氣魄を有せざる可からず
二、舊來の情實と陋習とを排除し得ざる可からず
三、人格と身分とを嚴撰すべし
四、純潔にして瑕瑾なきを要す
五、氣鋭、有爲の人材たるべし

爾來「機關說」根絶、國體明徵運動に本聯合會は之が中堅となつて健鬪甚だ努むる所あつた。而も之と平行して對外的にも皇道宣布翼賛を念願して滿洲問題についても關心頗る深く、されば此の年三月一日滿洲國執政溥儀氏が登極の盛典を擧げ帝政を發布さるゝに當り、聯合會は二月廿五日愛國義勇隊所屬飛行機「阿蘇」號を特派して賀表を捧呈、次いで同國の答訪使節鄭總理一行の來朝あるや四月三日神武天皇祭の佳辰をトして頭山滿翁、有馬良橋海軍大將、田中光顯翁、一條實孝公爵以下愛國陣營の有志五千名參列裡に明治神宮外苑日本青年館に「歡迎國民大交驩會」を開催歷史的國民外交の實を擧げた。澎湃たる正義の大濤はかゝる裡にも刻一刻と高まり遂に老耄無能齋藤內閣は七月三日總辭職、同八日後繼岡田內閣の成立を見るや其前日聯合會は「新內閣の行爲に對し最も嚴重なる監視を加へ機に臨み時に應じて蹶起直ちに之を擊倒すべきの用意を有す」る旨聲明書を發し岡田內閣に首途の

餞けとした。首相岡田大將は愛國派に取り夢寐にだも忘る能はざる倫敦條約締結大義濠晦の主要人物の一人にして此の大將に期待する何物をも有し得なかつたのだ。果然華府條約速時廢棄通告運動、在滿機構問題、官紀紊亂是正運動、北鐵讓渡問題等々、對內外重要問題は相次いで起りその都度聯合會は文書或ひは言論の巨陣を進めたのであつた。就中凶逆「機關說」絶滅、國體明徵徹底の猛運動は我が尊嚴無比なる御國體の大本に關し奉る至重至大の問題であるだけに聯合會幹部は勿論加盟各團體は總結束して寢食を忘れ猛奮勇鬪した。卽ち獨自の立場においての健鬪、或ひは旣述の如く「機關說撲滅同盟」及「國體明徵達成聯盟」に重要役割を演じ、殊に後者においてはその主動勢力として貴衆兩院の明徵派議員を糾合しそれに國民各層の有志を加へて奮鬪勇戰之れ努めた。その活動の主流は旣に「撲滅同盟」及び「達成聯盟」の項において述べたるを以て此處には重複を避けて省略することを諒とされ度い。唯此聖戰裡一二の努力を略述すれば十年一月長文のリーフレット「美濃部達吉博士、末弘嚴太郎博士等の國憲紊亂思想に就て」を天下に發表しこれが排擊撲滅に向つて全日本主義愛國團體同志に懇へて火蓋を切り三月に入るや其九日靑山會館に總會を開き「這個凶逆思想と之を支持し庇護せんとする反國體派の一掃を計り以て大義明徵の使命に邁進せんことを期す」事を決議宣明した。次いで又五月十六日には日比谷松本樓に會して岡田不明徵內閣彈劾決議を可決、前進に前進を重ねたが此間刊行の小冊子並にリーフレットは五十萬部を突破しポスター六萬枚、立看板六百本を算してゐる。斯くて今夏事務所を頭書の位置に移し活動聯絡に便すると共に這次「政黨政治」「憲政常道論」爆擊の聲明書を滿天下に發表し玆に再び聖戰の火蓋を切つた。その活動やまた熾んなるべく期待される。因みに聯合會加盟團體中二、三解消せるものあるが他は堅固の陣を維持し現在八十五團體を擁してゐる。

卽ち左の如し。

「加盟團體」　政教社、黑龍會、愛國社、明德會、回天時報社、對外同志會、勤王聯盟、建國會、帝國新報社、日本新聞社、大正赤心團、大同聯盟、大日本生產黨、愛國新聞社、愛國法實聯盟、愛國學生聯盟、旋風社、洗心莊、愛國青年聯盟、愛國勞働聯盟、東亞聯盟義會、大日本經國聯盟、大統社、大日本愛國義團、大乘會、大化會、勤王會、全日本興國同志會、興國義會、皇風會、原理日本軍、大日本殉國會、救國學生同盟、國志同盟、汗山莊、東亞社、原理日本社、大日本奉公團、神洲護國團、愛國青年同盟、大義社、國士同盟會、聖日本學會、東洋共存會、大日本國輝會、星共社、鶴鳴莊、皇國擁護會、大日本守國會、皇維會、大和民勞會、日本國民軍、白王社、興國社、昭和同志會、五月黨、民力振興會、地湧日本社、護國勞働社同盟、大亞細亞民族會、內外更始倶樂部、立憲皇民黨、新日本建設同盟、關東玄洋社、大日本古神道實行團、大日本倶樂部、眞日本建設同盟、大道會、七生社、風雲倶樂部、立憲革新青年黨、北溟會、舊邦社、昭和義塾、殉國會、大日本護國青年黨、大日本進興倶樂部、神洲青年蓮光會、愛國勞働農民同志會、信統會、幸福會、大輝會、敬神崇祖聯盟、廣島興國同志會、皇國日本社（順序不同）

對支同志聯合會（た之部追加）

創立　昭和十一年十一月二十四日

所在地　芝區田村町二ノ八、櫻田館內

主要人物　五百木良三、佃信夫、增田正雄、入江種矩、須藤理助、三武錠史、佐藤良信、小山內大六（以下幹事）中村新八郎、佐藤正吾、金子力三、薩摩雄次、赤尾敏、濱地隆生、下澤秀夫、野口幹、浦部武雄、山根謙一

成都、北海、上海の各地に捲き起つた支那の排日情勢に憤激、民間各派有志は五百木良三、增田正雄、入江種矩、中村新八郎、下澤秀夫、薩摩雄次氏等を中心に去る十月十二日麴町區內幸町大阪ビル內レインボーグリルに集合、各自情報を持ち寄つて赤裸々なる意見の交換を遂げ、此結果南京政權及び國民黨の狂暴並に其の背後に糸を操る赤露と英國の對極東野心を粉碎すべく意見の一致を見尙ほ暫らく時局の推移を觀る事となつたのであつたが、其後綏遠問題の勃發となり日支交涉は川越張第八次會見を控えて遂に極惡化而も我が外務當局の態度たるや優柔不斷近時稀に見る失態を曝露加之一方日蘇關係亦十一月廿日正式調印の筈なりし漁業協定に蘇聯側は突如之を遲延するの不遜あり全面的に我が極東外交々涉の意氣甚だ上らざるものあるや、前記十月十二日會合の有志は再び十一月廿四日午後二時より處も同じレインボーグリルに集合

佃信夫、五百木良三、增田正雄、小山內大六、須藤理助、入江種矩、宮澤裕、松本德明、山根謙一、佐藤良信、平野小劍、佐藤正吾、高畑正、金子力三、三武錠史、野口幹、神保幸三郎、前田芳藏、赤尾敏、濱地隆生、中村新八郎、薩摩雄次氏等

三十餘名參集、十一月二日北支より歸朝の佃氏の現地諸情勢を聽取後、下澤氏より對支問題切迫の折柄此際國本外交顯揚の爲め蹶起の要ある事を力調して新團體結成を提案滿場異議なく贊成、第一次第二次會合の諸氏を以て「對支同志聯合會」を形成する事となつた。續いて運動の基幹大綱として

一、對支交涉打切り暴支膺懲

一、緩遠問題に關しては防共の立場より內蒙自治軍の援助

一、對ソ國交斷絶

を決定する處あつた。以上の大綱によつて關係當局の鞭韃、國民に對する對支對ソ問題の認識把握等の運動が起されるものと思はるゝが、實際上の動きは今後の事實に見るべきである。

昭和十一年十二月三日　印刷
昭和十一年十二月七日　發行

【非賣品】

著者　東京市京橋區銀座四ノ五　帝國新報社
責任者　東京市京橋區銀座四ノ五　三宅正夫
發行者　東京市芝區新橋二ノ四八　小崎一誠
印刷者　代表者　福井安久太　安久社

不許複製

發行所　東京市京橋區銀座四丁目五番地　株式會社　帝國新報社
電話京橋(56)八四三〇番八六一八番